

『北東日報』『釧路新聞』掲載  
アイヌ関係記事（1901～1942年）  
：目録と紹介

『北東日報』『釧路新聞』掲載アイヌ関係記事（一九〇一～一九四三年）目録と紹介

北海道立アイヌ民族文化研究センター調査研究報告書 6

二〇一〇年三月

『北東日報』『釧路新聞』掲載  
アイヌ関係記事（1901～1942年）  
：目録と紹介

## 序

北海道立アイヌ民族文化研究センターでは、中・長期的な調査研究事業の成果などをまとめた形で提供するため、平成16年度より、研究紀要の別冊として『北海道立アイヌ民族文化研究センター調査研究報告書』を刊行しています。

6冊目にあたる本書は、当研究センターの研究職員・小川正人による、「『北東日報』『釧路新聞』掲載アイヌ関係記事（1901～1942年）：目録と紹介」を掲載しました。これは、当研究センターが平成16～20年度において実施した研究課題「アイヌ史関係新聞記事資料に関する調査研究（釧路地方）」の成果報告として、釧路地方で戦前に発行された新聞の紙面を調査し、アイヌ史関係の記事を目録にまとめ、主要な記事を紹介するとともに、解説その他の参考資料を併せてまとめたものです。

新聞記事にはその時代の社会の動きや生活文化などが様々なかたちで記録されます。とりわけ、道内の各地域で発行される新聞には、その地域の記録がより多く残されており、アイヌ史研究にとっても、人々の動きや社会の認識の様子などをうかがうことのできる、重要な資料群の一つです。近年、インターネット等の普及により、新聞記事などの情報を検索する手段も整備されつつありますが、古い時代に各地域で発行された新聞については、基礎的な資料収集が依然として必要です。一方で、特に古い時代の新聞記事には、偏った見方や誤った事実認識に基づく記述や、プライバシーへの配慮を欠いた記述なども見られますので、こうした問題点や注意点を慎重に取り扱うことも求められます。

本研究課題は、このような考え方にに基づき、戦前に道内の各地域で発行された新聞を、アイヌ史の基礎的資料の整備という視点のもとに調査し、関係する記事を収集し整理していくことを目指したものです。これまで、胆振・日高地方について実施しており（平成13～15年度）、今回の調査はこれに引き続き、釧路地方で発行された新聞を対象としたものです。

特に近年は、アイヌの歴史・文化に関する学習・伝承活動の広がりや、学校教育における教材づくり等において、より地域と密接に関わる資料が求められています。本書が、アイヌの文化や歴史に関する調査研究等に寄与することができれば幸いです。

最後になりましたが、新聞記事の調査について特段のご配慮をいただきました、市立釧路図書館及び釧路市総務部地域史料室をはじめ、函館市中央図書館その他の関係機関に感謝するとともに、今後も当センターの事業にご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成22年3月

北海道立アイヌ民族文化研究センター

---

# 目 次

---

C O N T E N T S

序

目次

凡例

I	はじめに .....	1
II	記事目録 .....	10
1	北東日報（1901年） .....	10
2	釧路新聞（1902～1942年） .....	13
III	主要記事紹介 .....	59
IV	参考資料 .....	87
1	釧路地方概要図 .....	87
2	アイヌ関係新聞記事目録一覧 .....	88

## 凡 例

- 1 本書は、北海道立アイヌ民族文化研究センターが実施した研究課題「アイヌ史関係新聞記事資料に関する調査研究（釧路地方）」（事業期間：平成16～20年度）の成果報告書として編集したものである。
- 2 記事目録及び記事紹介の凡例は、それぞれの最初のページに記載した。  
本書全体を通して、資料の引用部分や記事の表題などには、今日では適切とは言えない用語や表現もあるが、学術資料としての性格上、また、その時代の認識を記録する必要から、そのままとしている。
- 3 本文の記述では、謝辞などを除き、原則として敬称を省略した。
- 4 この研究課題には、主に北海道立アイヌ民族文化研究センター研究職員小川正人が従事した。本書の編集も主に小川が行っている。

# I はじめに

本書は、北海道立アイヌ民族文化研究センターによる研究課題「アイヌ史関係新聞記事資料に関する調査研究（釧路地方）」（実施期間：2004～2008年度）の成果報告書である。以下、この「はじめに」では、本研究課題の目的とその意義（1-1）、本研究課題の調査対象である釧路地域発行の新聞紙の歴史の概要と資料の残存状況（1-2）、先行研究の状況（1-3）、本研究課題における調査の方法（1-4）及び本研究課題により得られた関係記事の概要（1-5）について述べる。

なお、筆者はこれまでも、本研究課題と同様の目的のもとに、『十勝毎日新聞』及び『室蘭毎日新聞』の記事調査を行っており、それぞれの成果報告においても、研究の目的・意義及び先行研究の状況等について述べてきた<sup>(1)</sup>。以下の、特に1-1、1-3及び1-4の内容は、これらと重複するところが多いことを予め断っておく。

## 1-1 本研究課題の目的

新聞記事が、社会の様々な動向を反映し記録している点で、近現代史の重要な資料の一つとなり得ることは言をまたない。勿論、その利用に際しては、記事の記述そのものに対する資料批判が求められるばかりでなく、そもそも何が記事になり、何が報道されていないのかという問題を常に意識しておかねばならない。特に本研究課題のようなテーマの場合、後述（1-4）するように、「アイヌ関係記事」という括り方そのものが持つ問題を、编者である筆者も、そして読者も、絶えず意識しておかねばならない。それでも、新聞記事によって知ることのできる政治・行政の動向は少なくないし、特に地域紙が報じる情報には、それぞれの地域に関する、今となっては他で得ることのできないものが多い。

近代アイヌ史における資料の問題を考えると、例えば公文書資料は全体的な分量も少なく、残されている時代・地域にも偏りが大きい。体験記録や聞き取り資料は、他で得ることのできない情報や示唆を含む重要な記録ではあるけれども、今となってはそれを得ることができない時代や地域もまた少なくない。こうした点から見れば、新聞記事は、やはり時代や地域における残存状況の濃淡の差

---

(1) 『十勝毎日新聞』については山田伸一氏（北海道開拓記念館学芸員）と共同で行い、その成果は、小川・山田伸一（編）「十勝毎日新聞（1920-1939年）掲載アイヌ関係記事：目録と紹介」(1)、(2)『帯広百年記念館紀要』第19、20号、帯広百年記念館、2001年3月及び2002年3月、としてまとめた。

『室蘭毎日新聞』を中心とする胆振・日高地域発行紙の調査については、小川『『室蘭毎日新聞』掲載アイヌ関係記事：目録と紹介』(1)、(2)『アイヌ民族博物館研究報告』第8、9号、財団法人アイヌ民族博物館、2004年3月及び2006年3月、としてまとめた。

はあるものの、他の資料と同様に、近現代のアイヌ史を明らかにしていくに際して、欠かせない基礎的な資料群としての位置を占めている。

I  
新聞記事が広く利用されるためには、新聞資料そのものが保存され、マイクロフィルム・複製（縮刷版）あるいはデジタルデータとして閲覧できる条件が確保されるとともに、膨大な紙面の中から記事を調査・検索するための方法が整備されることが望ましい。

この点については、近年、『読売新聞』が明治初年の創刊以後の本社発行紙面の全てをデジタルデータ化した記事データベースを構築し、任意語による記事検索を可能にするなど、一部の全国紙については目覚ましい勢いで利用環境の整備が進みつつある<sup>(2)</sup>。しかし都道府県単位の地方紙については、かかる包括的なデジタルデータ化は当面期待できない。道内の各地域で発行された新聞は尚更であろう。このような新聞については、紙面を通覧して記事の目録や索引を整備していくことが、依然として重要な基礎的作業である。

本研究課題は、以上のような認識に基づき、道内各地域で発行された新聞を調査しようとするもので、先に2001～2003年度において実施した胆振・日高地方を対象とした調査に引き続くものである。本研究課題が最初に胆振・日高地方を取り上げたのは、北海道内で統計上のアイヌの人口がもっとも多い地域だったからであり、今回、釧路地方を対象としたのは、統計上のアイヌの人口が比較的多い地域であることに加え、後述する（1－2、1－5）とおり1901年から1942年までのほぼ40年間を通して新聞資料が残されており、隣接する十勝、北見、根室地方にとっても貴重な資料が得られることが見込めたからである<sup>(3)</sup>。

なお本研究課題は、今回の釧路地方の後も継続しており、現在（2009年度～）は道内でもっとも古く（1870年代末）からの新聞がまとまって残されている渡島地方の調査を開始している。近い将来において、これらの成果を集成し、道内各地域発行新聞の記事目録及び主要な記事のテキストデータを

---

(2) 『読売新聞』は、有料の情報データベース「ヨミダス歴史館」を開設し、2009年までに、明治初年の創刊から現在までの本社発行版の紙面の検索を可能にした。『朝日新聞』も、2010年春には創刊（1879年）から現在までの本社発行版の紙面のデータベースを有料公開する予定である。

(3) 十勝地方については、1998～2000年にかけて、山田伸一氏と共同で『十勝毎日新聞』の調査を行った。これは、この前年度まで幕別町教育委員会による吉田菊太郎資料の整理事業に参加させていただくことができた機会に、その関連資料として地元紙の調査に着手したことがきっかけである。

北見地方及び根室地方についても、筆者は既に調査を行い、おおよその目録を作成している。これらの成果については他日まとめて発表したいと考えている。

なお、『北海道庁統計書』の掲げる1918年の人口統計では、支庁別のアイヌ人口が最も多いのは日高（当時は浦河支庁）の5,821人、次いで胆振（当時は室蘭支庁）の3,619人であり、これに次ぐのが釧路の1,676人、十勝（当時は河西支庁）の1,561人である。

とりまとめ、近代アイヌ史の基礎的な研究情報資源整備の一環としていきたいと考えてる。

## 1-2 釧路地方発行の新聞紙の歴史

1942年のいわゆる地方新聞の戦時統合により『北海道新聞』が登場するまでの、釧路地方における新聞の歴史を概観する<sup>(4)</sup>。

最初の地元発行の新聞は、1894年に厚岸で創刊された『厚岸新聞』だとされるが、3年間継続したものの廃刊になったとされ、公的機関で現存する紙面は確認できない。

1900年10月に『釧路新聞』が創刊される。1900年は釧路に町制が施行された年であり、同年の釧路市の統計上の人口はほぼ10,000人であった。

同紙は年末には廃刊となるものの、翌1901年1月に同じ設備を用いた継承紙『北東日報』が創刊される。釧路地方の新聞のうち、公的機関で所蔵が確認できるものでは、この『北東日報』創刊号（号数は『釧路新聞』からの継続で第59号、1901年1月2日付け）がもっとも古い。しかし同紙は1901年11月の釧路市の大火で類焼し廃刊となる。

長く続いたのは、1902年7月に創刊された『釧路新聞』である。当初は週刊で、1904年12月から日刊となり、1942年の戦時統合まで継続した。新聞史上では、石川啄木が在社したことでも知られている。『釧路新聞』は原紙もよく保存されており、途中しばしば欠号があるものの、戦前期の北海道内の地域発行新聞で、ほぼ40年間にわたってまとまって保

新聞名	期間	備考
北東日報	1901（明治34）年1月～11月	原紙所蔵：釧路市 マイクロフィルム：北海道立図書館
釧路新聞	1902（明治35）年7月～1942（昭和17）年10月	原紙所蔵：釧路市 マイクロフィルム：北海道立図書館 ※長期間（一ヶ月以上）の欠号； 1908年10月～1909年1月 1913年5月21日付～12月1915年11月 1921年1月～1922年1月1924年1月11日～3月5月～11月 1927年1月～4月 1929年～1930年 1932年2月～3月5月～12月 1934年1月～3月1日付 1938年12月14日付～1939年1月11日付 1939年10月 1940年3月5月～7月9月 1941年10月 1941年12月～1942年1月
厚岸魁新聞	1918（大正7）年11月22日付（第143号）	函館市中央図書館所蔵

(4) 以下、新聞の歴史に関する記述は、『新北海道史 第4巻通説3』（北海道、1973年）、『同 第5巻通説4』（同、1975年）、『新釧路市史 第3巻 社会・文化編』（釧路市、1972年）、佐藤忠雄『新聞にみる 北海道の明治・大正』（北海道新聞社、1980年）及び功刀真一『北海道・樺太の新聞雑誌』（同、1985年）を参照した。また、新聞資料の所在状況については、北海道立図書館北方資料部（編）『北海道地方新聞所在目録 改訂版』（改訂第2版、北海道立図書館、2009年。同館のホームページ上で閲覧及びダウンロードが可能である）及国立国会図書館による「全国新聞総合目録データベース」（同館のホームページ上で利用可能である）を参照した。

存されているのは希少である<sup>5)</sup>。

この他では、釧路において1907年に『北東時報』、1909年に『釧路日報』、1910年に『釧路商業新聞』、1914年に『釧路毎日新聞』などが、厚岸でも1916年に『厚岸新聞』、1917年に『厚岸魁新聞』などの創刊が見られるが、長く続いたものは少なく、また現存するものも極めて限られている。

本研究課題において調査した新聞を前ページの表にまとめた。ほとんどが1901年の『北東日報』及び1902年から42年までの『釧路新聞』であるのは、上記のような状況によるが、発行された新聞の号数などから推測すれば、釧路地方で実際に発行された新聞の少なくとも過半は調査できたことになるはずである。

### 1-3 先行研究の状況

釧路地方の新聞については、本研究課題のような問題関心と方法による資料調査は未だ行われたことがない。ここでは、アイヌ史に関する新聞記事資料の調査にかかる研究動向の全般を概観し、本研究課題における対象と調査方法の位置を確認しておく。なお、これまでの新聞記事目録の一覧を本書「IV」に掲載したので参照されたい。

アイヌ史関係記事を主題とした新聞記事調査の成果として、今なお基本的な位置を占めるのは、北海道ウタリ協会（現北海道アイヌ協会）による『アイヌ史 資料編4 近現代資料(2)』（北海道ウタリ協会、1989年）が掲載する記事目録と主要記事の紹介である。同書の1945年以前の部分は、『北海道毎日新聞』（のち『北海タイムス』。1942年の『北海道新聞』発足は同紙を中心とするかたちで統合が行われた）を中心に、主として全道規模の新聞を明治初期から通覧するという膨大な調査に基づいている点が重要である。

近年、新聞記事調査の成果が幾つか発表されるようになった。全道紙については、河野本道による『小樽新聞』の調査（河野本道（編著）『アイヌ史新聞年表：『小樽新聞』（明治期）編』、『同（大正期Ⅰ）編』、『同（大正期Ⅱ・昭和期Ⅰ）編』、『同（昭和期Ⅱ）編』國學院短期大学コミュニティカレッジセンター、2004、6、8、9年）が、『北海タイムス』と並ぶ道内の主要紙であった『小樽新聞』の、創刊（1895年）から1935年までの記事目録をまとめている。記事の見出しのほか、内容の梗概を付記している点がこのシリーズの特徴である。

サハリンの新聞については、『樺太日日新聞』掲載のサハリン先住民族に関する記事データペー

---

5) なお調査の余地があるのは、個人や団体が遺した新聞記事の切り抜き（スクラップ）である。これについては、本研究課題の一環として調査を継続しており、他日補遺などのかたちでまとめたいと考えている。

ス』（『古河講堂「旧標本庫」人骨問題 報告書Ⅱ』北海道大学大学院文学研究科・文学部、2004年）が、上記の『アイヌ史』と同様、一冊で創刊から敗戦までを通覧して記事目録を掲載している点で、重要な成果となっている。

一方で、道内の各地域で発行された新聞に関するものとなると、本研究課題に関連するものを除けば、かかる基礎的な資料調査の成果の公刊をほとんど見ることができない。もちろん、地域の歴史資料としての新聞記事の重要性そのものは認識されていると言ってよく、個々の研究書や自治体史の編さんなどにおいて、新聞記事は繰り返し調査され収集されている。地域によっては、葛西一夫『明治の光陰35年—新聞に見る登別・室蘭』（袖珍書林、1990年）<sup>6)</sup>や、鈴木トミエ（編著）『新聞に見る 石狩・厚田・浜益 歴史年表』第1号～第6号（石狩市地方史研究会、2004～2009年）<sup>7)</sup>のような貴重な蓄積を見ることもできる。しかしながら、ことアイヌ史に関しては、各地域に散在する資料について直接調査するという調査研究の蓄積は乏しく、その必要性は、現在も依然として変わりはない。

#### 1-4 本研究課題における記事調査の方法

本研究課題における新聞記事調査は、①対象とした地域で発行された新聞で、紙面の閲覧調査が可能であるものの所在を可能な限り調べた上で、②確認できた全ての紙面を悉皆的に通覧し、そこからアイヌ史関係の記事を抽出する、という手順で行った。

ここでいうアイヌ史関係の記事とは、アイヌの寄稿や発言・活動の記録はもとより、アイヌに関わる行政の施策とその動向、地域の歴史や文化を扱った文章の中でアイヌに触れているもの、連載小説や短歌・俳句でアイヌに触れているもののほか、記事の内容そのものはアイヌに関係するものではなくても、比喩や例示で「アイヌ」に言及のある場合も関係資料と見なしている。また、アイヌ史上に深く関わる人物の文章や動向の記録については、その記事の内容が直接関係するものではなくても、参考情報として目録に収録するようにした。本書では永久保秀二郎、三浦政治（いずれも春採尋常小学校教員）や更科源蔵（詩人。戦前は小学校教員をつとめ、のちアイヌ文化研究で知られる）らに関する記事がこれに該当する。いっぽうで、国内・外の他の植民地に関する記事や差別・人権問題に関

(6) 同書は、明治期に発行された道内紙のうち1889年までの『函館新聞』及び1887年創刊以降の『北海タイムス』（前身の『北海新聞』『北海道毎日新聞』を含む）を調査し、室蘭、登別関係の記事を目録化したものである。記事内容に関する簡潔なまとめも付記されており検索に便利で、アイヌ関係の記事も散見することができる。

(7) このシリーズは、現在の石狩市域に相当する、旧石狩町、厚田村、浜益村に関係する新聞記事について、『函館新聞』『北海道毎日新聞』『小樽新聞』を調査して作成された記事目録である。第6号で1899年までの記事目録が刊行されている。記事の梗概を付記しているほか、「スポット探索」と題して、さまざまなテーマごとに記事とその関連情報をまとめて紹介するコーナーを設けている点などが特徴である。

する記事には、アイヌ史研究において参照すべき資料として意味を有するものも少なくないし、それがこの地域で報じられたことの意味にも着目すべきではあるが、この目録ではごく一部を参考記事として掲載した以外は、全て割愛している。

このような「関係記事」の抽出には、幾つかの限界がつかまとう点には十分な注意を払わなければならない。

一つは、新聞が記事として取り上げていない、少なくとも筆者には記事を確認できなかった出来事が少なくないということである。例えば、1930年に「北海アイヌ協会」から刊行された『蝦夷の光』には、白糠からの寄稿者がいるにもかかわらず、この地域の新聞からはあまり報道を確認できてない。今日では比較的著名になった知里幸恵『アイヌ神謡集』（1923年）や、遠星北斗『コタン』（1930年）等について触れた記事も確認できなかった。また、春採尋常小学校に関する記事の件数も、時期による多寡の差がいちじるしい。言い換えれば、報道されて然るべき事柄について記事がない、ということ自体も、その出来事に関する一つの資料として見通せる視点が必要だということでもある。

いま一つ注意すべきは、記事が表立ってアイヌに関係することだと述べていない場合は、選択から漏れる場合が多いということである。そしてそれ以前に、そもそも何をもって「アイヌ」であることを判断できるのか、という問題がある。例えばある人の活動を報じた記事について、その記事がその人物を「アイヌ」だと書けば、またはアイヌ史上比較的著名な人物であれば、その記事は関係記事と認定される。しかし、ふつうの住民として記事に描かれている場合はそのような認定からは除外される<sup>(8)</sup>。あるいは、広く地域や国政全般に関わるような出来事は、そこに暮らすアイヌにとっては深く関わる問題であるけれども、これらの記事もまた本書のような目録では対象から外れることになる。本書に限らず、「関係記事」という範囲は、当時も現在も、こうしたレッテル貼りや定義付けのような視線と線引きから無縁ではあり得ない。

記事目録は、関係記事と確認した全ての記事について、掲載紙名、掲載面（朝夕刊の区別を含む）、執筆者名、記事の見出しのほか、記事のおおよその分量、人名・地域名などのキーワード等の情報を加えて作成している。本書では、紙幅の制約からキーワード類は掲載を割愛しているが、将来より網

---

(8) ただしこのことは、当然ながら、より“無名の個人”の出自を追及しアイヌであるかどうかを突き止めることが必要だと述べているわけではない。個人のプライバシーの追及は慎むべきだということばかりでなく、そもそも、このような個人の属性・自己認識を第三者的に追及し判断することの限界を知っておくべきだということだと筆者は考えている。

羅的なデータベースを構築する際にはこれらのデータを加えていく計画である。

なお、犯罪や事故の記事などで個人のプライバシー等を侵害するおそれのある記事は、データとして収集はしているが、原則として本書には掲載していない。この理由で削除した記事は約150件あり、収集した記事全体の約10%にあたる<sup>9)</sup>。

これ以外の場合については、記事の中に個人の人名を含むものであっても、一般に新聞資料は公開され利用に供されていること、及びこれらの記事は相当な過去において公刊された歴史資料と考えられることを踏まえ、そのまま目録に掲載している（人名の多い記事の例としては、アイヌによる組織の役員名や行事の出席者名を挙げた記事、学校の生徒の作文等がある）。

本文を紹介する記事については、目録に掲載した中から、この地域に関する出来事を中心に、他の地域紙や全道紙に掲載されることが少ない考えたものを主に選んだ。一連の記事や論説はなるべくまとめて取り上げるようにしたため、多くの内容や種類の記事をまんべんなく捨てるというよりは、幾つかのトピックや論説に焦点を絞ったかたちになっているところもある。

なお、見出し・本文に共通する問題であるが、当時の新聞報道には、現在の社会通念等から見ても批判されるものを多く含んでいる。明らかな偏見や誤解に満ちた記事は多いし、アイヌを擁護し称えるかのような論調の中にステレオタイプなアイヌ観や優越意識が見える文章もしばしば見られる。アイヌの伝統文化や現状に対する偏見や誇張された表現、揶揄めいた物言いなどは、記事目録に見られる記事の見出しや、主要記事として紹介した本文のあちこちに見られる。古代史や遺跡に対する解釈などには、今日の研究成果や社会常識から見れば明らかに誤りであるものも少なくない。しかし本書では、それらもまた歴史の記録として直視すべきものと考え、上記のプライバシーの問題のような点を除き、「土人」「旧土人」といった用語や、アイヌに対する蔑視、偏見や憐憫を伴った論調、事実認定に誤りがあると思われる記事なども、そのまま掲載した。従って、記事の利用にあたっては、このような点に充分留意されたい。

## 1-5 収録した記事について

最後に、本書に収録した記事からうかがえた、これらの記事の主な特徴を列記しておく。

---

(9) この数字は、先に公刊した『十勝毎日新聞』や胆振・日高地方の記事目録で、同様の判断により目録から削除した記事の割合とほぼ同じである。筆者の個人的な印象としては、当時の新聞記事は一般に現代のようなプライバシー情報や犯罪被害者の人権に対する配慮をしばしば欠くとはいえ、この割合は他の記事に比べて高いと感じている。犯罪・事故に関する記事の中で、加害者や被害者等に対して殊更に「アイヌ」「旧土人」という字句を付けていると思える記事がしばしば目につく、と感じたことは付記しておきたい。

先ず、釧路地方に関する密度の高い情報が得られることと共に、近隣の十勝、北見、根室地方<sup>10)</sup>についても貴重な情報が得られることが挙げられる。例えば十勝地方では、帯広で教員をつとめた吉田巖による自身の日記などの記録資料が、この地域のアイヌの文化と歴史に関する貴重な記録になっているが、吉田の十勝地方へ最初の赴任は1906年、第二伏古尋常小学校の教員として帯広で長く暮らすようになったのは1916年であり、それ以前の時期について『北東日報』や『釧路新聞』の「十勝時事」欄などが伝えてくれる情報には、他で得難いものが含まれているのではないかと推察する。

次に、従来ほとんど知られていなかったこと、手がかりの少なかったことに関する記事が見られる点が貴重である。例えば、1938年に釧路市が、当時既に閉校になっていた春採尋常小学校の校舎を使用して開始した、アイヌの女性を対象とする「技芸学校」については、これまで、『釧路市立郷土博物館館報』第159号（1965年4月）や『ルロワ・ゲーランの見た北海道』（山中一郎編・発行、2001年）に、断片的に資料が紹介される程度であったが、『釧路新聞』には同校の開設に至る記事を見いだすことができる。「北海道旧土人保護法」に基づきアイヌ児童を対象として設置させた春採尋常小学校や白糠第二尋常小学校について、地域の父母らから教育条件をめぐる批判が起り、何度かコラム欄でも取り上げられるに至っていることも、他の地域や全道紙ではあまり見られない、しかし現実に深刻な問題であったことをうかがわせる報道である。

また、従来もある程度知られている出来事ではあるが、本書に収録した新聞記事によって情報が格段に増えたものがある。例えば、1901年に仏教（真宗大谷派）の僧侶山形良温が、帯広の伏根弘三の招きにより帯広で伏根が設立した私立学校で教員をつとめ、のち本別でもアイヌ児童を教授する私塾を開いたことについては、久木幸男「山形良温のアイヌ教育活動」（『横浜国立大学教育紀要』第20号、1980年）が詳しく紹介しているが、『北東日報』掲載の記事は、同論文では明らかにできなかった、山形の本別への赴任の時期や、教育実践の一端を報じている点で貴重である。

釧路村の吉良平治郎が厳冬の郵便配達中に暴風雪のため殉職したことについては、現在では『吉良平治郎研究資料集成』（釧路アイヌ文化懇話会、1999年）など、幾つかの書籍や論文で取り上げられるようになったが、本書に掲載した目録を見れば、吉良の命日が近くなると、この事件が毎年のように取り上げられ、様々な逸話の紹介や、記念事業が謳われるさまを—そうして、殉職の“美談”が形成されていくようすを—うかがうことができる。

その他にも注目すべき記事や情報が幾つもある。例えば1940年1月1日付けの1面には、白糠のアイヌによる「座談会」が写真入りで大きく掲載されている。時局を反映して、記事の内容には「報

---

<sup>10)</sup> 十勝地方の新聞について、現在のところまとまった所在を確認できるのは1920年代以降のものである。北見、根室地方については、戦前の新聞紙はごく断片的にしか残されていない。

国」「翼賛」といったトーンの文言が頻出しているが、当時の新聞で、元日付けの1面にこれほど大きな記事が掲載される例を、筆者は他に知らない。

なお「Ⅲ 主要記事紹介」では、前述した、近隣の地域も含めた新聞資料の残存状況を考え、1920年以前の記事を多く掲載するようにし、さらに、幾つかのトピックについては、それに関連する記事がある程度まとめて掲載するようにした。このため、掲載した記事は、まんべんなく抽出したのではなく、年代や内容に偏りがあるので、予め了解されたい。また、既に他の文献・資料で紹介されている記事を重ねて掲載することは避けるようにしたものの、一部は、『北海道社会文庫通信』（堅田精司編・発行）、『吉良平治郎研究資料集成』、『アイヌ民族に関する学習資料集 共なる世界を願って』（真宗大谷派宗務所、2008年）などに掲載された記事と重複している。どうか了解されたい。

本書に収録した新聞記事が、その様々な限界や問題点を踏まえつつ、地域の歴史に関する資料として活用されることを願う。

#### 謝辞

本研究課題の実施及び本書のとりまとめに当たり、以下の機関から、資料の調査及び閲覧において便宜を図っていただいた。特に市立釧路図書館及び釧路市総務部地域史料室には、『北東日報』と『釧路新聞』の閲覧に際して多大の協力をいただいた。記して感謝申し上げる。

市立釧路図書館 釧路市総務部地域史料室

函館市中央図書館 帯広市図書館 北海道大学附属図書館

北海道立図書館 北海道立文書館

## Ⅱ 記事目録

### 〔凡例〕

#### 1 各欄・項目の記載について

- (1) 「記事」欄に「○」のあるものは、Ⅲに本文を掲載している。
- (2) 「種別」欄には朝夕刊の別を記載した。  
なお、夕刊は1928年3月以降に発行されており、前日発行である。（例えば、10日付けの夕刊は9日に発行される。）
- (3) 「執筆者」欄は、原則として紙面のとおりに記載した。
- (4) 「見出し」欄の「/」は改行を表す。
- (5) 「量」欄には、目安として、記事のおおよその分量（スペース）を、A（10行程度）、B（10～30行程度）、C（30行以上）で示した。

#### 2 書式などについて

- (1) 漢字の旧字体や変体仮名は、原則として現在一般的に用いられる漢字・仮名に改めた。
- (2) 見出しに付いている傍点などの文字飾りは、原則として全て割愛している。また、一部の見出しを割愛した記事がある。
- (3) 編者による注記は、〔 〕で括弧して示した。
- (4) 判読できなかった文字は、□で示した。

#### 3 その他

『釧路新聞』の目録では、欠号が半年程度以上になっているところで改ページを行った。

### 1 北東日報

掲載	年 月 日	区分	面	執 筆 者	見 出 し	量	備 考
	1901/01/12		1		本道土人学校設備の調査	B	
	1901/02/09		2		北海道土人学校の設備	B	
	1901/02/21		3		〔十把一束〕	B	「釧路庶路間の建築列車」の「機関手及び旗振」を批判する文章の中で「自己の朋友知人なれば土人迄も往復とも乗車せしむるのみならず」との文言あり。
○	1901/02/28		2		川上郡通信〔塘路村のキリスト教学校〕		
○	1901/03/01		2		土人学校科程の決定		
○	1901/03/10		2		土人学校設立見込地／二十二箇所設置の必要		
	1901/03/12		2		人口統計材料記入方に就て	C	アイヌの戸口の統計について言及あり。
	1901/03/15		2		土人学校の嚆矢		
	1901/03/20		2		旧土人教育施政方針		
	1901/03/23		2		土人学校の設立経費		
	1901/04/10		3		アイヌに対する華族の同情	B	
	1901/04/14		2		〔白糠村通信〕〔白糠の学校教育〕	B	
	1901/04/23		3		北海道旧土人教育幻灯会	B	
	1901/04/28		2		旧土人学校と加藤氏	B	衆議院議員加藤政之助の札幌来訪を北海道旧土人教育会による学校設立の「取調準備」のためと報じる。
	1901/05/01		2		旧土人学校と教育会	B	

掲載	年月日	区分	面	執筆者	見出し	量	備考
	1901/05/16		2		白糠村通信	B	「当地の炭山は如何なる事情にや近來金員の支払」甚だ悪く使役せられ居る土人や其他の者は一般に不平を唱へ居れり」と記す。
	1901/05/18		2		来年新設の土人学校	B	
	1901/05/21		2		ヘラー氏のアイヌ調査	B	
	1901/05/23		2		ヘラー博士の調査	B	
	1901/06/01		3		塘路村と乱倫総代(四)	C	総代がアイヌの実印を「悉皆預り」、アイヌによる「共有地」の出願を行わなかったことなどを記す。
	1901/06/02		2		ヘラーとアイヌ	B	
○	1901/06/12		2		旧土人被選挙権資格者	B	
	1901/06/12		2		土人教育会の事業	B	
○	1901/06/13		2		帯広に於ける土人教育	B	
	1901/06/14		2		ヘラー博士の帰京	B	
	1901/07/23		2		鉄道開通式〔釧路白糠間の鉄道開通祝賀の様子。白糠で「アイヌ踊り」あり。〕	C	
○	1901/07/26		2	佐々木生	土人の祭文	C	
	1901/07/31		2		澤柳局長の演説（承前）	C	
○	1901/08/02		2		帯広土人教育の現況	B	
	1901/08/03		2		大窪視学官の演説（承前）	B	「土人の如く他人より卑しまるゝ、如き人間にはなりたくない」との文言あり。
	1901/08/04		3		〔十把一束〕	B	塘路で「土人の網より魚類を盗む」者がいるとの告発あり。
	1901/08/06		3		走馬燈	C	
	1901/08/23		2		土人教育会の事業	B	
	1901/09/05		2		教育〔ママ〕会土人学校	B	
	1901/09/24		2		北見通信（九月十八日付）	C	枝幸地方での「熊害」を報じる中で、「アイヌ又はマタギ等」が熊の捕獲に向かっている旨を記す。
	1901/10/06		3		熊の出没	B	
	1901/10/12		2		槇山校長の巡視	B	
	1901/10/20		2		土人学校と小谷部博士	B	
	1901/10/21		2		〔室蘭通信〕 虻田土人学校に就て	B	
	1901/10/27		3		捕雲捉影	B	

掲載	年月日	区分	面	執筆者	見出し	量	備考
	1901/10/29		3		大熊を刺す	C	
	1901/10/31		3		稀有の大熊	B	
	1901/10/31		3		捕雲捉影	B	
	1901/11/07		3		「十把一束」[「私は土人語が研究したいが」との投書あり]	B	
	1901/11/10		3		銃猟	B	「十数年来捕殺禁制なりし鹿猟も此頃より殺生自由となりたれば〔中略〕土人の喜び一方ならず」との文言あり。
	1901/11/17		2		〔室蘭通信〕土人学校往復支払責任	B	

## 2 釧路新聞

掲載	年 月 日	区分	面	執 筆 者	見 出 し	量	備 考
	1902/08/04		3		蝦夷美談春採の花	C	
	1902/08/11		3		蝦夷美談春採の花（続）	C	
	1902/08/25		3		アイヌに劣れるシャモ	B	
	1902/08/25		3		アイヌの貯金	A	
	1902/08/25		3		アイヌ救護と器物保存	B	
	1902/08/25		2		近衛公爵十勝行	C	「伏古村のアイヌ」の見出しなどあり。
	1903/01/26		3		厚岸だより／アイヌ芝居	B	
	1903/04/06		3		当支庁管内旧土人	B	
	1903/04/27		3		白糠第二尋常小学校	A	
○	1903/05/18		2		土人保護法改正の議	B	
	1903/10/12		3		色丹土人の風習	C	
	1903/10/26		3		十勝行き	B	茂岩に至る途上、十勝川の渡船で「土人の老夫婦」の船に乗る。
○	1904/01/05		2		[十勝時事] 特殊なるアイヌ	B	
	1904/01/28		2		ペイン老嬢へ贈品	B	
○	1904/01/29		2	赤鬼	ペイン老嬢の英国に帰るを送る	C	
○	1904/03/09		4		[十勝時事] 旧土人の公債応募	B	
	1904/03/16		4		[十勝時事] 旧土人学校敷地臨検	B	
	1904/03/18		4		[十勝時事] 伏古村の旧土人	B	
	1904/03/28		3		アイヌ一念を達す	B	
○	1904/03/28		3		色丹島土人の応募〔軍事公債への申込〕	B	
	1904/04/02		2		十勝国土地不法処分（伊藤支庁属の拘留）	C	
	1904/04/03		2		河西支庁長以下の召喚	B	2日付同紙記事参照
	1904/04/21		3		薬我記	B	「アイヌの年一年と現象するは…」との記述あり。
	1904/06/14		2		樺太雑記（承前）	C	
○	1904/06/16		2		高岡氏よりの書翰	C	
	1904/06/22		2		薩哈噠島土人帰化願	B	
	1904/06/24		2		土人教育委託区域指定	B	
	1904/09/09		2		児童教育の訓令	B	「年長児童及旧土人児童の教育に関する訓令」の報道

掲載	年月日	区分	面	執筆者	見出し	量	備考
	1904/09/13		3		[厚岸だより] 奔渡村の提灯行列	B	
	1904/11/20		2		アイヌ語辞典の出版	C	
	1905/02/19		1		[北海道庁釧路支庁公文] [釧路支庁訓令22号：税区管理者町長戸長の支庁長あて届出事項。「旧土人共有財産調」あり]	B	
	1905/03/01		3	春採漁郎	献身の歌	B	
	1905/03/11		3		[はがき集] [「献身の歌」への反響]	A	
	1905/03/18				旧土人学校増設の見合	B	
	1905/03/26		2		眼病トラホームの予防策	B	
○	1905/06/06		2		[祝賀会雑観] 山車	B	「春採アイヌの手に成りし」山車の模様を報じる。
	1905/06/22		2		薩哈噠土人の軍資献金	B	
	1905/07/21		2		[文苑] [アイヌを詠んだ歌二首]	B	
	1905/08/16		2		釧路支庁管内学事概況/三十八年五月釧路支庁調	B	
	1905/08/19		3		釧路支庁管内学事概況(続)/三十八年五月釧路支庁調	B	
	1905/10/07		2		熊を捕獲す	B	
	1905/11/28		2		アイヌの神童(山村支庁長の談片)	B	
○	1905/12/05		2		白糠村の昨今/熊祭り	B	
	1905/12/07		2		[十勝時事]	B	
	1905/12/24		2		燐寸原料の将来	B	「各工場はアイヌを雇ひて原料所在地探険に励めつゝあるも」との文言あり。
○	1906/02/09		2		土人開墾組合規約	C	
	1906/02/22		2		旧土人教育の現況	B	
○	1906/03/18		2		[十勝時事] 旧土人児童の美挙	B	
○	1906/03/21		2		[十勝時事] 青年会演説会	B	
○	1906/04/11		2		特別教育所設置[春採特別教育所設置]	A	
	1906/04/14		2		[十勝時事] 土人学校設置	B	
	1906/04/14		2		[十勝時事] 爆船交付	A	當緑村渡船場に馬渡船一艘を交付。
	1906/04/27		2		マウカの近況	C	
	1906/05/09		2		旧土人学校新設位置	B	
	1906/05/19		2		土人開墾組合加入者	A	「浦幌土人開墾組合」に15名が新規加入。
	1906/05/23		2		[俳句一句]	A	

掲載	年月日	区分	面	執筆者	見出し	量	備考
○	1906/05/23		2		旧土人開墾組合成立	A	中川郡本別外五ヶ村の「旧土人開墾組合」の認可申請書提出を報じる。
○	1906/06/24		2		土人開墾組合契約認可	A	中川郡の「蓋派村土人開墾組合」の認可。
○	1906/07/10		2		[十勝時事] 住宅寄宅寄附許可	B	
	1906/07/19		2		北海道アイヌの移住	B	
	1906/09/02		2		[十勝時事] 土人組合事業概況	C	
	1906/11/16		2		トラホームの蔓延	B	
	1907/01/05		3		旧土人泥棒と戦ふ	B	
	1907/02/28		2		北海道旧土人保護	B	
	1907/05/02		2		北海土人保護現状	B	
○	1907/05/08		2		[十勝時事] 音更土人学校開校式	B	
	1907/05/28		2		支庁長会議	B	会議事項中に「旧土人の保護に関する件」あり。
○	1907/06/04		2		土人の兵役調	B	釧路連隊区司令部館内の「本年度の旧土人兵役在籍者調べ」を掲載。
○	1907/07/10		2		旧土人委託学校	B	河西支庁管内で「委託教授」を行っている小学校の「本学年開始期」の児童数。
○	1907/07/13		2		本道土人教育/当局者の視察談	C	北海道旧土人教育会虻田学園の視察談。
	1907/08/20		2		本道旧土人の戸口数	C	
	1908/01/24		2		小学児童の入学及卒業数(続)	B	春採尋常小学校の卒業者数などあり。
	1908/01/25		2		小学児童の入学及卒業数(続)	C	白糠第二尋常小学校の卒業者数あり。
	1908/02/13		2		旧土人二学校衛生状況	B	
	1908/03/01		3		正直なアイヌ	B	
	1908/03/08		2		土人保護問題	B	帝国議会貴族院での質疑を紹介。
	1908/03/12		2		土人保護問題(続)	B	
	1908/04/05		3		白糠村の近況	B	巡查駐在所の調査による村内人口。
	1908/04/07		3		アイヌの恩師	B	小谷部全一郎について。
	1908/04/09		2		白糠近況(続)	C	白糠村のアイヌの生活状況を記す。6日付け記事の続報との位置付けのようである。
	1908/04/14		2		白糠近況(続)	C	9日付け記事の続き。
	1908/04/26		1		[永久保秀二郎の漢詩]	B	
	1908/05/02		2		旧土人施療出願に就て	B	
	1908/06/17		3		厚岸の此頃	C	
	1908/06/20		2		管内事務概況(続)/教育	C	釧路支庁管内教育の概況。
	1908/08/13		3		斜古丹土人の話し/アイヌ人とは別種族	C	
	1908/09/17		3		虻田山中の大蛇/巖上に人馬を走らす	B	

掲載	年月日	区分	面	執筆者	見出し	量	備考
	1909/02/16		2		旧土人救助出願		
	1909/02/16		2		厚岸旧土人共有財産調		
	1909/04/14		2		厚岸人口統計		
	1909/05/16		2		[辞令][白糖第二尋常小学校 校代用教員の任免]		
	1909/06/05		2		パチェラー氏の叙勲		
	1909/06/08		2		楨山長官の帰札		
	1909/06/23		2		釧路学齡児童数		
	1909/06/25		2		旧土人学校累年調		
	1909/07/06		3		十勝音更の深山探検	C	
	1909/07/07		3		十勝音更の深山探検（続）	C	
○	1909/07/08		2		土人の教育思想	C	
	1909/07/16		2		春採尋常小学アイヌ児の謝状	C	
	1909/07/24		1		[文苑][短歌]	B	
	1909/07/28		1		北海道の教育/田所参事官視 察談	C	
	1909/08/01		2		幕別近況〔止若尋常小学校の アイヌ児童数〕	B	
	1909/08/10		3		佐渡視察団来/一行四十二名	C	
○	1909/08/14		2		旧土人産業状況	C	
	1909/08/19		1	永久保秀二郎	[釧路詞壇][漢詩]	B	
	1909/08/19		2		[十勝通信]大臣の視察	A	
	1909/08/20		2		[天声人語][法相、春採視 察ができず永久保秀二郎を招 く]	A	
○	1909/08/20		2		法相春湖山人を召す	A	
	1909/08/20		2		法相築港視察	C	
	1909/08/21		2		[十勝通信]法相の巡視	C	
	1909/08/26		1	春湖山人〔永 久保秀二郎〕	[釧路詞壇][漢詩]	B	
	1909/08/27		2		管内旧土人現在数	B	
	1909/08/27		2		旧土人城趾の保存	B	
○	1909/10/13		2		岩野泡鳴氏来帯	B	
	1909/10/22		2		土人部落視察	A	

掲載	年月日	区分	面	執筆者	見出し	量	備考
	1909/10/26		2		旧土人の農業視察	B	
	1909/11/11		2		管内旧土人戸口数	B	
○	1909/11/23		3		くま送りの記	C	
	1909/11/25		3		鷺を見て蔵品発見	B	
	1909/11/28		1		[釧路文芸]	B	
	1909/12/01		1		[釧路俳壇]	B	
	1910/02/03		2		管内町村沿革(六)／足寄郡足寄村各村(上)	C	
○	1910/02/16		2		アイヌの熊祭	A	
	1910/03/18		3		春採旧土人の生活	C	
	1910/03/19		3		春採旧土人の生活(二)	C	
	1910/04/15		1	茄村	[釧路文芸] 亡び行く人	C	
○	1910/04/19		2		伏古旧土人組合総会	C	
	1910/05/17		2		日英博愈開場	A	
	1910/06/21		3		伊澤教育主任出張〔白糠へ〕	A	
	1910/07/21		3		白糠の旧土人(上)／如何に教育を重んずるか	C	
○	1910/07/22		3		白糠の旧土人(下)／如何に貯蓄を重んずるか	C	
	1910/08/02		1	平尾言外	「北海史談」を読む	C	
	1910/08/21		2		管内旧土人戸口／既往十ヶ年の消長趨勢	C	
	1910/08/23		2		歓迎大園遊会	C	
	1910/08/23		2		歓迎大園遊会〔「東京記者団」にたいする歓迎準備〕	B	
	1910/08/23		2		記者団同行雑観	B	
	1910/08/23		3		土人メノコの恋	C	
	1910/08/24		3		記者団去る／一行大満足	C	
	1910/08/27		2		安西事務官来釧路	A	
	1910/08/27		2		東京記者団一行	B	
	1910/09/04		1	坪井正五郎	日本人と朝鮮人	C	
	1910/09/17		2		新附人民の教育／沢柳政太郎氏談	C	
	1910/09/17		1		白糠土人の視察	A	
	1910/09/28		2		谷森男池田行	A	

掲載	年月日	区分	面	執筆者	見出し	量	備考
	1910/10/16		2		旧土人の農業視察	B	
○	1910/10/25		2		土人農業視察	B	
	1910/11/16		1	篠原静風	[釧路詞壇] 月光	B	アイヌを詠んだ短歌あり
	1910/11/16		1		衛生講話大要(一)	C	文中「アイヌ種族の如きは」で始まる言及あり。
	1910/11/18		3		探検の土人と犬ノ樺太アイヌ 花守信吉	B	
	1910/11/22		3	天海生	[読者の領分]	B	
	1910/11/22		2		産徳奨励会発会式	B	
	1910/11/29		2		管内旧土人概況	B	
	1910/11/29		2		十勝管内の産業ノ旧土人	B	
○	1910/12/10		2		十勝土人状況	C	
	1911/03/19		2		管内旧土人戸口増加	B	
	1911/05/25		2		釧路学事状況(一)	C	
	1911/05/27		2		釧路学事状況(三)	C	
	1911/06/02		1	八田三郎	北海道の熊(二)	C	「アイヌの熊猟」あり。
	1911/06/03		1	八田三郎	北海道の熊(三)	C	「残酷なる追狩」「アマッポの狩」の見出しあり。
	1911/06/04		1	八田三郎	北海道の熊(四)	C	「残酷なる追狩」「アマッポの装置方法」「滑稽なる理論的熊狩」の見出しあり。
	1911/06/06		1	八田三郎	北海道の熊(五)	C	「残酷なる追狩」「熊の頭の処分」などの見出しあり。
	1911/06/07		1	八田三郎	北海道の熊(六)	C	「残酷なる追狩」「北夷の大祭熊祭り」などの見出しあり。
	1911/06/08		1	八田三郎	北海道の熊(七) [完]	C	「熊祭りの光景」「熊の保護」の見出しあり。
	1911/06/14		1		樺太の土人生活	C	
	1911/06/15		3		愛奴の国家主義	B	
○	1911/06/15		2		十勝の功績者(二)ノ実業及公共事業に対する	C	
○	1911/06/18		2		十勝の功績者(三)ノ公共事業に対する	C	
	1911/06/21		2		[天声人語]	C	
○	1911/07/14		2		旧土人拝観心得	B	
	1911/07/14		2		斜古丹漁業談	B	
○	1911/07/28		3		春採愛奴の奉迎準備ノ古代の礼装を用ん	B	
	1911/08/02		2		管内学事状況(二)	C	

掲載	年月日	区分	面	執筆者	見出し	量	備考
○	1911/08/12		2		独木船操縦供覧／十勝旧土人の計画	B	
	1911/08/23		2		本別出水被害	B	出水被害のあった土地として報じられた中に「ピリベツ旧土地」あり。
	1911/09/01		2		奉送迎と位置	B	「位置」を指示された「団体其他」の中に「序立春採尋常小学校職員及生徒」「旧土人」あり。
	1911/09/02		3		春採土人部落／(一) 誠に憐れな状態	C	
	1911/09/02		2		東宮殿下行啓記／本社旭川特派員発電	C	旭川への「行啓」の模様を報じる。「熊祭り御覧」などの文章あり。
	1911/09/03		3		春採土人部落／(二) 直ぐ裏手に行けば	C	
	1911/09/03		2		東宮殿下行啓記／本社陪従特派員発電	B	旭川から釧路までの「奉迎」の模様などを報じる。「白糠の愛奴」などの見出しや文章あり。
	1911/09/03		5		補充部の奉迎	B	
	1911/09/04		1		旧土人奉迎／有難涙に泣く	B	
	1911/09/06		3		春採土人部落／(三) 農七漁三の割合	C	写真1。
	1911/09/07		1	石田実(厚岸湖畔)	厚岸往事の漁業	C	写真1。
	1911/09/07		3		春採土人部落／三 [ママ] 奇傑 荒谷礼助	C	
	1911/09/08		3		春採土人部落／五 盲目の親子	C	
	1911/09/09		3		春採土人部落／〔六〕 現代を謳歌す	C	
	1911/09/10		3		春採土人部落／〔七〕 死亡率の増加	C	
	1911/09/12		2		東宮侍従御差遣	A	「平取村アイヌ部落及び義経神社視察」として侍従派遣。
	1911/09/13		3		春採土人部落／(八) 礼儀ある人種	C	
	1911/09/14		3		春採土人部落／(九) 宗教的観念	C	
	1911/09/15		3		春採土人部落／(十) 彼等の迷信	C	
	1911/09/16		3		春採土人部落／(十一) 彼等の歴史	C	
	1911/09/16		2		白糠村記念事業	C	白糠村における「行啓」記念事業を紹介。
	1911/09/17		3		春採土人部落／(十二) 穴居の遺蹟	C	今回で完。
	1911/10/07		3		南極探検隊消息	C	
	1911/10/08		3		樺太土人の奇習	C	
	1911/10/19		3		巨熊出現して／番人を悩ます	C	
	1911/10/28		2		表彰優良児童(一)	C	十勝教育会による表彰を受けた児童名を掲載。芽室太尋常小学校生徒の名あり。

掲載	年月日	区分	面	執筆者	見出し	量	備考
	1911/10/29		2		十勝表彰児童(二)	C	十勝教育会による表彰を受けた児童名を掲載。第二伏古尋常小学校生徒の名あり。
	1911/11/03		3		盲目の愛奴／二人の捨児を養育す	C	
	1911/11/26		2		塘路湖の漁業	C	
	1911/12/05		2		春採部会開催	B	
	1911/12/23		1		愛奴教育有望	C	文部省視学官横山栄次の視察談。
	1912/01/01		2		管内教育界概観／四十四年に於ける	C	「学事視察」として文部省視学官横山栄次の視察談を挙げる。
	1912/01/01		29		千島色丹島／土人の生活	C	釧路水産試験場駐在所技手による見聞談。
	1912/01/11		1		千島色丹島土人／承前生活	C	
○	1912/01/17		3		白人の熊送り	C	
	1912/01/24		2		旧土人共有財産	A	
○	1912/02/01		2		旧土人就職調	B	
○	1912/02/01		3		白糖の旧土人／婦人会の活動振り	C	
	1912/02/18		2		管内在学児童	C	釧路支庁管内小学校、教育所など60校の在学児童数及び出席歩合。
	1912/04/11		2		旧土人学事状況	B	春採、白糖第二両尋常小学校の在籍児童数、出席歩合。
	1912/04/13		2		音更の青年会	B	「音更古潭青年会」あり。
	1912/04/14		3		熊狩の勇士／一頭を射二頭を生擒る	C	
	1912/04/17		2		土人公売不当訴願	C	
	1912/05/18		2		管内学児〔ママ〕成績	C	釧路支庁管内小学校、教育所など各校の在学児童数及び出席歩合。
	1912/05/19		3		白瀬中尉の南極探検談	C	これが連載第二回に当たるものと思われる。
	1912/05/28		1		南極探検(三)／白瀬中尉の談	C	これが連載第二回に当たるものと思われる。
	1912/05/31		2		管内旧土人分布	C	
	1912/06/01		2		厚岸旧土人財産	B	
	1912/06/02		2		釧路児童就学成績／既往八個年の成績	B	
	1912/07/06		2		十勝旧土人教育	B	音更尋常小学校を取材した記事。
	1912/07/07		2		旧土人教育悲観	B	音更尋常小学校を取材した記事。
	1912/08/03		1		土人部落清潔法	B	音更村役場による「清潔法の検査」を報じる。
	1912/09/20		2		〔公人私人〕〔パチエラーの来釧記事あり〕	B	
	1912/09/22		2		〔根室時事〕千島海苔有望	B	

掲載	年月日	区分	面	執筆者	見出し	量	備考
	1912/09/25		3		獵夫巨熊と格闘	B	
	1912/09/26		3		巨熊出沒	B	
	1912/10/01		3		巨熊町内に顕る	B	
	1912/11/08		2		管内優良児童	B	釧路教育会総集会において「成績優良」により表彰された児童。
	1912/11/11		2		春採土人問題	B	
	1912/11/27		2		十勝土人遺跡	B	
	1912/11/27		3		日本の六人種(一)／未開野蛮を極むも／又是れ日本の国民	B	東京で開催された拓殖博覧会に「出場」した「六人種」(「台湾土人」「台湾生蕃」「北海道アイヌ」「樺太アイヌ」「ギリヤーク」「オロッコ」)を紹介。
	1912/11/28		3		日本の六人種(二)／未開野蛮を極むも／又是れ日本の国民	C	
	1912/11/28		2		幕別土人遺跡	B	
	1912/11/28		3		優良児童表彰／名誉の小国民八十五名	B	十勝教育会による第4回「優良児童」表彰者。
	1912/11/30		3		日本の六人種(三)／未開野蛮を極むも／又是れ日本の国民	B	
	1912/12/03		3		日本の六人種(四)／未開野蛮を極むも／又是れ日本の国民	C	
	1912/12/04		3		日本の六人種(五)／未開野蛮を極むも／又是れ日本の国民	C	アイヌの「熊祭」を説明。
	1912/12/05		3		日本の六人種(六)／未開野蛮を極むも／又是れ日本の国民	C	「 <sup>あいぬご</sup> 土語と日本語」「土語と内地地名」などの小見出しあり。
	1912/12/06		3		日本の六人種(六)〔ママ〕／未開野蛮を極むも／又是れ日本の国民	C	「樺太アイヌの特徴」「言語の差異」の小見出しあり。
	1912/12/07		3		日本の六人種(七)〔ママ〕／未開野蛮を極むも／又是れ日本の国民	C	「オロッコ」を取り上げる。
	1912/12/08		3		日本の六人種(八)〔ママ〕／未開野蛮を極むも／又是れ日本の国民	C	「ギリヤク族」を取り上げる。
	1912/12/11		3		日本の六人種(九)〔ママ〕／未開野蛮を極むも／又是れ日本の国民	C	「台湾蕃族」を取り上げる。
	1912/12/12		3		日本の六人種(十)〔ママ〕／未開野蛮を極むも／又是れ日本の国民	C	前回の話題の続き。
	1912/12/13		3		巨熊を射止む	A	
	1912/12/13		3		日本の六人種(十一)〔ママ〕／未開野蛮を極むも／又是れ日本の国民	C	前回の話題の続き。
	1912/12/14		3		日本の六人種(十二)〔ママ〕／未開野蛮を極むも／又是れ日本の国民	C	前回の話題の続き。
	1912/12/15		3		日本の六人種(十三)〔ママ〕／未開野蛮を極むも／又是れ日本の国民	C	前回の話題の続き。

掲載	年月日	区分	面	執筆者	見出し	量	備考
	1912/12/17		3		日本の六人種(十四)[ママ] ／未開野蠻を極むも／又是れ 日本の国民	C	前回の話題の続き。
	1912/12/18		3		日本の六人種(十五)[ママ] ／未開野蠻を極むも／又是れ 日本の国民	C	前回の話題の続き。
	1912/12/19		2		[函館時事] 熊祭観覧会	B	函館毎日新聞社主催で長万部 にて開催の予定と報じる。
	1912/12/19		3		日本の六人種(十六)[ママ] ／未開野蠻を極むも／又是れ 日本の国民	C	前回の話題の続き。
	1912/12/20		3		日本の六人種(十七)[ママ] ／未開野蠻を極むも／又是れ 日本の国民	C	前回の話題の続き。
	1912/12/21		3		日本の六人種(十八)[ママ] ／未開野蠻を極むも／又是れ 日本の国民	C	前回の話題の続き。
	1912/12/22		3		日本の六人種(十九)[ママ] ／未開野蠻を極むも／又是れ 日本の国民	C	前回の話題の続き。
	1912/12/24		3		足寄の馬より	B	
	1912/12/24		3		土人の熊狩り	B	
	1912/12/25		3		日本の六人種(二十)[ママ] ／未開野蠻を極むも／又是れ 日本の国民	C	前回の話題の続き。
	1912/12/26		3		二頭の熊二人の漁師	B	
	1912/12/27		3		日本の六人種(二十)[ママ] ／未開野蠻を極むも／又是れ 日本の国民	C	前回の話題の続き。「台湾の 本島人」などにも触れる。連 載最終回。
	1912/12/28		3		春採土人部落まで／ノウエ 〜はお祝の歌	C	
	1913/01/01		7		観よ四十年前の熊狩り／如何 に勇壮なりし乎	C	春採の原太郎が語るクマ猟の 話。
	1913/01/25		2		池田通信	A	ケナシバで開催される「熊 祭」について。
	1913/01/29		3		熊祭の賑ひ／ケナシバ土人部 落に於る	C	
	1913/02/01		1		千島野獣の将来(三)	C	色丹の千島アイヌによる狩猟 に言及。
	1913/02/05		1		千島野獣の将来(四)／（根室支 庁調査）	C	
	1913/03/01		2		春採土人組合会	B	
	1913/03/15		3		米大使館員の／熊狩団来る／ 屈斜路山中の壮拳	B	
	1913/03/16		3		熊狩一行昨日屈斜路へ向ふ／ 期して快報を待たん	B	
	1913/03/30		1		下風呂の無情／病者の入浴を 拒絶す	B	
	1913/04/02		3		熊を射止める	A	
	1913/04/09		2		釧路旧土人現在	B	
	1913/05/07		3		所謂愛奴勘定	B	

掲載	年月日	区分	面	執筆者	見出し	量	備考
	1914/02/11		3		旧土人現在戸口		十勝池田分署管内
	1914/02/19		2		十勝学事状況河西支庁調査／凶作影響程度		
	1914/03/13		3		土人アイヌ（上）／年と共に亡び行く		
	1914/03/14		3		土人アイヌ（中）／死亡数と婚姻数		
	1914/03/15		3		土人アイヌ（下）／受給額と負担と将来		
	1914/04/26		2		釧路旧土人分布		
	1914/04/28		2		旧土人死病類別		
	1914/05/07		2		土人学校現在児童		
	1914/07/04		2		土人学校視察〔道庁長官の春採尋常小学校視察〕		
	1914/07/12		2		余興にはアイヌの熊祭／網走協賛会の主催		
	1914/07/29		1		土人保護改良		
	1914/08/05		5		害虫駆除予防講話		
	1914/08/07		5		楽前の八百蔵／愛奴の舞曲を観る		
	1914/08/12		5		土人卒業生状況		
	1914/09/09		3		流送人夫血の雨を降らさんとす／仲介人ありて無事決着		
	1914/09/10		3		旧土人共有財産		
	1914/10/09		2		土人農産品評会		
	1914/11/12		2		春採青年総会開催		
	1914/11/17		2		春採青年会総会		
	1914/11/18		3		十勝愛奴史蹟		
	1915/01/20		2		[町役場公文]〔釧路町告示第7号〕	B	釧路町会の「議件」を告示。「議件」中に「春採旧土人学校児童保護会費補助ノ件」あり。
○	1915/01/20		3		献上の三毛狐／旧土人に伴はれ十八日上京す	B	赤梁三九郎より「東宮殿下へ献上の三毛狐二頭」が芽室駅より「旧土人取締小野利永」ほか三名付き添いで出発したと報じる。
	1915/02/16		3		旧土人献上の三毛狐〔挿絵入り記事〕	B	赤梁三九郎より「皇太子殿下へ献上」の三毛狐が上野動物園に「収容方仰付られたり」と報じる。
	1915/02/21		2		樺太現住戸口	B	

掲載	年月日	区分	面	執筆者	見出し	量	備考
	1915/02/21		2		救済保護事業	B	釧路支庁管内における1914年度中の「賑恤救済」者数。
	1915/04/09		2		農具種子給与	B	
	1915/05/13		2		土人学事成績	B	春採、白糠第二尋常小学校の就学者数、「出席歩合」などを報じる。
	1915/06/05		2		俵知事の視察	B	当時宮城県知事だった俵孫一が釧路を視察。
	1915/06/23		3		驚愕の声と驚異の眼／東京觀光団は開拓の以外に進展せる／と遺利の尚累々たるとに吃驚し／土人の生活状を珍らしがる	C	「東京管理局主催に係る商工団体二百余名の本道視察団」に関する記事。
	1915/07/08		2		旧土人学修成績／小学校卒業後の成績	C	釧路支庁管内における1911年から1915年までのアイヌ学校卒業者の人数、卒業後の職業など。
	1915/07/14		2		管内旧土人数	B	釧路警察署管内の町村別戸口数。
	1915/08/08		3		旧土人の名誉	B	釧路第一尋常高等小学校における簡閲点呼の模様を報じる。
	1915/09/18		3		ロンマー〔ママ〕博士の穴居研究	B	
	1915/09/18		2		土人教育状況	C	釧路支庁管内における教育状況。
	1915/09/22		3		ロンマー〔ママ〕博士は何を得たか	C	
	1915/09/26		2		主教巡廻日程	B	ハリストス正教会セルギイ主教の巡廻日程を報じる。色丹島への日程もあり。
○	1915/09/28		3		石狩丸船客十四名将に港内に溺れんとす	C	釧路港での船の事故により船客の荷物が海中に。中にマンローの「活動フィルム」などの荷物があり捜索中と報じる。
○	1915/10/22		3		古代の武具を纏ふ／記念熊祭	B	
	1915/10/24		3		熊祭の副産物に／蝦夷土産発行	B	
○	1915/10/30		3		記念熊祭／前例なき大祭事／愈明日に迫る	B	
	1915/10/31		3		記念熊祭の前景気頗る宜し	B	
	1915/12/18		2		白糠旧土人共有会	B	
	1916/01/01		2		拜賀式	B	釧路市内の「四方拜賀式」に関する記事。「小学校」への町役場職員出席予定中に春採尋常小学校の名なし。
	1916/01/09		2		各団体補助金／可成的節約方針	B	釧路町における「公利的団体」に対する補助金に関する記事。支出対象に春採尋常小学校あり。
	1916/01/15		3		旧土人戸口数	B	釧路警察署管内の町村別戸口数。
	1916/01/20		2	狂禅生	半面観(二)	C	釧路管内の町長・戸長らの人物評記事。中に「アイヌが君に似て居るさうだ」との記述あり。

掲載	年月日	区分	面	執筆者	見出し	量	備考
	1916/02/09		2		[天声人語] [「公園地」の樹木の伐採について、アイヌは「此所以外に薪炭材供給地が無い」点を考慮すべきとの文あり]	C	
	1916/02/10		1		釧路町役場公文〔釧路町告示第8号〕	C	釧路町大正5年度歳入歳出予算。歳出に「旧土人保護会補助費」あり。
	1916/02/23		2		学校記念事業／釧路支庁管内の	B	白糠第二尋常小学校に関する記事あり。
	1916/02/25		2		旧土人愈衰減に傾く／資力漸次減退救済は刻下の急務	C	
	1916/03/04		3		回生の大恩人は旧土人／揃ひも揃った近來の美談	C	
	1916/03/23		2		白糠校卒業式	B	白糠第二、第一両小学校の卒業式。
○	1916/04/16		3		惨たる旧土人小学校／三大節にも町村吏員は参列しない／彼等も亦帝国の臣民であるのに	C	
	1916/04/18		3		亡滅の危／本年度旧土人保護計画予算	C	
	1916/04/20		3		野中賢三氏逝	B	故人の経歴を紹介する中で「アイヌ研究等に趣味を有し居たりし」とあり。
	1916/04/22		3		歎喜の涙に咽ぶ／保護を受けた旧土人	B	
	1916/04/23		2		春採青年例会	A	本日例会開催との記事。
	1916/04/25		2		春採青年会例会	B	23日開催例会の模様を報じる。
○	1916/04/26		3		青年会の名案／春採は将来釧路町の台所役	B	
	1916/05/14		2		土人土地処分	B	釧路支庁管内における昨年末調査による「未開地処分」の状況。
	1916/06/06		2		前年学事報告(二)	B	春採、白糠第二の両尋常小学校に言及あり。
	1916/06/20		2		久保田内務次官来釧／車中熱心に有志の陳情を聞く	C	「歓迎宴席」の模様を報じた記述の中に「芸妓」による「アイヌ踊りあり」と記す。
	1916/06/25		2		[天声人語] [「釧路にはアイヌ古趾や地層学上に就き調査研究に値する材料が非常に豊富だと云ふが」で始まり、中学校などの教員にぜひ「研究」して欲しいと述べる。]	B	
	1916/07/28		3		土人学校視察	A	会計検査院第一部長らが町会議員らの案内で春採尋常小学校を「視察」。
	1916/08/01		3		江上の非曲忍路高島／三井男爵一行アイヌ踊に興をやる／活動ヒルムは帝都の貴顕にお土産	C	
	1916/08/15		3		現世からなる餓鬼道	C	
	1916/08/17		2		[天声人語] [京都帝国大学総長荒木寅次郎の春採尋常小学校「視察」の模様を報じる]	B	

掲載	年月日	区分	面	執筆者	見出し	量	備考
	1916/08/23		3		旧土人を滅すものは肺結核	B	
	1916/08/29		3		愛奴舞を見笑壺に入る/検事総長一行春採土人部落を視察/児童の学芸成績品及び器具を賞す	B	平沼検事総長一行が春採尋常小学校や「春採部落」を「視察」した模様を報じる。
	1916/09/10		3		〔写真記事〕平沼総長一行と春採土人/春採尋常小学校に於て撮影	B	集合写真とその説明文
	1916/09/22		1		衰滅し行く愛奴研究/何処から来たか、系統の分らぬ種族	C	
	1916/09/23		1		衰滅し行く愛奴研究/何処から来たか、系統の分らぬ種族	C	22日付け記事の続き。
	1916/09/26		1		衰滅し行く愛奴研究/何処から来たか、系統の分らぬ種族	C	23日付け記事の続き。
	1916/09/28		3		旧慣から脱した愛奴/然し其特能は原人的なる処にある/義務観念も克己心も漸次進で来た	C	春採、白糠第二両尋常小学校の卒業生の状況を述べる。
○	1916/09/29		2		土人共有財産	B	
	1916/11/02		3		〔エンゲイ〕〔共楽座の「メノコ浪花節の第一人者ウスリ嬢の一座」の公演を報じる〕	B	
	1916/11/02		3		〔共楽座広告：「ウスリ嬢一行」の公演〕	B	
	1916/11/18		3		春採公会堂落成/愛奴研究資料/一堂にみれる	B	
	1916/11/25		3		蝦夷錦古城の思ひ出/愛奴酋長中の傑物「フミンガクシ」/西別一帯の地を釧路領とした恩人	C	
○	1916/12/15		2		土人学校救助策如何	B	
○	1916/12/23		2		土人特殊教育	A	
	1916/12/26		3		巨熊捕獲/旧土人の功名/仔熊二頭逃走	B	
	1916/12/26		2		教育規程改正/明年度より実施	B	旧土人児童教育規程（第二次）の制定に言及。
	1917/01/12		3		旧慣に囚れて/我から衰滅し行く愛奴族	B	
	1917/02/03		2		小学校長会議	B	釧路支庁管内の小学校長会議。「指示事項」中に「旧土人児童教育規程発布に関する件」あり。
○	1917/03/10		3		管内旧土人の教育は依然年限を短縮せぬ	C	
	1917/03/15		2		十勝土人状態	C	幕別村管内の生活状況を報じる。
	1917/04/08		3		悲惨なる旧土人の生活/然し〔しかし〕統計から見た彼等の結婚生活は/和人に比較して頗る真面目である	C	
	1917/04/26		2		土人教育状況	B	春採、白糠第二両尋常小学校の状況。
	1917/06/20		3		土の香に親まぬ愛奴/此一事既に其の衰滅を語って居る/例外ともいふ可は日高居住の土人	C	

掲載	年月日	区分	面	執筆者	見出し	量	備考
	1917/06/23		2		阿歴内原野有望/吉井支庁長談	C	「旧土人の覚醒」との小見出しで始まる文章あり。
	1917/07/14		2		[天声人語] [「北海道旧土人保護法」による給与地の成功検査について論じる]	C	
	1917/07/14		3		愛奴人口増加/昨年末と比較	B	釧路村及び春採村における戸数と人口。
	1917/07/15		3		自滅を顧慮せぬ愛奴族/土の香を厭ひ只管一時の安を貪る/特典ある給与地返還を命ぜられん	C	
	1917/08/16		3		人類学上のアイヌ/解剖学から小金井博士の研究	B	
	1917/09/05		3		産進協賛会の/余興に熊祭は/絶好の名趣向	B	
	1917/09/20		3		春採の大賑ひ	B	春採における「馬頭観世音の祭典」の様態を報じる。
	1917/09/20		3		白糖小運動会/第二小学校との連合	A	
	1917/11/20		3		春採熊祭/古式に則とる	B	
○	1917/11/23		2		[天声人語] [同日付け3面掲載記事関連の文あり]	B	
○	1917/11/23		3		旧土人教育上の危機/特設の学校へ通ふを嫌う風潮あり/彼等父兄の心事にも亦同情に値す	C	
	1917/11/25		2		[天声人語] [23日付け同欄に続き特設アイヌ学校の問題に言及]	B	
	1917/11/30		3		旧土人の打撃/給与地の没収	B	
	1918/02/19		3		各階級一般に/女早魘/メノコの起用	C	
	1918/02/22		3		雄大なる氷原/春採湖の美化	B	
	1918/03/02		3		石器時代の新智識/アイヌの過去には花も実もあった/将来は打ち解けて接触が出来やう	C	「アイヌと和人との接触」の歴史に関するマンローの談話の内容を報じる。
○	1918/03/15		3		メノコの鼻息/和人[しゃも]より荒い	B	
	1918/03/21		3		愛奴族の衰滅/は依然として/悲惨なものだ	B	
	1918/03/31		2		土人学校教員賞与	A	
	1918/04/06		3		春採の酋長死去/フミンカクシ後裔	B	原太郎の訃報記事
	1918/04/12		3		流行のお好な/薫子夫人/輪島屋に問ふ	C	木村薫子の談話。春採の「アイヌ部落」を来訪したときの話あり。
	1918/04/20		2		春採青年総会	A	春採青年団総会。
	1918/04/23		2		春採青年会盛況/公会堂にて総会を開く	B	
	1918/05/18		2		[天声人語] [同日付け3面掲載記事に関連し、特設アイヌ学校の廃止と、廃止後の教育について論じる。]	B	

掲載	年月日	区分	面	執筆者	見出し	量	備考
○	1918/05/18		3		蝦夷征伐／種族闘争の縮図／教科と教授との矛盾？／茂尻矢街頭の社会悲劇	C	
	1918/06/15		2		釧路学事状況	B	釧路支庁管内における1917年度の学事状況。
	1918/06/18		2		釧路学事状況／大正六年度に於ける	B	15日付け記事の続き。
	1918/06/19		2		釧路学事状況／大正六年度に於ける	B	18日付け記事の続き。
	1918/06/20		2		釧路学事状況／大正六年度に於ける	B	19日付け記事の続き。
	1918/06/21		2		釧路学事状況／大正六年度に於ける	B	20日付け記事の続き。
	1918/07/30		3		愛奴式直線美／各管内の物産一堂に蒐る／人目を惹きつける耕作の実況縮画／皇后御親手【おてつから】の御養蚕陳列	C	北海道博覧会の報道。建物の壁の「愛奴模様」への言及あり。
	1918/08/08		3		旧土人の覚醒／海の生業から陸の働に移る	B	
	1918/08/23		3		石禅師亀供養／土人部落視察	B	釧路米町の定光寺にて開催された夏季仏教講習会の講師新井石禅らが春採を視察。
	1918/08/27		3		吉川男爵春採土人部落視察／瀬川博士同行	B	旧周防藩主吉川重国、高松宮教育主任瀬川秀男が春採を視察。
○	1918/09/20		3		熊狩りの名人／俵長官より大銀杯を贈らる	B	
	1918/11/05		3		愛奴の眼を覗ふ／鹿子島茂氏の新研究談／眉毛と瞳に彼等の特長がある／眼球眼底は和人と同様	C	
	1918/11/28		2		春採青年会延期	A	「悪性感冒の流行」のため青年団例会を延期。
	1918/12/05		3		感冒の終熄近し／客月死亡数昨年の四倍／昨今は死亡率近く平常に復す／春採は今尚患者多し	C	釧路における「感冒」の状況。春採尋常小学校依然休校中とあり。
	1918/12/06		2		根室旧土人教育成績	C	択捉島留別尋常高等小学校における「委託教育」児童の「成績」。
	1918/12/06		3		春採部落挙て／病魔に悩まる	B	春採での「感冒」の流行を報じる。
	1918/12/11		3		白糠土人学校も愈休校す／例の感冒で	B	
	1918/12/13		3		各学校漸次授業を開始す	B	「目下休校中なるは釧路町の第一小学校と白糠第二、仙鳳趾の三校」とあり。
	1918/12/15		3		愛奴を欺して宅地横領の悪漢	C	
	1919/01/28		2		第五回町会／予算編成方針説明	C	議事日程中の第10号に「春採旧土人学校児童保護会補助の件」あり。
	1919/01/31		2		土人保護改正林【ママ】提出	A	政府が衆議院に「北海道旧土人保護法」改正案を提出。
○	1919/02/01		3		愛奴病院の新設／保護法一部改正の暁は／彼等の衛生状態も改善されむ／新設地は釧路か白老か	C	
	1919/02/19		3		春採物語／(-)	C	

掲載	年月日	区分	面	執筆者	見出し	量	備考
	1919/02/20		3		春採物語／(二)	C	
	1919/02/21		3		春採物語／(三)	C	
	1919/02/22		3		春採物語／(四)	C	
	1919/02/23		3		春採物語／(五)	C	
	1919/02/28		3		春採物語／(六)	C	聖公会のアイヌ学校と教員をつとめたペインに触れる。
	1919/03/01		3		春採物語／(七)	C	前回の続き。春採尋常小学校の歴史を紹介。
	1919/03/02		3		春採物語／(八)	C	前回の続き。春採尋常小学校の公立移管までを記す。
	1919/03/12		3		春採畜牛奨励／同志会新計画	B	春採青年同志会の計画。
	1919/03/16		3		釧路町人口激増／驚異に値する其増殖率／減び行くアイヌの種族	C	
○	1919/03/26		3		差別待遇に泣く／愛奴部落の児童／運動会を羨む哀な心根／根本を逸して何の保護法ぞや／特殊部落の彼等も人の子なり	C	
	1919/03/30		2		根室旧土人地	B	根室支庁管内における土地所有、職業別戸口など。
○	1919/04/12		3		愛奴に対する／差別教育撤廃／特例を設けては何うか／伝統と習慣を考量して後に／愛奴教育を結果から観る誤	C	
	1919/04/16		3		愛奴族生活向上／要救助者が減少した／一面公課負担者が増加する／土地に対する愛着心に乏しい	C	
	1919/05/14		3		宛然 <sup>さながら</sup> 燎原の火／西別の原野火の海と化す／水産支場一時は危険に陥る／義侠の旧土人身を以て防ぐ	B	
	1919/06/17		3		帯広町開町記念祭	C	「余興」の「仮装行列」に「南洋土人」あり。
	1919/07/30		3		詐欺の看板は／愛奴／列車内の怪漢	C	「愛奴の酋長が元祖伝来の花瓶」と称して花瓶を売り込んだ「詐欺」が行われている、と記す。
	1919/08/10		3		帝国海軍の花／御勇武に在す両宮殿下／遺憾なき御歓迎の協議／愛奴の古器物御台覧に供せむ	C	
	1919/08/12		3		両若宮御歓迎／万事簡素を好ませらる／御思召に添ふべき歓迎協議／御治道は国旗掲揚然るべし	C	「公会堂にては春採部落より男三名女二名の旧土人を招き前庭に於て旧土人を代表して奉送迎せしむる筈」などの記述あり。
	1919/08/13		2		〔天声人語〕〔両宮「御迎」準備に触れる。〕	B	
	1919/08/13		3		金枝玉葉の貴賓を迎ふ／両宮本日釧路へ成らせらる／颯爽たる御英姿承るだに畏きものを！	C	
	1919/08/14		3		薫風一路両宮奉送／御勇武に在す御動作畏し／昨夜治道は町民堵列し謹て御迎え奉る／築港其他の視察は御着眼有繫〔さすが〕と承及ぶ	C	
	1919/09/03		2		〔天声人語〕〔内務省監察官釧路へ〕	B	文中に「旧土人に対する待遇」に言及した箇所あり。

掲載	年月日	区分	面	執筆者	見出し	量	備考
	1919/09/07		2	松井茂(講演)	民力涵養五大要目/内務省監察官法学博士松井茂氏講演	C	
	1919/09/19		3		愛奴児童の虐待/保護の実何処にかある/人種的差別何ぞ爾く甚しき	B	
	1919/11/09		3		釧路の史蹟名勝/愛奴墨趾其他報告終る	C	
	1919/12/12		3		愛奴種族の復活/今年の壮丁は成績空前/生活改善の効果現はれ来る/和人は深く自省する処あれ	B	
	1919/12/13		3		蝦夷錦脊の献上/両宮に拝謁せる旧土人/其光榮に感激して熊皮献上/熊祭りまで立派に済ました	C	
	1919/12/14		2		[天声人語]	B	「アイヌから唯だでブツクリ主義」などの文言あり。
	1919/12/19		2		愛奴語辞典増補	B	
	1919/12/28		2		菱川の地名考/土人語の和訳	B	
	1920/01/17		3		熊の穴一斉射撃	B	
	1920/02/05		2		[釧路支庁公文][釧路町大正9年度歳入歳出予算]	C	歳出第十四款に「旧土人保護会補助費」あり。
	1920/02/05		3		両若宮殿下に/熊皮献上	B	
	1920/02/27		3		旧土人職業の/変転/漁業から農へ	B	
	1920/04/02		3		熊皮献上の使/有繫の町長も只管恐縮/御丁寧な両宮家の応接	C	
	1920/04/06		3		旧土人生活向上/帰農の傾向が著しい/然し下付地の開墾成績不良/原始的漁業生活は漸減する	C	
	1920/04/11		2		[天声人語][同日付け3面掲載記事関連での春採尋常小学校への言及あり]	B	
	1920/04/11		3		愛奴学校廃滅に瀕す/保護の実は何処にかある/町は香具師の態を学ぶか/所謂愛奴見物の参観は一種の陵辱也/何たる惨状ぞ本年の就学児唯一名とは	C	
	1920/06/11		3		白糠校運動会/十八日に挙行	A	白糠村各小学校の連合運動会。
	1920/06/27		3		土に執着無く/滅び行く愛奴/折角の給与地も蕪る儘/成功検査にも左して驚かぬ/給与地積を下付人員の分布	C	
	1920/07/09		2		[天声人語]	B	
	1920/07/22		3		釧路の旧土人/現在二百七十二戸/白糠一郡の居住が一番多い/釧路署の六月末現在の調査	C	
	1920/07/22		3		国調の一大難物/旧土人の世帯調査至難/本籍の白糠が頭痛録巻	C	

掲載	年月日	区分	面	執筆者	見出し	量	備考
	1920/07/29		3		久邇宮両殿下／愛奴生活視察／尾幌美林其他も御探検／宮家々職先発視察順路調査／釧路御視察は八月中旬頃か	B	
	1920/08/01		2		[天声人語][久邇宮の釧路来訪について]	B	
	1920/08/01		3		赤裸々の社会見学／金枝玉葉の御微行有難し／久邇両若宮殿下の本道各地視察御日程／釧路旧土人部落御成りは六日の御日程	C	
	1920/08/03		3		久邇若宮御視察予定／築港、土人部落牡蠣島など／就中愛奴生活は御目に如何映じ給はむ／御微行との仰出は下情御見学の思召か	C	
	1920/08/05		3		久邇両若宮御着の日／駅頭奉迎の民衆にて埋らむ	C	
	1920/08/06		3		両殿下晴やかに／御お積を給ふ／釧路駅頭人を以て埋る／沿道国旗掲げ奉迎の意表明／厚岸御視察旅程は変更なし	C	
	1920/08/07		3		愛奴をカメラに納れ給ふ／両若宮殿下の釧路御視察	C	
	1920/08/29		3		愛奴風俗の研究／産褥から分娩迄の奇習／和人が真似た所も一二ある／白糠分署の愛奴部落の調査	C	
	1920/09/09		3		難易の差甚だしき／国勢調査の区域／区の難所は頓化や春採	C	
	1920/09/14		3		達古武の巨熊退治	B	
	1920/09/18		2		坪谷視学巡視	B	
	1920/09/25		3		愛奴族の衰亡は／和人化の結果也	C	
	1920/09/28		2	北海道庁臨時国政調査部	国勢調査の宣伝	C	
	1920/10/21		3		愛奴の衰滅は／肺結核が主因／統計より観たる死亡率	C	
	1920/11/18		2		両会議〔支庁長区長会議〕	B	
	1920/11/21		2		愛奴の義務教育／差別撤廃か	C	
	1920/11/23		3		春採土人の／謝恩会／永久保校長に	B	
	1920/11/27		2		町村戸長会議／本日は講終了	C	
	1920/11/28		3		釧路区発達史観		釧路の区制施行特集紙面の一部。釧路の歴史を述べる。

掲載	年月日	区分	面	執筆者	見出し	量	備考
	1922/02/02		3		永久に光輝ある／殉職の大精神／通信省が俳優を派して／殉職光景を活動写真に撮る	C	吉良平治郎の殉職を報じる。
	1922/02/03		3		全国の同情集る／殉職通送人の遺族へ／今村警察部長は部下に檄し／義捐金を纏めて遺族へ寄贈	B	
	1922/02/04		2		春採青年会発展	B	
	1922/02/04		3		殉難者遺族へ	B	吉良平治郎殉職に寄せられた義捐金。
	1922/02/05		2		[天声人語]	B	[吉良平治郎の殉職に関する映画撮影の話題に触れ、吉良の生活状況などにも言及]
	1922/02/05		3		殉職の光景を／フィルムに撮る／吉良通送人の出発より／雪中悲社の最期まで	C	
	1922/02/05		2		殉難者遺族へ	B	吉良平治郎殉職に寄せられた義捐金。
	1922/02/09		3		雪の現場に於て／殉職の光景撮影	C	
	1922/02/14		3		道庁社会課長の／社会事業抱負	B	
	1922/02/17		1		[釧路区役所公文]	B	大正11年度歳入歳出予算。「旧土人児童保護会補助費」あり。
	1922/02/22		3		[広告：吉良平次郎追悼音楽会大入御礼]	B	
	1922/02/23		3		[エンゲイ][吉良平次郎追悼義太夫大会]	A	
	1922/02/23		3		[広告：吉良平次郎追悼義太夫大会]	B	
	1922/02/24		3		[エンゲイ][吉良平次郎追悼義太夫大会]	A	
	1922/02/24		3		[広告：吉良平次郎追悼義太夫大会]	B	
	1922/02/25		2		昆布森通信 [義捐金募集]	B	
	1922/03/23		3		旧土人に対する／差別教育撤廃／道庁の一大英断	C	
	1922/03/29		3		物心両面から虐られた／旧土人教育の改善／漸次差別教育を撤廃して／行々は和人と共学の方針	C	
	1922/04/18		2		土人保護施設	B	
	1922/04/27		3		義務教育は愈よ／和土各児童平等／校長には全部正教員を／配置するといふは誤報	C	
	1922/04/27		3		古代民族研究の結果／日本人の先祖は愛奴／解剖学の権威小金井博士が／近く世界の学界に発表する	C	
	1922/05/16		3		部落民の生活に／精神的慰安がない／山口署長管内視察談	C	
	1922/05/21		2		土人貸付地成功検査	B	
	1922/05/23		2		土人保導委員／本年設置町村	B	

掲載	年月日	区分	面	執筆者	見出し	量	備考
	1922/06/04		3		牧場荒しの／巨熊銃殺／旧土人の手柄	B	
	1922/06/17		2		〔天声人語〕〔皇太子「行啓」の奉迎準備〕	B	「内地では今も普通り熊は至る所横行活歩しアイヌが同じく全道に充満してゐるやうに思はれて居る」との文言あり。
	1922/06/20		3		行啓地及沿線に於る／御慰物の日時順序決定／道民歎天喜地の至誠の純情／此計画に遺憾なく表現さる	C	皇太子北海道「行啓」の日程概要。
	1922/06/22		3		殉職の大精神を／表徴する記念碑／殉職吉良通送人に宛た／義捐金の処分方法決定／記念碑は殉職地に建立する	C	
	1922/06/25		3		〔エンゲイ〕殉難劇	B	「吉良通送人の殉死」を題材とした「二幕物」の上演計画を報じる。
	1922/06/28		3		牡丹公の第二世／愛奴美人に随喜／「内地の婦人に見せたい／実に印象的で活発だよ」／新冠検分の土産話	C	宮内省主馬頭による、「行啓」前の新冠御料牧場「下検分」の話。
	1922/06/30		3		十勝国居住の／愛奴／生活状態良好	B	
	1922/07/08		2		〔東宮奉迎彙報〕アツシや玉飾で／旧土人の奉迎／白糠軍馬補充部へ行啓の際	B	
	1922/07/10		1	春湖 永久保秀	〔漢詩〕奉迎／東宮摂政殿下恭賦	B	
	1922/07/10		1		先住民族遺跡（上）／釧路近郊の堅穴と砦趾	C	
	1922/07/10		3		帯広町は日一日／奉迎気分濃厚／公会堂の大修理も完成／種馬牧場も却々の多忙／独木船競漕台覧	B	帯広における「行啓」準備の様。
	1922/07/11		2		〔東宮奉迎彙報〕白糠軍馬補充部／奉迎計画概要	C	「奉迎拝観者序列」の、「支部門前東側」に並ぶとされる中に「旧土人」あり。
	1922/07/11		1		先住民族遺跡（下）／釧路近郊の堅穴と砦趾	C	写真1（「御供山の砦趾」）。
	1922/07/11		1		明治大帝行幸秘史（三）／北海道庁の秘蔵記録／葡萄の実は製酒するやとの御下間／土人を召され且つ牧馬追込み天覧	C	1876年北海道「行幸」の回顧記事。
	1922/07/12		2		〔東宮奉迎彙報〕奉迎堵列位置	C	釧路での「奉迎者堵列」順序について。各小学校名を列記する中に「土人学校」との文言あり。
	1922/07/12		1		明治大帝行幸秘史（三）〔ママ〕／北海道庁の秘蔵記録／岩倉右大臣をして拓殖順序御下間／土人を召され且つアイヌを踊〔ママ〕天覧	C	1876年北海道「行幸」の回顧記事。
	1922/07/17		1	春湖 永久保秀	〔漢詩〕 <sup>〔ママ〕</sup> 御駐輦	B	
	1922/07/17		2		鶴駕奉迎の光栄に輝く日！／呼嵩の歓声天地を震撼せむ	C	
	1922/07/18		2		今上の御青年／時代を偲び奉る／十勝川の競漕	C	2面全面が「行啓」記事。その記事の一部。十勝川での「独木舟」の「競漕」を紹介。

掲載	年 月 日	区分	面	執 筆 者	見 出 し	量	備 考
	1922/07/18		2		摂政宮御機嫌麗しく釧路御着	C	2面全面が「行啓」記事。その記事の一部。小学校生徒の「奉迎」に言及する中で春採尋常小学校にも言及。
	1922/07/18		3		殿下御着前の／満区の気分／駅頭の空に煙火轟く迄／市中奉迎気分刻々加る	C	3面全面が「行啓」記事。その記事の一部。小学校生徒の「奉迎」に言及する中で「春採小学校」の文字を大きく表示。
	1922/07/19		2		雨煙る山麓を／軍馬補充部御成／馬匹操練や農事／作業を具に御覧	C	
	1922/07/22		2		愛奴□ボン鞍競馬や／メノコ踊御覧	B	新冠御料牧場での皇太子の様子を報じる。
	1922/07/25		2		〔写真〕東宮台覧の独木舟競漕	B	
	1922/07/25		2		教育と社会事業に／御下賜金の御沙汰	B	「皇太子殿下北海道行啓」に際しての「下賜」。「旧土人教育費」として500円の「下賜」あり。
	1922/07/26		3		〔写真〕北海道行啓画報／東宮殿下の御答札にアイヌ恐懼して最敬礼	B	
	1922/07/28		3		〔写真〕アイヌは馬上踊の為整列	B	皇太子「行啓」関係記事。
	1922/08/08		3		慶応人類学教授／釧路の貝塚視察／石器及び獣骨類も採集	C	
	1922/08/19		3		殉職通送人追彰／前田総裁から吉良の遺族と／葛西の遺族へ五十円宛贈与／吹雪と兇刃に仆る	B	
	1922/08/24		3		春採青年団の／時間励行／行啓記念事業	B	
	1922/09/03		2		土人農業奨励／大農具の貸付	B	
	1922/09/09		2		旧土人被害状況調査	B	大規模な水害を報じる記事の一部。
	1922/09/10		2		道庁水害善後策	C	北海道庁各課の施策を報じる。
	1922/09/13		2		教育令規改廃／服部々長談	C	年長児童及旧土人児童の教育に関する心得（1906年北海道庁訓令第91号）の廃止について言及あり。
	1922/09/17		3		春採青年会主催／第二回競馬大会	B	
	1922/09/19		3		春採丘陵の／競馬会／二日目も盛況	B	
	1922/09/20		3		吉良通送人／殉難碑／二十日除幕式	B	
	1922/09/20		2		春採青年団表彰	A	
	1922/09/21		2		支庁長市長会議／赤十字社支部楼上に開会	C	「指示事項」中に「旧土人児童教育規程に関する件」、「注意事項」に「旧土人保護に関する件」あり。
○	1922/09/21		3		土木功労者表彰／伝達式	B	春採青年会の表彰式で新谷礼助が表彰を受ける。
	1922/09/22		3		通送人殉難碑／除幕式／昨日午前挙行	B	

掲載	年月日	区分	面	執筆者	見出し	量	備考
	1922/09/27		3		教育令改廃の筋書を書いた人/果然泉対君快刀乱麻の/鮮やかなる手腕を発揮	C	参考記事。1922年の道庁の教育令規の改廃について。
	1922/10/07		3		児童の美しい心/塘路小学校生徒勤労で得た金を救助費に義捐/小額ではあるが其志が尊い	C	塘路尋常小学校のアイヌ児童四名の義捐金を報じる。
	1922/10/11		2		〔釧路市役所公文〕〔釧路市告示第27号、「秋季清潔法」の実施日程〕	C	
	1922/10/26		3		吉良通送人殉難碑/明後日除幕式	B	
	1922/10/27		3		殉難記念碑/除幕式次/山岸局長臨席	B	
○	1922/10/29		3		今年は通送人の殉職が多かった/全道通信機関完備に/就て山岸局長の談	C	吉良平治郎殉難碑除幕式出席のため釧路へ向かう通信局長の車中での談話を報じる。
	1922/11/07		2		町村長戸長会議	C	釧路国支庁管内の町村長戸長会議。「指示事項」中に「旧土人児童教育規程に関する件」、「注意事項」に「旧土人保護に関する件」あり。
	1922/11/16		3		愛奴の彫刻模様は/滅亡に瀕して居る/曲線好きなアイヌの工芸	C	
	1922/11/23		2		長官予算説明	C	北海道会での長官による1923年度予算説明。「行啓」の際の「下賜」金による「旧土人教育奨励費」に言及あり。
	1922/12/27		2		旧土人給与地/成功検査甚だ不良	B	釧路市内における「成功検査」について報じる。
	1922/12/27		2		本道教育回顧/大正十一年の教育界/服部内務部長談	C	
	1923/01/11		1		富士山腹に堅穴群/大雪を踏んで石器時代の/アイヌの遺跡を探り当つ	B	
	1923/02/16		3		昆布森の/熊害/管内では第一	B	「牧場経営者等も其都度土人等を集めて狩狩りに骨を折つてゐるのであるが」とあり。
	1923/02/18		3		山岳会釧路支部/発会式日取/来る廿一日挙行に内定/夏期は登山者続出せむ	B	当時の登山の様子を記す中で「土人を案内人として通行せる」と述べる部分あり。
	1923/02/20		2		社会事業協議	B	「協議事項」の中に「土人保護施設の実績に鑑み現行諸規程に改正を量〔ママ〕する事項如何」あり。
	1923/03/06		2		社会事業会議議題	C	支庁市役所の社会事業事務主任会議。「諮問事項」の中に「土人保護施設実績に鑑み現行諸規程に改正を要する事項如何」あり。
	1923/03/07		2		社会事業諮問答申	C	支庁市役所の社会事業事務主任会議の答申内容を報じる。
○	1923/03/13		3		旧土人保護には/特殊病院が必要/既設病院の成績は良好/どし〜普及させたい	C	
	1923/04/05		2		土人保護事務嘱託	B	ジョン・バチェラーに対し「道庁（地方費）より土人保護事務を嘱託」と報じる。
	1923/04/12		3		釧路の旧土人は/薄遇されてゐる/市も支庁も土人保護に/誠意も熱もないらしい	B	

掲載	年月日	区分	面	執筆者	見出し	量	備考
	1923/04/14		2		土人保護協議	B	6月4日から6日まで道庁にて支庁市役所の担当者を集め「土人保護協議会」が開催されると報じる。
	1923/05/19		3		慥にも滅び行く種族四百余名／彼等の生活状態を調査／市では保護施設を研究	C	
	1923/05/20		3		旧土人保護の協議会／三日間道庁で開催	B	
	1923/05/22		3		釧路市児童数	B	釧路市内各小学校の生徒数など。
	1923/05/22		3		市内就学児童／昨年より減少	B	釧路市内各小学校の新学期からの新入生数。
	1923/05/25		3		恵まれない／土人児童／両小学校現況	B	
	1923/05/29		3		旧土人は滅びる／土を愛する事を知らぬ／保護方法改善の方針	B	
○	1923/05/29		2		土人学校々長更迭	B	春採尋常小学校校長に三浦政治着任。
	1923/06/01		2		浮田技師視察	B	道庁技師が「旧土人の農業状態視察」などのため来釧。
	1923/06/03		3		旧土人のために／救療所設置されむ／山本課長の視察に依り／近く実現を見るらしい／場所は帯広長と厚岸町	B	
	1923/06/10		3		滅亡を自ら招く／悲惨な愛奴種族／義務教育の課程など／満足に終るものはない／管内本年三月現在の就学数	B	
	1923/06/12		2		校長会議諮問追案	A	
	1923/06/12		2		土人学校校長会議	C	「全道土人小学校長会議」の諮問事項、指示事項、協議事項などを報じる。
	1923/06/12		2		土人救療規程／近く発布の筈	C	「土人救療規程案」の条文を掲載。
	1923/06/13		2		校長会議答申	C	
	1923/06/13		2		土人保導機関	C	「土人保導委員設置規程案」を掲載。
	1923/06/14		2		差別待遇を嫌がる／土人学校廃止されむ／今度の校長会議も其裏は／近く廃止となる手段の緩	C	
	1923/06/14		2		保導執務細則／旧土人に対する	B	「土人保導委員執務細則」を掲載。
	1923/06/15		2		色丹島土人の生活／道庁社会課亀山属調査	C	
	1923/06/17		2		色丹島土人の生活／道庁社会課亀山属調査	C	
	1923/06/17		3		中ぶらりんの保護などは／種族を滅亡させる／教育を徹底させずに／何の保護何の種族繁栄／保護は本末を顛倒して居る	C	
	1923/06/19		2		色丹島土人の生活(三)／道庁社会課亀山属調査	C	
	1923/06/20		2		色丹島土人の生活(四)／道庁社会課亀山属調査	C	

掲載	年月日	区分	面	執筆者	見出し	量	備考
	1923/06/20		3		帯広に設置の／土人病院／十一月頃開院	B	
	1923/06/21		2		色丹島土人の生活(五)／道庁社会課亀山属調査	C	
	1923/06/22		3		久邇宮同妃殿下／本道御視察日程／奉迎事務取扱規程も決定／釧路は日程の中に無い	C	日程中に「近文土人部落」あり。
	1923/06/22		2		色丹島土人の生活(六)／道庁社会課亀山属調査	C	
	1923/06/24		2		土人保護協議決定	B	各支庁市役所の「旧土人保護事務担当者」の会議日程の変更を伝える。
	1923/06/28		2		旧土人給与地／検査	B	欄外記事。
	1923/06/28		2		土人病院敷地変更	B	帯広に建設予定の「土人病院」の建設位置が変更になることを報じる。
	1923/06/29		2		土人病院敷地詮衡	B	帯広に建設予定だった「土人病院」に関する続報。
	1923/07/07		2	山本社会課長(談)	道内貧困救済方針／山本社会課長談	C	「土人救療」に関する談話。
	1923/07/10		2		土人保護議案	C	「土人保護救済事務打合せ」の「提案協議事項」。
	1923/07/14		2		旧土人所有地	B	釧路国支庁管内の統計。
	1923/07/17		2		旧土人戸口／減少	C	
	1923/07/18		3		喜田文学博士／愛奴研究／土人部落視察	B	
○	1923/07/22		2		土人保護法改正／救済方法諮問	C	道庁で開催される「打合せ会」への釧路国支庁の「答申」内容を報じる。
	1923/07/22		3		伝説と情話／オロッコの復讐と恋	C	
	1923/07/24		3		愛奴青年の哀歌に／金田一講師泣く／父を尋ねるアイヌ青年／今は某ゴム商の店員	B	
	1923/07/24		3		伝説と情話／オロッコの復讐と恋	C	
	1923/07/28		2		土人状況視察	B	道庁による「土人保護事務打合せ会」出席のため来道した内務省事務官らが会議終了後アイヌの「生活状況」を「視察」する予定と報じる。
	1923/07/28		2		土人保護会議／愈々日程決定	B	
	1923/08/01		3		戦の美を此処に観る／管内青年の大競技／全力の尊さを体験した／健児の面上ともに輝く	C	釧路国支庁第二回連合青年団陸上競技大会。
	1923/08/09		2		連合教育代議員会	C	北海道連合教育会第五回代議員会。各教育会からの提出議案中に日高教育会による「北海道旧土人の子弟にして就学児童を有する町村に対し国庫より教育費を補助せられんことを其筋へ建議の件」あり。
	1923/10/20		3		旧土人のために／保導委員囑託／市〔社〕会課が一肌脱いで／土人保導の新しい試み	C	

掲載	年月日	区分	面	執筆者	見出し	量	備考
	1923/11/03		3		昆布森山道に／指導標／村有志の計画	B	「先年」の吉良平治郎の「殉職」にも触れる。
	1923/12/01		2		土人保護委員	B	釧路市及び釧路国支庁管内の「土人保護委員」を記す。
	1923/12/04		3		全市を十二区に／委員の配置／漸く確定した保護委員の顔触／昨日市役所で辞令伝達	C	釧路市の保護委員について。「土人保護委員」にも言及あり。
	1923/12/12		3		特権を剥れて醒た／旧土人大会／白糠土人学校内に開催	C	
	1923/12/23		2		保護員連合会議	A	釧路市及び釧路国支庁管内の保護委員の連合会議。
	1923/12/25		2		保護員会議順序	B	
	1923/12/26		2		[天声人語] [保護委員について論じた箇所あり]	B	
	1923/12/26		2		保護委員協議／山本課長講演	B	協議議題中に「土人保護委員執務細則の研究」あり。
	1924/04/17		3		巨熊を屠り／仔熊生擒	B	

掲載	年月日	区分	面	執筆者	見出し	量	備考
○	1924/11/06		3		給与地の整理で／七万円浮ぶ／此の経費は救療に充当／従来の国費は産業施設	B	
	1924/11/15		3		ニュージーランド土人一行の舞踊	B	参考記事。写真あり。
○	1924/11/17		3		旧土人保護の為／市が規程を設ける／取上となった給与地を／貸下げて収益を図る	C	
	1924/12/07		2		保導委員協議	A	釧路市の保導委員会
	1925/01/01		2		〔白糠村年賀広告。白糠第二尋常小学校長の名もあり。〕	C	
	1925/01/19		3		殉職通送人／追悼会／昆布森に於て	B	
○	1925/02/14		3		虐待されたる／土人教育家／春採小学校々長の窮状／賞与も立替金も呉れぬ	C	
	1925/03/04		3		市保導委員に／記念品／山本課長来釧	B	参考記事
	1925/03/07		2		〔天声人語〕〔釧路市の保導委員が道庁から市の管轄に移ることに関する文章あり〕	B	参考記事
	1925/03/18		2		〔釧路市公文〕〔釧路市告示第8号。市会召集の告示。〕	B	議題中に「旧土人保護救恤並救恤基金特別会計規程制定ノ件」などあり。
	1925/03/21		2		第二回市会／土木継続費問題討議	C	「旧土人保護救恤並救恤基金特別会計規程制定ノ件」など一括討議し可決と報じる。
	1925/03/28		1		〔釧路市公文〕〔釧路市告示第二三号：大正十三年度特別会計追加予算〕	C	「旧土人保護費」「旧土人救恤費」あり。
	1925/05/21		3		さびれゆく／市内の愛奴種族	C	
	1925/05/28		2		支庁教員辞令	B	白糠第二尋常小学校教員の記事あり。
	1925/05/30		3		アイヌ種族は／蛮人ではない／系統は西洋人に近い	C	
	1925/07/03		2		旧土人給与地／整理成績／極めて良好	B	
	1925/07/28		3		本道の愛奴族は／白人種か／グロウヴ女史が／調査の為派遣さる	B	
	1925/08/27		3		今後はアイヌを／師範に入れる／同族教育普及のために／人口は全部で一万五千	B	
	1925/10/05		1		〔釧路市公文〕〔釧路市告示第76号：大正14年度歳入予算〕	C	「特別会計旧土人保護費」あり。
	1925/10/21		3		寄生的色丹土人／自営記念式／いよ／互助組合組織／種族の衰滅は甚だしい	C	
	1925/10/23		2		根室の五不思議／近頃になって二つ殖た／色丹土人の共産的生活と／官吏の俸給が支給されぬ事	C	
	1925/10/24		3		巨熊を射止めて／誉の熊祭／川上補充部を荒した／兇熊退治の両勇士	C	
	1925/10/29		3		社会病に罹った／悲惨な五十六名／市の社会課で救護	C	
	1925/11/12		3		共同財産分配金で／互助組合の組織／色丹開発に功労ある／人々に思かけぬ幸福	C	

掲載	年月日	区分	面	執筆者	見出し	量	備考
	1925/11/15		5		主要原野の／中心地たる塘路／塘路湖の水産富源／最も近い釧路市の遊覧地	C	
	1925/11/16		3		郷土史編纂の魁に／愛奴の城砦発掘／張り子の虎ちやあるまいし／と……ど豪い元氣のお歴々／雨を衝いて春採から	C	
	1925/11/17		3		興味の深い／チャシと堅穴／郷土史編纂になくて／かなはぬ研究好材料	C	釧路中学校阿部校長の談話を紹介。
	1925/11/18		3		興味の深い／チャシと堅穴／郷土史編纂になくて／かなはぬ研究好材料〔続き〕	C	釧路中学校阿部校長の談話を紹介。
	1925/11/19		3		興味の深い／チャシと堅穴／郷土史編纂になくて／かなはぬ研究好材料〔続き〕	C	釧路中学校阿部校長の談話を紹介。
	1925/12/02		3		貧乏の宿命観／僅の救恤に随喜する／善人の裔／人も羨まず世も怨みず／貧民調査第三日目	C	春採視察の報告。
	1925/12/03		3		追分節の哀調に／訪ふ人を泣ぐませる／盲愛奴／あ、名流の部落視察は／趣味か道楽か咄々	C	12月2日付け記事に続く内容。
	1925/12/12		3		救済を必要とする／貧困者数／救済の程度はホンの／生命を繋ぐだけだ	C	
	1925/12/12		3		市内の／古蹟名勝／調査方依頼	B	
○	1925/12/14		3		工事にとりかゝった／春採の「情け宿」／塚野さんの胆煎りで／年内に竣成の見込み	C	
	1925/12/25		3		永久保未亡人／五百円寄附／米町聖公会へ	B	
	1926/02/20		3		新市長春採部落の／生活実情視察	B	
	1926/02/21		3		岡本新市長さんの／民情視察	C	
	1926/02/27		3		部落に出来た／情け宿／春採青年団の大努力／同族救済のために	C	
	1926/03/01		3		情け宿に／燃料がない／炭礦に交渉	B	
○	1926/03/05		2	支局記者	札幌より	C	冒頭で遼星北斗について触れる。
	1926/03/07		1		〔釧路市公文〕〔釧路市告示第11号：1926年度釧路市歳入歳出予算〕	C	「旧土人救恤費」などあり。
	1926/03/07		3		情け宿の開所式／淪落の人々十名収容／夜具や着物も夫々配給／五右衛門風呂も設備された	C	
	1926/03/08		2		東部社会事業監査〔道庁社会課の事務監査。監査先に美幌、白糠などの互助組合あり。〕	B	
	1926/03/19		3		春採旧土人の／楽園／情け宿の現況	B	
	1926/03/24		3		土人給与地／復活開陳／事務監査員に	B	道庁社会課の事務監査に関する記事。
	1926/04/08		3		愛奴は自滅する／人口動態で大体が窺はれる	B	

掲載	年月日	区分	面	執筆者	見出し	量	備考
	1926/04/08		2		北大創基五十周年／記念式並に祝典／順序や日程等も決定	B	日程中の「活動写真」の上映作品中に「アイヌの生活」あり。
	1926/05/11		3		春採の部落でも／混血児は虐られる	C	
	1926/05/12		3		緑の野や山に／観桜の憧憬	C	
	1926/05/16		3		根室千島両国／旧土人分布／総戸数百四十	B	
	1926/06/03		6		〔広告：青木純二著『アイヌの伝説』〕	B	他の日付の紙面にも掲載あり。
	1926/06/06		3	三浦政治	樹を植ゑる事に付て(一)	C	
	1926/06/07		2	三浦政治	樹を植ゑる事に付て(二)	C	
	1926/06/08		2	三浦政治	樹を植ゑる事に付て(三)〔終わり〕	C	
	1926/07/04		5	佐藤生	弟子屈廻り〔短歌〕	B	
	1926/07/23		2		根室土人児童／就学成績／いづれも良好	B	
	1926/07/24		3		情け宿の看板を／春採園と塗替る／凌ぎよい時節となって／所謂窮民も少くなった	C	
	1926/07/25		2		管内統計／主任会議／二十六七両日	B	「注意事項」中に「旧土人統計の件」あり。
	1926/07/30		3		人類学からの／石器人とアイヌ／京都大学の清野博士／春採ヶ丘へ日参の研究	C	
	1926/08/28		3		閑院宮／奉送迎／準備全く成る	B	参考記事
	1926/09/11		3		恵まれない／色古丹島の児童／教育を授けたいにも／不可能な状態／十年間義務教育免除となる	B	参考記事
	1926/09/16		2		釧路に多い／労働者の犯罪	C	「内地からやって来る時は〔中略〕アイヌや熊と雑居してる位にしか」との文言あり。
	1926/09/24		2		歓迎損に終る／本道の視察者／熊やアイヌの話聞く外／真に本道を研究したる者／果して幾人ある？	C	
	1926/10/29		2		春採青訓／復活計画	B	
	1926/11/02		2		舌辛村が／一級制実施申請／財政の基礎は鞏固／多分来年四月から実施せむ	C	村の歴史を紹介する中で釧路のアイヌを下雪裡に移転させたことに触れる。
	1926/11/06		3		一新生面を拓いた／アイヌ族の新学説／世界に誇る古畑博士の血液研究／汎太平洋学術会議で堂々と発表／日本民族の起源暗示	C	
	1926/12/27		3		本道産馬の勃興は／先帝御刺戟の賜物	C	大正天皇追悼記事。1911年北海道「行啓」に言及。
	1926/12/28		3		北地開拓を奨め給ふ／先帝御巡啓の御跡	C	大正天皇追悼記事。1911年北海道「行啓」に言及。
	1927/05/24		3		土人救護費／六百八十円	A	「本年度本道土人保護救済費中釧路国に交付される額」を報じる。

掲載	年月日	区分	面	執筆者	見出し	量	備考
	1927/06/10		2		パチラー博士の／愛奴教化後援／徳川侯其他が協力し／十 万円抛出の計画	B	
	1927/06/26		3		貝塚、城跡、堅穴／市内四ヶ 所の史蹟が／保存仮指定の模 様／学務部長から調査方通牒	B	
	1927/07/06		2		弟子屈御料地／解放の曙光／ 気運熟せりと見て／近く委員 活動開始	C	参考記事。
	1927/07/10		3		年々減る／旧土人／離婚や出 稼ぎが原因	B	
	1927/07/21		1		厚岸町公文〔厚岸町条例第3 号：戸数割賦課徴収条例〕	B	
	1927/08/23		3		多和牧場で／大熊退治／補充 部員が／見事射止る	B	
	1927/08/28		3		ベカンベの／湖祭	B	
	1927/10/04		3		郡部の貧民調べ／旧土人救助 は十一名	B	
	1927/10/06		3		新顔も入れて／保導委員決定 す	B	釧路市保導委員の囑託。
	1927/10/25		3		借地料を皆酒にする／十勝の アイヌ／給与地は和人が耕作 ／支庁が見兼ねて整理救済	B	
	1927/10/30		7		勝地を結んで／自動車道路／ 保勝会と呼応する／永山所長 のプラン	C	「阿寒弟子屈間は現在阿寒より屈斜路湖まで九里をアイヌを道案内として、命がけで踏破して居る」とあり。
	1927/12/13		2	永山生	千島の幽境／色丹島を観る(一)	C	
	1927/12/16		2	永山生	千島の幽境／色丹島を観る(二)	C	
	1928/01/29		2		伏古互助総会	B	
	1928/02/10		3		秩父宮御視察／御日程	B	
	1928/02/17		3		秩父宮様御日程は／道庁で作 製申上る	B	
	1928/02/18		3		北海の雪の曠野に／民情を究 はめ給ふ／体育御奨励券々の 仮の御旅にも／青草人の上に 御心とめ給ふ畏こさ／秩父宮 御日程	B	日程に「近文土人部落」あり。
	1928/02/29		2		帯広を発して／一路釧路へ／ 伏古日新校に御成り／旧土人 の生活御視察	B	
	1928/03/03	夕	3		春採土人校修理／救済費増額 にて	B	
	1928/03/07	朝	1		〔釧路市公文〕〔釧路市告示 第20号：大正15年度釧路市決 算〕	C	「旧土人保護費」などあり。
	1928/03/10	朝	1		〔釧路市公文〕〔釧路市告示 第23号：昭和3年度釧路市予 算〕	C	「旧土人保護費」などあり。
	1928/03/21	夕	3	小助川濱雄	釧路の海に／白糖郷土誌稿より(二)	C	「アイヌ俗語」の引用などあり。
	1928/03/24	朝	3		パチラー氏の／保護学園／道 庁も一肌ぬいで寄附募集	B	

掲載	年月日	区分	面	執筆者	見出し	量	備考
	1928/03/25	夕	3	小助川濱雄	釧路の海に／白糠郷土誌稿より(四)〔五〕	C	「(四)」とあるが連載第5回。アイヌの歴史に言及あり。
	1928/03/27	夕	3		明雪庵集〔俳句〕	B	俳句一句あり。
	1928/03/29	朝	2		旧土人／人口減少／此分では衰滅も遠くない	B	
	1928/05/11	夕	2		春採チャシ／破壊される／惜しいものだ	B	
	1928/05/12	夕	3	更科源蔵	〔詩〕外へ出やう	B	
	1928/05/24	夕	2		春採青訓の／臨時査閲／森中佐嘆賞	B	
	1928/05/25	夕	2		駅名起源の／ロマンス／鉄道で募集中	B	
	1928/05/27	朝	3		ベカンベ祭りや／桜、紫つゝじ／市民絶好の遊覧地／塘路湖の名物	B	写真1（塘路湖）。
	1928/05/27	夕	2		熊牛村各校／愛奴学園寄付	B	
	1928/05/27	朝	2		春採青年訓練所／臨時査閲／成績は良好	B	
	1928/05/29	朝	3		いよ／きまった／清潔検査日割／春は頓化方面を皮切に／六月四日から開始	B	
	1928/05/30	夕	2		愛奴保護に寄付	A	「湖畔小学校職員生徒一同」からの寄付を報じる。
	1928/05/30	夕	2		川西書記官／紹介視察／来月四日来釧	B	内務省社会局書記官の道内視察。日程に釧路で「奴人部落視察」あり。
	1928/06/01	朝	2		釧路学事概況／市役所調査	C	
○	1928/06/02	朝	3		学園基金に／児童拠金／管内の分送付	B	「アイヌ保護学園」への支庁管内各小学校からの寄付。
	1928/06/12	朝	2		昭和三〔ママ〕年度に於ける／釧路国学事状況／支庁統計係調査	C	釧路国支庁管内の1927年度の「学事概況」。
	1928/06/17	夕	2		危険思想の排除を／巖島社頭に誓ふ／暁の五時市聯合青年団の参拝	C	春採青年団員の参加もあり。
	1928/07/12	夕	2		アイヌ学園／基金募集／知名の士発企	B	
	1928/07/15	朝	2		感化訓育の／徹底方法協議／関東、東北、北海道／感化院長会議開催	C	札幌にて開催。日程の「視察」の中に「アイヌ保護学園」あり。
	1928/08/07	朝	3		多少改善せられた／色丹土人の生活／それでも移住当時に較べて／人口が半減した	C	
	1928/08/27	朝	3		塘路湖畔旧土人の／ベカンベ祭り／伝説の沼の神様に感謝／来る三十一日執行	B	
	1928/09/08	夕	2		涼を訪ねて 16／釧路川落ち口の／眺湖橋／アイヌ部落も近い	B	
	1928/09/09	夕	3	山本其人	物質的阿寒山(十一)	C	
	1928/09/14	夕	3	山本其人	物質的阿寒山(十五)	C	

掲載	年月日	区分	面	執筆者	見出し	量	備考
	1928/09/15	朝	3		釧路文化の揺らん／第一学校物語／丸太塾の寺小屋〔ママ〕時代から／五十年祝まで(二)	C	写真1。開校当時の様子の回想の中に「土人が四分の一を占めて」とあり。このあと(ハ)まで連載あり。
	1928/09/23	夕	3	津田南涯	千島紀行(二)	C	
	1928/10/03	夕	2		湖畔に名高い／美髯チャチャ	C	写真1。
	1928/10/14	夕	2		アイヌ族の滅亡は／優生学上避け難い	C	
	1928/11/14	夕	3		草場属視察／釧中と土人学校	B	
	1928/11/18	朝	2		〔天声人語〕〔春採懐古館関係〕	B	
	1928/11/18	朝	3		愛奴宝物保存／草堂落成式／十九日の午後挙行／純アイヌ式の建物	B	
	1928/11/20	朝	2		御大典を記念する／草堂春採懐古館	C	落成式の模様を報じる。写真1。
	1928/11/21	夕	1		〔カクテル〕〔春採懐古館関係〕	B	
	1928/11/23	朝	3		懐古館を飾る／宝物類蒐集	B	
	1928/11/29	夕	3	小助川濱雄	アイヌ歌謡の一考察／白糠郷土誌稿より(一)	C	
	1928/11/30	夕	3	小助川濱雄	愛奴歌謡の一考察／白糠郷土誌稿より(二)	C	
	1928/12/01	夕	3	小助川濱雄	愛奴歌謡の一考察／白糠郷土誌稿より(三)	C	
	1928/12/02	夕	3	小助川濱雄	愛奴歌謡の一考察／白糠郷土誌稿より(四)	C	
	1928/12/04	夕	3	小助川濱雄	愛奴歌謡の一考察／白糠郷土誌稿より(五)	C	
	1928/12/10	朝	3		懐古館へ／ちん品寄贈／着々整理中	B	
	1928/12/18	夕	2		愛奴舞や蛮族舞／津々浦々の奉祝模様／民草の赤誠を映画に収めて／天覧に供する	B	11月10日「御大典」当日の「奉祝模様」が映画にまとめられる、との記事。



『釧路新聞』1928年11月20日付け2面掲載写真。  
 (「春採懐古館」落成時の写真)

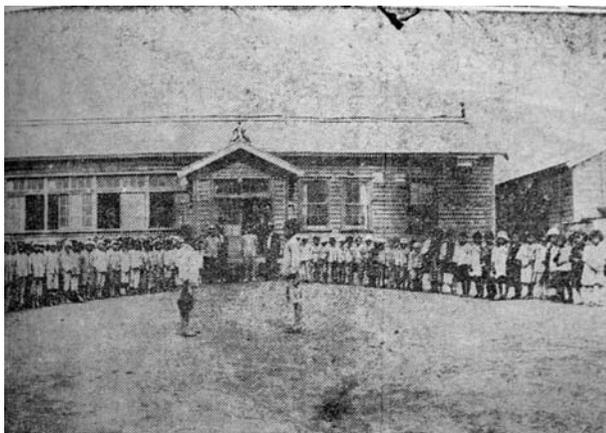
掲載	年月日	区分	面	執筆者	見出し	量	備考
	1931/01/09	夕	2		土人互助組合/定期総会/春採校に於て	B	
	1931/01/12	朝	3		正しい熊祭りを/遍く江湖に紹介/内務省の今後の禁止方針に/カメラマン起つ	B	
	1931/02/01	朝	3		塘路湖のベカンベは/胃癌の大妙薬	B	
	1931/02/03	朝	3		市社会課/大多忙/催し物がつづく	B	日程中に「土人農事講習会」あり。
	1931/02/08	夕	2		春採土人/農事講習会	B	
	1931/02/09	朝	2		土人給与地/指令/目下製作中	B	
	1931/02/26	朝	3		春遠からじ/労働の貴さ/高田新土木所長が/土人給与地に贈物	B	写真1。
	1931/02/26	夕	3		本道みやげ品/展覧会批判会	B	
	1931/03/13	朝	1		釧路市公文	B	昭和4年度釧路市歳入歳出決算。
	1931/03/15	朝	1		釧路市公文	B	昭和6年度釧路市歳入歳出予算。
	1931/03/18	朝	3		釧路国支庁管内の旧土人戸口	B	
	1931/04/08	朝	2		旧土人の給与地/標茶村が一番多い	B	
	1931/04/19	夕	1		春採土人給与地/合理的に経営させる/多年懸案の土地払下成功し/指導計画を樹てる	C	
	1931/04/21	朝	3		殉職運送夫の/遺族に住宅を給与/農業に従事せしめる方針	B	
	1931/04/25	朝	3	田中館秀三	地文学上より見たる厚岸湾(十二)	C	
	1931/04/28	朝	2		土人互助組合臨時総会	A	
	1931/05/01	朝	3		貰った土地の/手入れと開墾準備/旧土人組合総会協議	C	
	1931/05/02	夕	2		コロポクル[ママ]の/研究団体生る	B	
	1931/05/03	夕	3		北海道小学郷土読本/巻の九から	B	
	1931/05/07	夕	2		ワン・カット(79)/ユーモラスな旅びの人々/富士屋旅館主人漫談(10)/徳川公爵	C	写真1。
	1931/05/17	朝	2		吉田技師/塘路湖視察	B	
	1931/05/17	朝	3		マンロー氏は/十月ごろ来釧	B	
	1931/05/17	朝	3		春採禁酒会/支部生る	B	
	1931/05/19	朝	3		第二校の/遠足	B	尋常4年の行き先は「春採アイヌの考古館」。
	1931/05/21	夕	2		差別待遇を撤廃する/土人小学校廃止/但真意は経費節約の為めか/今夏限り実施	C	
	1931/05/24	夕	2		第五校の/史蹟訓育	B	

掲載	年月日	区分	面	執筆者	見出し	量	備考
	1931/05/28	朝	3		塘路二つ山牧場で／巨熊を射止る	B	
	1931/05/30	夕	3	山田穂積	〔詩〕釧路風景	B	
	1931/06/05	夕	2		貝塚発掘の彫刻は／支那の古代文字	B	写真1。
	1931/06/06	夕	2		アイヌ伝説蒐集／鉄道当局の新しい試み／駅長に依頼して	B	
	1931/06/11	夕	2		旧土人奨学／規程制定／明治大帝の意を戴して	B	
	1931/06/20	夕	2		廿一日放送〔ラジオ番組「郷土史講座アイヌの風俗習慣」あり〕	B	
	1931/06/21	夕	2		白糠校聯合運動会	B	第1、第2両小学校聯合運動会。写真1。
	1931/06/23	夕	1		土人の給与地を／放牧地に変更／厚岸互助組合請願	C	
	1931/06/28	朝	3		〔見聞雑記〕〔阿寒のアイヌの伝説を紹介〕	B	
	1931/06/28	夕	2		廿八日放送〔ラジオ番組「郷土史講座アイヌの伝説について」あり。講師吉田巖。〕	B	
	1931/07/05	夕	2		五日放送〔ラジオ番組「郷土史講座アイヌの芸術について」あり。講師今裕。〕	B	
	1931/07/10	朝	3	田村剛（林学博士）	引き付られた／阿寒の魅惑（上）	C	
	1931/07/11	朝	3	田村剛（林学博士）	引き付られた／阿寒の魅惑（下）	C	
	1931/07/12	夕	2		十二日放送〔ラジオ番組「郷土史講座シャモとアイヌ」あり。講師高倉新一郎。〕	B	
	1931/07/18	朝	2		春採旧土人学校／八月で廃止決定／白糠第二校は年度末迄存置	B	
	1931/07/19	朝	2		〔天声人語〕〔阿寒国立公園期成同盟による歓迎会の模様を記す。〔阿部鉄次郎氏のアイヌ踊り〕あり。〕	B	
	1931/07/19	夕	2		原始の神秘を横断して／一路阿寒の幽境へ／調査団視察第二日	B	
	1931/07/19	夕	2		十九日放送〔ラジオ番組「郷土史講座シャモとアイヌ二」あり。講師高倉新一郎。〕	B	
	1931/07/19	朝	3		雄大と幽翠の風光に／お気に召した阿寒／調査団視察第三日	B	
	1931/07/22	朝	3		〔写真〕アイヌ踊り 十八日春採部落	B	
	1931/07/26	夕	2		二十六日放送〔ラジオ番組「郷土史講座シャモとアイヌ三」あり。講師高倉新一郎。〕	B	
	1931/07/26	朝	3		秘められた二つの魂／阿寒天然記念物「恋いマリモ」の伝説（上）	C	
	1931/07/27	朝	3		秘められた二つの魂／阿寒天然記念物「恋いマリモ」の伝説（下）	C	

掲載	年月日	区分	面	執筆者	見出し	量	備考
	1931/07/31	夕	2		厚岸旧土人/米噌給与/保護組合から	B	
	1931/08/06	夕	2		旧土人保護陳情/別寒辺牛と庶路村土人其他/内務部長を訪問	B	
	1931/08/16	夕	2		十六日放送〔ラジオ番組「郷土史講座シャモとアイヌ三〔ママ〕あり。講師高倉新一郎。〕	B	
	1931/08/22	朝	3		旧土人の仙公/大熊を撲り殺す/塘路付近白魚峠で/講談のやうな活劇	B	
	1931/09/01	夕	2		春採小学校閉鎖し/けふ廃校式挙行/児童は大部分第三校に収容	B	
	1931/09/01	朝	3		石器を繞る/謎の先住民族	C	
	1931/09/02	夕	2		あこがれの気持一杯で/第三学校へいそ〜と/春採土人学校の児童たち/旧校清掃し別れを告げる	C	写真1。
	1931/09/02	朝	3		石器を繞る/謎の先住民族(2)	C	
	1931/09/03	朝	3		石器を繞る/謎の先住民族(3)	C	
	1931/09/04	朝	3		石器を繞る/謎の先住民族(4)	C	
	1931/09/05	夕	2		春採小学校/送別会	B	
	1931/09/05	朝	3		石器を繞る/謎の先住民族(5)	C	
	1931/09/06	夕	2		老アイヌ巨熊を射止め/古潭は熊祭りで大賑ひ	C	
	1931/09/06	朝	3		石器を繞る/謎の先住民族(6)	C	
	1931/09/07	朝	3		石器を繞る/謎の先住民族(7)	C	
	1931/09/08	朝	3		石器を繞る/謎の先住民族(8)	C	
	1931/09/09	朝	3		石器を繞る/謎の先住民族(9)	C	
	1931/09/10	朝	3		石器を繞る/謎の先住民族(10)	C	
	1931/10/16	夕	2		厚岸管内旧土人に/牝牛廿一頭配給/三年越の補助申請が不問/思ひ切って別途購入	B	
	1931/11/19	朝	3		アイヌの痔病薬	B	
	1931/11/25	夕	2		屈斜路湖の/古潭で熊祭/廿九日盛大に	B	
	1931/11/28	朝	3		古丹熊祭り/来六日に延期	A	
	1931/12/04	朝	3		元警察署跡はクシリ・チャシ/英傑シユバチか(上)	C	
	1931/12/05	朝	3		チャシ築城の目的と/「クシロ」の語源/おもしろい両地名解の見解/英傑シユバチか(中)	C	

掲載	年月日	区分	面	執筆者	見出し	量	備考
	1931/12/06	朝	3		喉の釧路は無意味／四通発達の要地／かくて市の開発史を飾る／英傑シユバチか（下）	C	
	1931/12/09	朝	3		アイヌの／古刀寄贈／考古学研究会に	B	
	1931/12/09	朝	3		旧土人校に／奨学資金／釧路国白糠第二校に	B	
	1931/12/29	朝	2		〔札幌より〕〔凶作に対する国の救済を報じる。〔此の地方の農民はアイヌじゃないかといはれても…〕とのフレーズあり〕	B	
	1932/01/19	夕	3	小助川濱雄	古文献にあらはれたる／阿寒及び屈斜路地帯(1)／先住民の占住状況（上）	C	
	1932/01/20	夕	3	小助川濱雄	古文献にあらはれたる／阿寒及び屈斜路地帯(2)／先住民の占住状況（下）	C	
	1932/01/21	夕	3	小助川濱雄	古文献にあらはれたる／阿寒及び屈斜路地帯(3)	C	
	1932/01/22	夕	3	小助川濱雄	古文献にあらはれたる／阿寒及び屈斜路地帯(4)／地名の発祥（下）	C	
	1932/01/23	夕	3	小助川濱雄	古文献にあらはれたる／阿寒及び屈斜路地帯(5)／最初の史実と交通要路（上）	C	
	1932/01/24	夕	3	小助川濱雄	古文献にあらはれたる／阿寒及び屈斜路地帯(6)／最初の史実と交通要路（下）	C	
	1932/01/26	夕	3	小助川濱雄	古文献にあらはれたる／阿寒及び屈斜路地帯(7)／阿寒山の経歴（上）	C	
	1932/01/27	夕	3	小助川濱雄	古文献にあらはれたる／阿寒及び屈斜路地帯(8)／阿寒探勝の古文献久摺日し（上）	C	
	1932/01/28	夕	3	小助川濱雄	古文献にあらはれたる／阿寒及び屈斜路地帯(9)／阿寒探勝の古文献久摺日記（中）	C	
	1932/01/29	夕	3	小助川濱雄	古文献にあらはれたる／阿寒及び屈斜路地帯(10)／阿寒探勝の古文献久摺日記（下）	C	
	1932/04/03	朝	3		貝塚は嚴重保存せよ／お供山は千年前／西村博士の遺跡調査（上）	C	写真1。
	1932/04/05	夕	2		一ヶ月ほど滞在して／調べたい市の近郊／西村博士の遺跡調査（下）	C	写真1。
	1932/04/06	朝	3		旧保導委員に／市長が謝意	B	
	1932/04/17	朝	3		生存権確保のため／土地を与えよと／旭川のアイヌ代表／大蔵省に事情陳情	B	
	1932/04/17	夕	2		猶予地の開墾や／肥料・種芋の分配／桂恋内区への道路も開く／旧土人の互助組合	B	
	1932/04/18	朝	2		〔写真〕アイヌ代表土地返還の陳情に社会局長訪問	B	
	1932/04/29	夕	1		春採土人学校／敷地処分／校舎と共に市が払下げる	B	

掲載	年月日	区分	面	執筆者	見出し	量	備考
	1932/04/29	夕	2		先住民族の神秘／遺跡研究座 談会(一)／久寿里説と遺跡とに 横はる語源の矛盾／いまもク シロ川に残る祭文		



『釧路新聞』1931年9月2日付け夕刊2面掲載写真

掲載	年月日	区分	面	執筆者	見出し	量	備考
	1933/02/04	朝	3		網走旧土人の種苗給与金	B	
	1933/02/08	夕	2		春採に農事/実行組合	B	
	1933/02/16	朝	3		四月から高学児童に/郷土地理を教授	C	
	1933/03/01	夕	2		軍国主義罵倒の虚報や放火など/マ博士災難つき/パチェラー系アイヌの反目/来釧期は長引くか	C	
	1933/03/18	朝	3		旧土人の/所有土地調べ/農業が一番に多い	B	
	1933/03/18	夕	2		白糠村第二校/卒業式/同校最後の	B	
	1933/03/25	夕	2		春採青年団/道路除雪	B	
	1933/04/02	朝	2		社会事業主任/会議網走提出事項	B	
	1933/04/02	夕	2		白糠第二校/廃校/昨三十一日限	A	
	1933/04/05	朝	3		アイヌ人の祖先は/白人種に近い	B	
	1933/04/09	朝	3		学校廃合で/御真影奉還	B	
	1933/04/14	夕	2		英国から出た/百万年前の原始石器/それが釧路の発掘品と/全く同形の不思議	C	
	1933/04/14	夕	2		御真影奉還に/視学出札	A	
	1933/04/18	夕	1		白糠小学校児童増加/第二校廃止で	B	
	1933/05/04	朝	3		マンロー博士愈よ/来る十六日来釧	B	
	1933/05/14	朝	2		昨年アイヌ給与地	B	
	1933/05/16	朝	3		マンロー博士/けふ来釧遺跡調査	B	
	1933/05/17	朝	3		天寧にある貝層は/三百万年は経過/マンロー博士郊外を踏査	C	
	1933/05/18	夕	2		旧土人乱闘組合/塚野顧問をひぼうして/春採・一騒動持上ぐ	B	
	1933/05/19	夕	2		マ博士高熱/けふの白糠踏査は中止/昨夜・講演会盛況	C	写真1。
	1933/05/22	朝	3		巖島神社を御参拝/日本釧路種台覧/両宮殿下標茶へ向はせらる/白糠愛奴に酒肴料/両殿下から	C	
	1933/05/23	朝	3		神秘の山・水帳を脱し/両宮殿下御感歎/妃愛奴をカメラに収めらる	C	
	1933/05/23	夕	2		馬を愛撫されつつ/専門的の御質問/春仁王標茶軍馬補充部御視察	C	
	1933/05/26	夕	3	小助川濱雄	郷土愛誦歌抄	C	「アイヌ古老と郡境を探る」あり。
	1933/06/10	朝	3		釧路国土人保護救済費増額	B	

掲載	年月日	区分	面	執筆者	見出し	量	備考
	1933/06/21	朝	3		阿寒の伝説／玉藻の由来／共進会余興として上演決定	B	
	1933/06/21	朝	2		内地視察の報告など／きのふ方面懇談会	B	
	1933/06/22	夕	3		春採部落紛争／円満解決	B	
	1933/06/27	朝	3		厚岸旧土人に／農具給与	B	
	1933/07/11	夕	1		李王殿下／巖島神社御参拝の後／日本釧路種御覧	C	「先住民族の遺物御覧」の小見出しあり。
	1933/07/13	朝	3		人種学上好資料の／アイヌ犯罪の研究／鈴木検事之を携へ／第二部司法研究会へ出席	B	
	1933/07/21	朝	3		国立公園地帯の「十勝」候補を探る <sup>4</sup>	C	
	1933/07/22	朝	3		オロチョン族の／プロコ氏来釧	B	
	1933/07/25	夕	3	プロコ	亡び行く民族の現情を／世界全人類に訴ふ(一)／オロチョン族代表 プロコ記	C	
	1933/07/27	夕	3	プロコ	亡び行く民族の現情を／世界全人類に訴ふ(二)／オロチョン族代表 プロコ記	C	
	1933/09/02	夕	2		ほんものの“熊”出場／先住民族のお祭り／愈よ三日市役所前古戦場で	C	
	1933/09/04	朝	3		残暑灼熱下に先住民族／遺跡保存竣功祭／昨日市役所前の遺跡で執行	C	写真1。
	1933/09/06	朝	2		春採旧土人／付与地整理	B	
	1933/09/09	夕	3	稲川阿尊	厚岸に於ける幕吏近藤重蔵の事績を探尋して	C	
	1933/09/13	朝	3		春採の愛奴部落に／世界的奇病「イム」	C	
	1933/09/16	朝	2		釧路国旧土人土地下付状況	B	
	1933/09/27	朝	2		工芸試作展／擬賞	B	
	1933/10/06	朝	3		災禍のマ博士に／感謝状と献金	B	
	1933/10/19	朝	3		マンロー博士／けふ来釧	B	
	1933/10/20	夕	2		市の遺跡と阿寒の風光を／全世界に紹介／京都から活動写真撮影師を従へ／マ博士けさ来釧	C	
	1933/10/21	夕	2		マ博士の滞在日程	B	
	1933/10/26	夕	2		マ博士一行／弟子屈へ	B	
	1933/10/29	朝	2		土地を貰はぬ／旧土人	B	
	1933/11/07	朝	3		マ博士退釧／来年またお目にかゝる	A	
	1933/11/07	夕	2		厚岸旧土人互助組合／創立五十年記念／糸魚沢菊地小学校に開催／功労者を表彰す	C	

掲載	年月日	区分	面	執筆者	見出し	量	備考
	1933/11/16	朝	3		地方色と懐古豊かな／五十年記念郷土展／あすから白糠村で開催	C	展示中に「アイヌ土俗品」、行事に「カムイノミ」あり。
	1933/11/17	朝	1		五十年記念／会合と行事	B	一面全面が「白糠村開村五十報告祭」で、この記事はその一部。日程中に「アイヌ古老カムイノミ」あり。
	1933/11/18	朝	3		白糠に新機軸画した／開村五十年記念式	C	「懐古室ではアイヌの祭典」との小見出しあり。
	1933/12/05	夕	3	佐藤直太郎	学界を覆す爆弾／考古学研究会刊行の／「釧路市先住民族遺跡」批判	C	
	1933/12/06	夕	3	山田仁	釧路自身を知るために／考古学研究会刊行の／「釧路市先住民族遺跡」批判（中）	B	
	1933/12/07	夕	3	山田仁	釧路自身を知るために／考古学研究会刊行の／「釧路市先住民族遺跡」批判（下）	C	
	1933/12/08	夕	3	藤野謙助	苦心努力の跡／歴然たり／考古学研究会刊行の／「釧路市先住民族遺跡」批判	B	
	1933/12/09	夕	3	津田騰三	繰り返して読まされる／考古学研究会刊行の／「釧路市先住民族遺跡」批判	B	
	1933/12/30	朝	3		アイヌ酋長が／はるばる上京／アイヌの正装を凝らし／二重橋前で万歳	B	

掲載	年月日	区分	面	執筆者	見出し	量	備考
○	1938/03/16	夕	2		春採裁縫学院に情操的な人物を／教員に欲しいと陳情	B	
	1938/03/19	夕	2		春採裁縫塾／寄付金募集に着手	A	
	1938/03/29	朝	3		春採裁縫学院	A	開校式4月1日予定のところ6日に変更。
	1938/04/05	夕	2		蝦夷地で発掘された／種ヶ島の火縄銃／最近出陳された土器石器等／春開く北見郷土館	B	
	1938/04/09	朝	3		先住民族文化と／特殊な鳥獣の蒐集／神秘千島を探る／博物館主任／片岡新助氏が発	C	
○	1938/04/13	夕	2		春採技芸教習所開所式	B	
	1938/04/13	夕	3	更科源蔵	随筆／墓地・墓標・碑 上	C	
	1938/04/14	夕	3	更科源蔵	随筆／墓地・墓標・碑 下	C	
	1938/04/22	朝	2		共通財産を活用して／旧土人を更生さす／生活の水準向上に精神訓練／経済指導も行ふ／主畜農業へ邁進／更に第二弾の計画を	C	
	1938/05/03	朝	2		愛奴住宅改良	A	1938年度施行予定の管内の住宅改良。
	1938/05/06	夕	2		釧路はクスリの転訛と／松浦翁日誌で確信／北海道踏査野取帳を見て／クスリ説の佐々木議長狂喜	C	
	1938/05/31	朝	3		ノボリオンド山／震災で北に傾斜／コタン部落は無事	B	弟子屈での地震を報じる紙面の一部。
	1938/05/31	夕	2		神の怒りを柔げる祈り／コタン愛奴部落	B	弟子屈での地震を報じる紙面の一部。
	1938/06/05	夕	1		厚岸土人放牧地／近く町へ売払許可	B	
	1938/06/24	朝	3		尋常六年の地理書に／愈よ阿寒が登場／林図書監修官補踏査して帰京／愛奴生活も調査	B	
	1938/07/20	朝	3		呼び物は愛奴神楽／郷土色で染める開局の喜び／愈よ明日に迫る	B	釧路放送局開局式の予定を報じる。
	1938/07/22	夕	2		釧路郷土文化躍進の推進力／釧路放送局開局式／百ワット本放送を期して／けふ釧路公会堂で	B	写真1。
	1938/07/28	夕	3		春採に養兔組合	A	
	1938/08/07	夕	2		鮭釧路を電波に乗せて／全国に涼味を送る／伝説の塘路湖ベカンベ祭りも	C	
	1938/08/27	朝	2		水郷塘路湖の／ベカンベ祭り／今年は四日の日曜に	B	
	1938/09/04	夕	2		ベカンベ祭り／九時から四時まで	B	
	1938/09/04	朝	3		道薬を旧土人に配給	B	
	1938/09/05	朝	3		先住民族の絵巻物／塘路湖のベカンベを祭壇に／情熱のアイヌ踊り	C	写真3。
	1938/09/17	朝	3		アイヌ保護政策／住宅新築の助成と／部落集団化の方針	B	

掲載	年月日	区分	面	執筆者	見出し	量	備考
	1938/10/21	夕	2		草刈鎌品評会に／アイヌ鎌を出品	B	
	1938/11/16	朝	3		パチエラー博士／武士道講義／欧米に支那事変の真意を説く／きのふ国際放送	B	
	1938/11/25	朝	3		旧土人の保護組織は／消極から積極化へ／春採旧土人の互助産業組合／団結して結成申請	B	
	1938/12/13	朝	3		銃を取って立つ／白糠のウタリ／部落の誇り五勇士を送って／銃後の護りも固し	C	
	1939/03/15	朝	3		産業組合を中止して／農実組合を設立／春採旧土人の自治更生策	C	
	1939/03/23	朝	3		出稼ぎの金を／節約して献金／旧土人の愛国至誠	B	
	1939/04/13	朝	3		白糠のアイヌ名医／腕は充分だが免許証がない／医師法違反で罰金	C	
	1939/05/09	夕	1		白糠のウタリ／時局下に力強き／六十余名出席本年度総会開催	B	
	1939/05/18	朝	3		名所古蹟展出陳の／釧路郷土色決る／出土品や愛奴風俗も紹介	B	札幌の丸井呉服店にて開催予定の「名所、古蹟展覧会」の釧路地方関連展示内容の紹介。
	1939/05/21	夕	2		アイヌ土人形や／木彫の代用帯留出品／目新しい郷土工芸の考案	B	釧路郷土工芸品協会の会員制作品展覧会。
	1939/06/02	夕	2		阿寒一番乗り 四／可憐なまり藻に絡はる／愛奴の悲恋物語	C	写真1。
	1939/06/07	夕	1		愛奴の住宅／補助金／本年度は四戸	B	
○	1939/06/15	朝	3		屈斜路湖畔愛奴部落／有畜農業を充実／同族の桃源郷を作る	C	
	1939/07/15	夕	2		アイヌ名を綺麗に解消／字名を改正した池田町	B	
	1939/07/22	朝	3		阿寒観光名調子／北原支庁長が案内文を綴る	C	挿絵1。
	1939/09/03	朝	3		水郷塘路湖の／ベカンベ祭／けふ聖地で挙行	B	
	1939/09/05	夕	2		ベカンベまつり／古式豊かに挙げらる	B	
	1939/09/08	朝	3	藤野謙助（釧路考古学研究会長）	先住民族の遺跡1	C	写真1（「モシリヤのチャシ」）。
	1939/09/09	朝	3		春採青年団に対し／再編成の警告！／総力戦の趣旨に鑑み／茅野鉄工と木材青年加盟承認	C	釧路市聯合青年団理事会の模様を報じる。
	1939/09/10	夕	2	藤野謙助（釧路考古学研究会長）	先住民族の遺跡2	C	写真1（「春採のチャランケチャシ」）。
	1939/09/12	夕	2	藤野謙助（釧路考古学研究会長）	先住民族の遺跡3	C	
	1939/09/16	夕	2		美幌峠にまた新名所／奇岩“酋長岩”発見／郷軍分会長辻徳夫氏が命名	B	写真1。

掲載	年月日	区分	面	執筆者	見出し	量	備考
	1939/09/22	朝	3		春採青年団再建/大高団長以下張切る/聯合青年団に誠意ある回答	B	
	1939/11/03	朝	3		春採湖畔のチャシが/惜しや俗化を辿る/考古学研究会が保存方を陳情	C	
	1939/11/08	夕	2		春採城砦を調査/橋天然記念物調査委員会来釧	B	
	1939/11/09	夕	2		春採チャシの/保存法を調査/道庁嘱託橋氏来釧	B	写真1。
	1939/11/10	朝	2		「天声人語」[春採チャシの保存について]	B	
	1939/11/10	朝	3		顕勝保存規程により/春採チャシを保存/市民は史蹟に無関心過ぎる/橋氏調査結果を語る	C	
	1939/11/10	朝	3		春採チャシを調査/写真は現場調査中の橋氏	B	写真2。
	1939/12/13	朝	3		鶴居村互助組合/十四日創立総会	B	
	1940/01/01	朝	10		ウタリーは叫ぶ/紀元二千六百年に聴く民族の意気	C	白糖アイヌによる座談会の内容を報じる。記事中の見出しは、順に「近衛篤磨公は/ウタリーの父」「納税の義務も/きっぱり果たす」「和人とアイヌ/差別撤廃せよ」「可愛い息子の/手柄のみ祈る」「今は亡びゆく/民族ではない」。
	1940/01/19	朝	3		郷土の文献放送/旭校童話研究会員が初放送	B	釧路放送局から「童話劇 アイヌ、ラックル、オイナ、カムイ【アイヌユーカラより】」を放送。
	1940/01/27	夕	2		アイヌ物語り/今夜旭校の先生が放送	B	
	1940/01/16	朝	3		新事実と同族の弁駁に/新“吉良平治郎”小伝/横田訓導が異色の研究発表	C	写真2。
	1940/01/26	夕	1		オットセイの保護条約廃棄/中部千島開放に一步踏出す	C	参考記事。
	1940/02/01	夕	2		放送の打合せ	A	釧路放送局で「厚岸アイヌのアイヌ萬歳」放送計画あり。
	1940/02/08	朝	3		貴重な研究資料/先住民族の頭蓋骨十勝で発見/目下各大学で研究中	C	写真1。
	1940/02/18	朝	2		我等に温泉療養所/「ウタリー」議会へ血の叫び	B	写真1。
	1940/02/28	夕	2		責任吉良を唄ふ/あ、“吹雪の大和魂”/桂恋村丸山君が感激の作詞	C	写真1。
	1940/04/21	夕	2		「読者課題」愛奴の怪異を佐藤直太郎氏に(山本生)/蛇体になったメノコ/語る佐藤直太郎氏	C	写真1。読者から「課題」を募集し、識者による「答え」を掲載する、という企画記事。アイヌの「怪異談」について佐藤直太郎が回答。
	1940/08/03	夕	2		雑草“アイヌワサビ”が/一躍時代の寵児/薬品の原料となる/十勝に朗報	B	参考記事。
	1940/08/08	夕	2		実に大化以前の築城/日本最古の城塞/価値を高めた釧路チャシ	C	写真1。

掲載	年月日	区分	面	執筆者	見出し	量	備考
	1940/08/14	朝	3		多助君の念願成る日/情熱に身を燃やす 北方の人	C	写真1。
	1940/08/15	夕	2		〔詩〕川の詩	B	「コロボックルがお前の先祖だったら」で始まる詩。
	1940/08/27	夕	2		アイヌ遺跡調査/馬場修氏根室で研究	B	
	1940/11/15	夕	2		吉良平治郎小伝 7/「噫空雪心自照信士」/胸打たれる屍体収容	C	連載記事だが、10月31日付けから11月14日付けまでの紙面が残っていないため、これ以前の分も未見である。
	1940/11/16	夕	2		責任吉良に捧げる一灯/顕彰運動に協賛たかまる	C	
	1940/11/26	夕	2		行ずりの旅人や女工/“責任吉良”顕彰に美しい寄附	B	
	1940/12/04	夕	4		沖合漁業で/更生	B	「旧オロッコ土人」とあるが、記述の内容からみる限り色丹島の千島アイヌに関する記事である。
	1940/12/06	朝	3		“責任吉良”の像建立に/白糠ウタリー蹶起/全国に呼びかけ猛運動開始	B	
	1940/12/14	朝	3		ウタリーの父へ/おくる惜別の涙/追憶する貫塩君	C	ジョン・パチェラーの離日に当たり、貫塩喜蔵が想い出を語った記事。写真2。
	1941/01/20	朝	3		“責任”の光芒廿年/吹雪は彼を埋む、しかし精神は生き抜く/めぐった殉職吉良廿周忌/局員の慰霊行/桂恋墓地、殉難碑賑ふ	C	写真1。
	1941/01/23	朝	3		堅穴先住民か原人類か/頭蓋骨の謎解けず/判決に悩む北京考古学者ウ博士	C	写真1。
	1941/02/09	朝	3		新生する旧土人/市も積極的に指導	B	
	1941/02/17	朝	3		“吹雪の殉職”放送/興味のラヂオドラマ	B	
	1941/02/19	朝	2		高島二百七十年史/頒布は常会の手で/第九公区高高校の記念事業明朗譜	C	小樽の高島の郷土史刊行を伝える記事。
	1941/04/10	朝	3		この人を生かせ/吉良顕彰に多助君全国に熱叫	C	写真1。
	1941/04/25	朝	3		博物館見て歩く記 1	C	写真2。釧路市郷土博物館の展示を紹介。写真に「アイヌ彫刻のナイフ」あり。
	1941/04/26	朝	3		博物館見て歩く記 二	C	写真2。釧路市郷土博物館の展示を紹介。写真は「アイヌの美しい羽織」あり。
	1941/05/06	朝	3		近郊“毒草の王”はブシ/藤村訓導に聴く	B	写真1。
	1941/05/07	夕	2		帯広市史脱稿/五年の努力が結実	B	
	1941/05/08	朝	3		熊狩報國挺身隊/ウタリーも職域奉公	C	
	1941/05/29	朝	3		赤ものづくしの <sup>パコロカムイ</sup> 疱瘡神/防疫なき愛奴の悲劇/佐藤直太郎氏に訊いた「先住民族と疱瘡」	C	写真1。
	1941/06/15	朝	2		全生涯を捧げて/旧土人の教育へ/白井校長教壇を去る	B	胆振の虻田国民学校長白井柳治郎の退任を報じる。
	1941/06/30	朝	2		虻田ウタリー達の純情/白井先生の謝恩会盛況	B	写真1（「当日の記念撮影」）。

掲載	年月日	区分	面	執筆者	見出し	量	備考
	1941/07/11	朝	3		照宮成子内親王殿下／市並に阿寒地帯御成り／本道御見学の途廿一日御来銅	C	写真1。釧路での来訪予定地に「春採旧土人部落」などあり。
	1941/07/11	朝	3	石川定、佐藤直太郎ほか (座談会)	翼賛郷土文化の出発点／先住民族の示唆／地方に散在する純粋文化	C	石川定、佐藤直太郎、片岡新助、嵯峨晃、山口武光の5名による座談会。写真2。
	1941/07/11	夕	2		涼風そよぐ霧の都へ／照宮様けさ御成り／御興深くアイヌ古址御見学／磐址全般にわたって／御足を運ばさる／佐藤直太郎さん謹んで語る	C	写真1。釧路での来訪予定地に「春採旧土人部落」などあり。
	1941/07/12	朝	3	石川定、佐藤直太郎ほか (座談会)	翼賛郷土文化の出発点／その二／中央的と地方的	C	写真2。
	1941/07/13	朝	3	石川定、佐藤直太郎ほか (座談会)	翼賛郷土文化の出発点／その3／文化建設の戦士	C	写真2。
	1941/07/30	朝	2		減って行く／先住民族／室蘭管内	B	室蘭署管内の世帯・人口数。
	1941/08/07	朝	3		博物館を建設せよ／極端な狭隘に“市民の声”昂る	C	参考記事。
	1941/08/23	朝	3		崩れゆく原始文化／春採磐址の保存を上申／佐藤直太郎氏が市長に提出／鹿の皮を着た老人の話／けふ迄未発表の春採チャシ伝説	C	写真1。
	1941/11/06	朝	3		〔広告：浪曲・北海喜代楽らの釧路劇場での公演〕	C	「浪界で唯一人」「アイヌ人大芸家！」といった宣伝文あり。8日9日の公演予定。広告は7日から9日までの紙面にも掲載あり。
	1941/11/06	朝	3		郷土文化を昂揚／翼賛会市支部文化委員会誕生	C	参考記事。
	1941/11/23	朝	3	佐藤直太郎	紙上郷土史 1／神代時代の本道／伝説の域を脱せぬ義経渡道説／コシヤマインを倒した／武田信廣伝	C	写真2。
	1941/11/25	朝	3	佐藤直太郎	紙上郷土史 2／遺跡・遺物談義／“ <small>コロボツケ</small> 落の下の人”は実在しない	C	写真2。
	1941/11/26	朝	3	佐藤直太郎	紙上郷土史 3／備なき者は減ぶ／愛奴風俗と攻防明暗種々相	C	写真2。佐藤直太郎の執筆はこの第三回まで。
	1941/11/28	朝	3	佐々木米太郎	紙上郷土史 5／蝦夷前藩領時代／伝説に残る“釧路愛奴の悲歌”	C	写真1。
	1941/11/29	朝	3	佐々木米太郎	紙上郷土史 6／漂流船に就て／伝長坊とその師佐藤信景	C	写真1。
	1941/11/30	朝	3	佐々木米太郎	紙上郷土史 7／土人の騷擾頻り／厚岸は蝦夷中唯一の良港	C	写真1。
	1942/02/01	朝	3		〔広告 劇「通送夫！ 吹雪の殉職」〕	B	同面に広告も掲載
	1942/02/01	朝	3		劇化した吉良平治郎伝／けふから二日間釧路で上演	B	同面に広告も掲載
	1942/03/31	夕	2		旧土人に農具購入代交付	B	網走、斜里、美幌で支給するとの記事。
○	1942/04/18	夕	2		旧土人の学資補給調査	B	網走支庁管内に関する記事。

掲載	年月日	区分	面	執筆者	見出し	量	備考
	1942/04/29	朝	3		阿蘭陀の航海日誌が／なんと 釧路名付親／“クスリ”語源 最古の文献世に出る	C	写真1。
	1942/05/28	朝	3		海軍記念日に寄せる郷土海の 話題／和人も真似た交易船／ 愛奴の珍奇な縄綴船〔ルビ： モチップ〕／造船史学に貢献 の模型発見	C	写真2。
	1942/06/17	朝	3		皇文化の謎を解くか／好事家 の話題を浚った一個の石／似 通ふ楔型文字／若し本なら 一大驚異／石に寄せて語る幻 想	C	写真2。
	1942/07/02	朝	3		マラソンで参詣／釧路局員が 吉良碑へ	B	
	1942/07/14	夕	2		旧土人は減びず／人口国策の 立派な実践／最近半年で二十 四名の増加	B	釧路署管内の人口調査を報じ る。
	1942/07/20	朝	3		吉良殉難ひにマラソン詣で／ 釧路局の健民行事	B	
	1942/07/26	朝	3		千島へ来たアリュート人／北 海の潮に乗って／千島アイヌ と無言交易／虐げられた弱小 民族の往事	C	写真1、地図1。
	1942/08/19	朝	3		釧路アイヌの発祥の地／世に 出る遠矢チャシ／埋れた伝説 に蘇へる丹頂鶴／千島勢との 古戦場／永い戦争で鶴も野生 となる	C	写真1。
	1942/08/23	朝	3		塘路湖上で「ベカンベ祭」／ アイヌの古式祭典	B	
	1942/08/28	朝	3		“難しい地名はいかん”／ ギョロリ本道開発へ鋭い一矢 ／石渡さん訥々の弁	C	写真1。
	1942/09/02	朝	3		帰還報道班員の語る／ア リュート人の衣食住／副食物 は怪獣と魚肉／青物は皆無に 近い	C	
	1942/09/06	朝	3		“名物ベカンベ祭”／六日塘 路神社で挙行	B	
	1942/09/29	朝	3		アイヌ城趾視察／全道地理教 員大会一行	B	
	1942/10/14	朝	3		詩韻豊かなコタン生物記／郷 土出身詩人更科源蔵氏の著作	C	写真1。

### Ⅲ 主要記事紹介

#### 〔凡例〕

- (1) 漢字の旧字体や変体仮名は、原則として現在一般的に用いられる漢字・仮名に改めた。
- (2) 記事の原文には、強調などのために、傍点などの文字飾り、文章途中での改行、本文の一部の文字を大きく表示する等が行われている場合があるが、原則として全て割愛した。  
また、ルビも一部を除いて全て割愛した。
- (3) 編者による注記は、〔 〕で括って示した。
- (4) 判読できなかった文字は、□で示した。

#### 〔川上郡通信〕

〔北東日報〕1901年2月28日付け2面

#### 〔前略〕

▲塘路村は殆ど土人部落にして、三四戸の「シャモ」ある而已〔のみ〕。旅店二戸、同地尋常小学校は耶蘇教会の設立に係り、専ら土人教育の普及を図る者の如し。教師は讃岐の人高岡縫殿氏孜々〔しし〕として教鞭を執れり。  
而して川上郡の概要先つ以上の如しと雖ども、後年汽車全通の暁に至らば、蓋し大に其面目を一新するならんと信す。其開墾牧畜等の精細に至ては更らに通報せんと欲す。

#### 〔土人学校課程の決定〕

〔北東日報〕1901年3月1日付け2面

既記の如く旧土人学校課程は道庁教育課に於て過日來審議中なりしが、去廿一日を以て愈々審議済となりたり。今其決定の要領を聞くに左の如し。

- (一) 土人児童の就学期は普通小学校と同く満六歳以上となす。
- (二) 土人学校は普通尋常科三学年の程度となし、之れを四分して四学年となす。
- (三) 学科は修身、国語、算術、体操の四科とし、加設科として裁縫農業の二科を加ふ。
- (四) 修身科は主として口授法により、道徳の要旨を授くること。
- (五) 国語科は重に話し方を教授し、一二の二学年は総て仮名の読み方、書き方、綴り方を教へ、三学年より日常普通の簡易なる普通文の読み方、書き方を教授す〔ママ〕ること。
- (六) 作文習字は総て国語科中に加へ別に設けざること、〔別記号〕し、其作文綴方は総て言文、習字は総て階〔ママ〕書とす。
- (七) 唱歌は最も簡易を旨とし、便宜国語科に於て授け、別科目を設けざること。

(八) 算術は単用筆算とし、球算を用ひず重に実物を以て其計算方法を教授せしむること。

(九) 体操科は一学年に遊戯とし、二学年より遊戯の傍ら普通体操を訓練せしむること。

(十) 裁縫科は第三学年より運針法より普通衣服の縫ひ方を指導すること。

(十一) 農業科は第三学年より農事大要を指導すること。

以上の如く決定し、毎週教授時間の配当は一学年十八時間〔「二学年」抜けか〕二十三時間三学年二十七時間四学年二十七時間とし、亦教科書は土人学校用として特に設く可きも当分普通尋常科教科書に依りて教授することゝなれりと。

#### 〔土人学校設立見込地／(二十二箇所設置の必要)〕

〔北東日報〕1901年3月10日付け2面

道庁十年計画案にては全道に十七箇所土人学校を向七個年を期して設置の計画なるが、實際上十七箇所のみにては能く全道土人の子弟を教育すべき機関完備せりと云ふに非らざれば、先般土人教育施政方針に関する調査員にて調査せし結果によれば、少なくとも二十個以上の学校設立を要すべき見込の由なり。今最近調査に係る土人子弟学齢児童三十名以上を有し将来土人学校の設立を要すべき見込地は左の二十二箇所ありと云。

元室蘭村、白老村、敷生村、有珠村、萌別村、似湾村、平取村、厚真村、二風谷村、佐瑠太村、門別村、目名村、市文〔ママ〕村、杵臼村、厚別村、幌去村、石狩八幡町、千歳村、荻伏村、白糠村、斜古丹村、釧路春採

「旧土人被撰挙権資格者」

『北東日報』1901年6月12日付け2面

●旧土人被選挙権資格者

道会議員撰被撰挙権資格調査は孰れも去る六月一日の現在に依り調査し、資格者少数なる土地の如きは既に調査結了撰挙長の許に送付したる向きもある由なるが、函館支庁管内にも乙部村（ママ、部路か）の如きは未だ正確ならざるが、同村管内資格者十一名内旧土人にして被撰挙権を有するは弁開（ママ） 鶯次郎（ママ） 糸操嘉四郎の二名ありて、弁開鶯次郎は土地五十一町歩糸操嘉四郎は土地二十七町歩余を所有し居ると云ふ。

「帯広に於ける土人教育」

『北東日報』1901年6月13日付け2面

●帯広に於ける土人教育

本願寺布教担任者たる録事山県良温氏は、他の助成を籍らず独力以て土人教育の任に当らんとし（ママ）て書籍筆墨其他凡ての費用を悉く給与し子弟を勸化誘導し居れり。目下現在の学生左の如し。

土人固有の名	山県氏命名	年 齢
カンタロー	勘太郎	十歳
ウツカントツク	時次郎	十歳
ヌワシ	又五郎	十一歳
ホンチ	才太郎	九歳
シバシノトシク	留吉	十歳
ホンホンチ	吉次郎	七歳
ツータフカシ	清太郎	六歳
ニシツヤクテ	富太郎	十歳
コバアツタ	小太郎	十一歳

以上拾名にして、其授業時間は三十五分づ、午前三回午後二回なりしが、此は少しく短時間の様なれど、其時間の長きは彼等が正座の苦と倦怠とに依るを以てならんと見受けたり。生が訪問の当時は授業中にて、モの字を教授するに当り開発的に土人語を種々の方面より説き語り、終に能くモと発音せしめたる杯と、普通教育者の能く出来得べき業には之れなき程と感ぜり。時に撃拆一声放課時間に際せば一同は黙礼を成し御堂より走り出で喧擾なりしゆ、氏は温和なる語調にて注意を促がされたり。休憩時氏の談に今のモの字は者の集まると云ふ意義なりと。氏は土語を巧に哢する故、如何して斯くと尋ねしに、茲が教育に従事せんに

は其語の必要を必要を感じ、多年心懸けの結果、先づ普通語に支障なしと。始業の際は倫理談を成し宗教談を授くるを以て、感化の成績良好なりしと。又同日市街地住某氏と他所にて相会せしに、談（ママ） 遇々彼等の教育談に及びし。其行儀作法を能く知悉せるは、実に山県氏の熱心勸化の結果に依るとは言へ、彼等も教へなば斯くあるなんと感賞の余り生徒一同へ石筆を贈与せしに、酋長ホテネは一同を引卒して態々答礼に来たりしと。山県氏は元来実力豊富、教育宗教共に熱心にして、帯広の教育今日の如く振ざるの当時私立学校建設企図せられしも、今や其必要もなき今日なれば此事業に従事せんことを希望し居れり。

「土人の祭文」

『北東日報』1901年7月26日付け2面

土人の祭文 (佐々木生)

左の祭文は、山県氏が多年心掛け土人の宗教風俗を取調べられたるもの、の一節にして、最も精確にして通常一般杜撰のものにあらざれば貴紙に投し大方好學の士に資す。

「アイヌ」土人の行ふ「カムイノミ」とは祭典のことにして、最も厳肅に最も謹虔に、誠心誠意神に奉待すと知人の 浮華虚飾の御祭りのにあらざるなり。

今彼等の神前に於て拜誦する祭文を左に示す、祭文は「シノツサア」と称す神歌の意なり。

クコラアベフチ。クコロカムイノミ。  
 クルカシケ。オインカラワ。  
 クコロエカチタリ。オビツタノ。  
 イナニバクノ子ヤツカイ。ピリカカムイ。  
 カシケオインカリワ。ネプイウニン。  
 コイサムノボ。ウルオカタ。  
 ヤヤスルアシテクニ。カラワエンコレ。

右は火神に対する祭文にして、意識すれば、吾が火神よ。吾が準備して供たる神饌の擅上（ママ）に。降て御照覧あれ。吾か家来一族の皆々を。将来幾久しく打ち続き。善神よ。彼等の身上を御覧ありて。何等の病もなき様。段々相続して。我に属する凡ての発達する様に。生育せられんことを願望す。

次に「タブカテ」とて舞踏をなしつつ、更に郊外の諸神に祈て曰く。

ソウイワアンカムイ。クコロヌサクカシ

ケオインカラカムイ。(已下前と同文)

之れは「カムイブヤラ」として神窓の下にて朗読するものなり。意識すれば。

郊外の諸々の神達よ。我か樹てし御幣の壇上に。天降りて。御照覧あれ。已下大神を祭ると同文。

而して其祭文を拜読する。音声語調の神官の祭文を読むと更に異なるなく、其言語こそ異なれ全く神主の六振(ママ)の抜をなしつゝあるか如く。何となく大古の忍ばるゝ思なり  
祭典の順序、「タブカラ」の委きことは略す。

### 「帯広土人教育の状況」

『北東日報』1901年8月2日付け2面

#### ●帯広土人教育の状況

曾て報道せし如く、帯広に於ける土人教育の状態は爾来非常の好成績を呈したるが、今回主任山縣氏は更に土人教育事業の拡張を謀り、新に中川郡「ボンベツコタン」に於て私立学会を開設し、以て土人三四十名を收容教育せんと二三有志者に計りたるに、佐々木某氏を初め同村有志の賛成少なからず。依て山縣氏は不日帯広を引払ひ中川郡に赴くべき筈なりと。同時に帯広の土人教育所を伏古村に移し、函館土人学校卒業生井深市太郎<sup>\*1</sup>を以て教授を担当せしめ、伏根安太郎を後見となしたるより、学生も日々増加し来り刻下二十名の多数を收容するに至れりと。将来有望の状態と云ふべし。尤も同地方面に於て土人教育の好成績を見て物品を寄贈する者出て来り、現に同地待合楼の「ヤコシノッサアメノコ」(校書<sup>\*2</sup>の意)小ヒナ市松ト子等は、此程石筆一箱を土人学生に寄贈したる由にて、伏根を初め学生一同大に喜び同族のため「ピリカ子プカキ」(奮励一番)せざるべからずと昨今頻りに勉励しつゝありと云ふ。

### 「土人保護法改正の議」

『釧路新聞』1903年5月18日付け2面

●土人保護法改正の議 本道旧土人保護法は去る三十三年法律を以て発布せられ、土人の窮民を保護救済すると同時に子弟の教育に関しては特別の方法を設けて教育することゝなれるを以て、道庁は既に全道八箇所に土人学校を特設し、尚向後も年々二校宛の増築を為し且つ子弟の授業料は全部国費を以て給与することゝなしたり。然るに改正小学校令の発布と共に尋常小学校は国民義務教育の主旨に依り一般に授業料を全廃せられ、既に本道各小学校とも本年度より授業料を全廃することゝなり、就学児童教育の便を与へらるゝに至りしも、旧土人児童の教育に至りては、此改正小学校令発布の爲め別に何等の恩典に浴する能はざるのみならず、従来受けし特典は消滅せし形式となり、且つ旧土人の実況を観るに、家計頗る困難にして、只授業料の補助のみにては尚就学せしうる能はざるもの多ければ、此際特に土人生徒の使用する書籍筆墨料等に対して相当の補助を与ふることゝなし、之れに抵触する部分は旧土人保護法中に改正を加へんとの内議其筋に起れる由。

### 「十勝時事」[特殊なるアイヌ]

『釧路新聞』1904年1月5日付け2面

#### ●十勝時事 一月一日支局報

[中略]

▲特殊なるアイヌ 彼等の学問忌らいは一般の有様なるも、当町に住むアイヌ赤梁勝太郎(二〇)は、身体強健にして良く労力に耐へ、勉学の気風に富み、一身の労力賃金を以て既に尋常小学を卒業し、目下高等四学年生徒となり、昼は他人の小使を為し、或は夜番廻りを為して学資を得、専ら励精勤学の中に於て、順次卒業の上は師範学校に入学せんと希望あるを以て、教員其他の有力家は、本人の素志を貫徹せしめんと頻りに保護しつゝありとは感心なるものにして、他日目的を達するに至らん。因に記す、北海全道中アイヌにして師範学校に入学せしもの、未だ三人の少数なりと云。

\*1 聖公会が函館に設置したアイヌ学校の卒業生である。

\*2 ここでは芸妓・芸者の異称

### 「ペイン老嬢の英国に帰るを送る」

『釧路新聞』1904年1月29日付け2面

吾輩は、一女子の身を以て社会人類の爲めに千百里外に航して貢献せし、光明ある偉女子の事に管城子\*1を労するを喜ぶ。

偉女子とは誰そや、ペイン老嬢是れなり。吾輩敢て偉女子と云ふに蜘蛛<sup>〔ちぢゅう〕</sup>せざるなり。

彼は英国倫敦に生長し、彼れの姉は音楽家にしてビクトリヤ女皇の宮中に伺候し居るもの。彼は其家庭に育ち、長して学校に学ぶ。教鞭を執ること二十余年、偶ま想ふ所あり印度に遊ぶ。印度の氣候甚しく健康を害するあるを以て、居ること僅かに三年更に日本に遊ぶ。偶函館に於て土人人類学に熱心なるパチラに逢ひ、土人の状態を聞き、大に想ふ所ありて憤然釧路に居を定む。実に明治二十四年の秋なり。当時の釧路たるや、三四十の矮屋沿岸に点々し、見るも哀れなる漁村にして、苟も通常婦人としての住むべしとは夢想の及ぶ所にもあらざりしと。然るに、千百里外よりして眇たる一女子、能く此に居す。吾輩は実に其の意志の強にして且つ壯なるに服さざるべからず。

此の憐れなる境遇より彼れの心霊を慰するは、彼か彼の信ずる神の爲めに尽すと云ふ単純なる点にして、此の単純<sup>〔マツ〕</sup>な点は却て彼の意志を強からすめし者ありき。當時在函館伝道会社長老アンドレス氏彼れの爲めに新らしき一室を築きて、彼れを慰安する所ありき(外国人は自己の家なきを以て無上の悲しみとなすペイン老嬢は未だ一家を持たず)。爾來私財を投して土人学校を創設し、一は釧路村頓化に、一は同茂尻先に、一は白糠郡白糠に、一は釧路村春採に在り。白糠学舎は、官、学校を設けたるに依り自然廢校と爲り、春採学舎は、今伝道会社に属し、他は皆な早く廢校と爲る。土人をして早く已に多少の文字を解さしめたるは、実にペイン老嬢の力與りて多しと云ふべし。而して土人の衛生については、彼自ら手にして教たりといふ。如何に彼れか献身的なりしやを想像するに足らん。如斯にして、十有四年一日の如く、倦々として倦ます。誰れか之れを偉女子と云はざるものぞ。釧路町物品を贈りて彼か功蹟を称揚す蓋し謂ひあるなり。

偉女子今や財殆ど尽き、伝道の会社亦彼れを補す

る能はずして、遂に本日<sup>〔今日〕</sup>を以て釧路を去る。彼の情緒別に更に察するに足るものあり。

吾輩前数日老嬢を訪ひ、十有余年刻苦養育したる子弟に別るゝの如何に悲しきやを慰む。老嬢無然首をそむけて曰く、皆さんに気の毒ですと。嗚呼別れに臨んで誰れか一掬の涙を濺かさるものあらんや、況んや彼れは本国に於て一の家を持ち居らざりしと聞くに於ておや。

吾輩亦涙を以てペイン老嬢を送る。(赤鬼)

### 「十勝時事」「旧土人の公債応募」

『釧路新聞』1904年3月9日付け4面

#### ●十勝時事 三月四日支局報

◀旧土人の公債応募 河西郡伏古村の旧土人伏根安太郎は同族中比類なき先進者にして亦忠君愛國の志に富みたるものなるが、今回募集せらるゝ國庫債券百円の応募を申込みたりといふ。

### 「色丹島土人の応募」

『釧路新聞』1904年3月28日付け3面

●色丹島土人の応募 北海道極北端色丹島の土人一同は、今回軍事公債募集の事を聞かや否や率先根室銀行に一万余円の申込をなせりと。

### 「高岡氏よりの書翰」

『釧路新聞』1904年6月16日付け2面

#### ●高岡氏よりの書翰

高岡氏と昨年聖公会岡村氏の宅に於て相見たることありしとの事なるも、生は記憶に存せず、乞ふ恕せよ。聞く高岡氏は齡漸二十前後に於て奮然起つて北海の野に飛揚したりしも、不幸其初年祝融の爲めに素志を妨げられ、爾後逆境に沈淪しつゝあり。而して当港に於いて今に伝へて讚岐衆と云ふもの、是れ則ち氏が奨励移住せしものなりと云ふ。氏や猶ほ春秋に富む、豈に空しく永く塘路湖畔に釣魚の閑を学ぶの人なるへけんや。(赤鬼識)

\*1 筆のこと。韓愈が、「毛穎」なる名の筆を擬人化したを主人公の物語「毛穎伝」の中で、毛穎が始皇帝により管城という県に封じられ管城子と号した、と記したことによるという。

(前略) 本月六、七日の御高説を拝読致し心霊上の一大革新を得候、コレ閣下高論の反響として一言感謝の詞を呈する所以なり。

生や現今塘路土人学校に奉職致候、一寒生に有之候へとも、移住の素志たるは実に実業上の一大企図に有之候。然るに魯鈍劣才統御の才なく、且つ火災の不幸を蒙り、意気阻喪せしのみならず、爾来山間の孤居に十年以上の歳月を費消し今や殆んど土人化して撰ふなきの境遇にて実に慨嘆仕居り候処御高論中、蓋し進取豪宕\*1の心霊、称して以て富と称すへきなり、と云ふに至りて心気豁然として初めて蘇し、俄に一筋の光明を確認仕候、爾来御教訓の趣旨に則り、一步にても其の方針に向ひ進むへきを期し候。コレ素より閣下一場の御議論に候はんも、生の取って以て終生の軌範とすべき一大教訓に有之候。茲に謹んで閣下の訓諭を拝謝し、併せて服膺の意を表明仕候謹言

明治三十七年六月十二日 高岡 縫殿

日景赤鬼先醒

穏なる斯の書翰僕何ぞ敢て当らん。然れとも僕は僕の偉大なる知友を得たるを悦ぶものなり。平生澆かざる赤鬼の涙実<sup>ま</sup>に其の辺に向って多きを禁する能はざるなり。由来僕の現下採りつゝある方針は、漫に放言高論、以て一時の快を庶幾するを避け、現時の積弊を矯むるに在るも、非才能く他に容れらるゝ能はず、自ら省みること豈に唯三たびのみならんや。昨来識ありと称せらるゝ、某に逢ふ、事偶々新聞の記事に関し、某は曰く、新聞の記事はドウでも良いぢゃないか、と。僕於是再び言ふの必要を認めず蹶然袖を払ふて席を起つたことありき。識ありと称せらるゝ、人にして新聞紙に対する情猶ほ如斯、是れ或は僕の非才不徳よりせらるゝならんも、而かも僕や省て疾しからず、這般の消息今猶ほ僕の疑問の中にありて決せず。僕や実に道義の患に沈み居るもの、豈に君か移住の素志を達する能はざる逆境に在ると、一般ならずとせざらんや。然れとも君よ忘るへからず、正義と勉強とは最後の勝利者なると一言酬ゆ。

### 「祝賀会雑観」

『釧路新聞』1905年6月6日付け2面

#### ●祝賀会雑観

◀山車 は急か細工としてはなかへ〜に上出来なり、物産組合の水雷艇、古道具屋連の軍艦等は重なるものにして、殊に目立ちしは、春採アイヌの手に成りし源義経が坐乗せる船にて、十数名のアイヌは之を曳出したるにてありき。而して彼等は行々山車を説明し、『コノ義経、野郎だ、アイヌの宝物ミンナ盗んで逃げた、悪いシャモダ』と雀躍しつゝ、歩るく有様、滑稽にも亦可笑しかりき。其の趣<sup>(ママ。趣向か)</sup> 後の如何は敢いて茲に問ふの必要を認めざるべく、兎に角アイヌ連か衷心よりして此の祝捷会列に加はりたしと申込みたる心根は殊勝にて、当夜の呼び物となりし宜なるかな

### 「白糠村の昨今」

『釧路新聞』1905年12月5日付け2面

#### ●白糠村の昨今

[中略]

◀熊祭り は土人は大抵大津方面の雑魚漁或は狩猟の爲めに山中に奥深く入りたるとによりて、人手余り多からずして、例年の如くに賑かならず。因に明五日にも復た熊祭りある筈なりといふ。

### 「土人開墾組規約」

『釧路新聞』1906年2月9日付け2面

●土人開墾組規約 河西郡伏古村旧土人等六十余名、去月廿一日伏古第二尋常小学校に総会を開き、伏根安太郎外四名を評議員に選定、組規約を認定し、目下認可申請中にて、認可の上は大に開墾貯蓄教育を奨励する筈なりと云ふ。

伏古土人開墾組規約

第一条 本組合を伏古土人開墾組合と称し河西郡伏古村に於て北海道土人保護法により土地の下付を受けたる旧土人を以て組織す本組合の存続期間は明治三十九年より向ふ十ヶ年とす但満期後更に之を継続することを得

\*1 気性が大きく、小さなことにこだわらないこと。

第二条 左の各項は本会の事業目的とす

(一) 旧土人に農業思想を開発及普及せしめること (二) 勤儉貯蓄の美風を奨励すること

(三) 旧習の陋俗を矯正すること (四) 教育衛生の思想を喚起せしむること (五) 納税義務の重すべき事を知らしめ怠らざらしむる事 (六)

前各項の外本規約に定めたる事項

第三条 土人保護法により下附を受けたる土地は地主必是を耕作して他に貸与するを得ず但萬止を得ざる事故により自作する能はざる場合は本組合に申出でし本組合にては審査の上地主に代りて之が耕作及収益を計るべし

第四条 前条に反し地主に於て擅に他に貸与したる場合は之に干渉し直に其契約を解除せしむべし此場合に於て当事者は如何なる損害を受くるも組合は其責に任せず

第五条 組合員下付地より収穫したる収益金十銭の一以上を必本組合の監督の下に郵便貯金とし組合存続期間は之を据置くものとす但止を得ざる場合は之を本組合に申出で組合は審査の上其要領の適否を査定し払戻す事を得組合員の貯金通帳は本組合に於て毎月十五日之が監査をなし必要あると認むる時は本組合に保管すべし

第六条 左の役員を置く理事二名幹事一名評議員五名事務員一名但理事幹事評議員事務員は組合員に於て推薦の上帯広町外四ヶ村組合長の承認を得旧土人外より一名を雇聘し組合の専組合の事務を担当す但事務員は理事を兼任することを得

第七条 毎年春秋二季に総会を開く

第八条 総会は本規約の改正又は経費収支の方法を定める場合に於て之を開く其他の事項は評議員会に於て之を定む但出席員過半数の同意を以て議決す

第九条 総会及評議員会は其会員半数以上出席するにあらざれば開会することを得ず

第十条 理事に於て其必要を認めたるときは何時たりとも臨時総会或は評議員会を開く事を得但臨時総会及評議員会は其会員半数以上の請求により開催することを得

第十一条 理事及事務員には相当を報酬を付し幹事及評議員は名誉役とし他に出張の場合は其實費を支給することあるべし

第十二条 行政庁の吏員に於て本組合の事務に関し閲覧を求めらるゝときは何時にても求めに必ずものとす

右契約したるに付き組合員一同署名捺印せり

明治三十九年一月廿一日

### [十勝時事]「旧土人児童の美挙」

『釧路新聞』1906年3月18日付け2面

十勝時事

(十五日付支社報)

[中略]

◀旧土人児童の美挙 予て本紙に掲載し置きたる西士狩村〔中略〕一家の境遇を憐み、美蔓村毛根尋常小学校在学児童は各自稲黍豆玉蜀黍等を醗集し屢々同家に贈与したるは、実に感ず可き行為にして、素より小野校長の教訓宜きを得たるは勿論なりと雖も、其贈与せし児童の赤貧洗ふが如き旧土人なるに至っては、飽食暖衣の徒富さに慚死す可きならずや。

### [十勝時事]「青年会演説会」

『釧路新聞』1906年3月21日付け2面

十勝時事

[中略]

◀青年会演説会 予報の通り十勝青年会にては去る十七日午後五時より帯広町旧校舎に於て演説討論会を開催せり。講演は安田巖城氏の十勝国地名原称に就て古伝説を引証して其起原を説明せられ、織田活道師は前回引続新領土樺太視察談戦前のコルサコフに就て露国の経営策を明晰に論断せられ、更らに現在及び将来のコルサコフに対しては次回に譲る事とし降壇、其他梅澤、平尾諸氏の演説。最後に伏古村旧土人伏根安太郎氏、神崎会長の勧誘に応じ登壇、本道の古代に遡って、当時和人が本道に來たり利源を開発せし最初の方針は、旧土人を迫害し欺瞞騙取在らゆる奸手段を弄し無智なるに乘じ盜人的を以て利益を壟断し、而して今日に至り土人の保護云々を説くは殆ど痴夢を説くに等しと喝破し、論旨一転、現今土人が吾れも彼れもと樺太島の利益に垂涎し、恰も往時内地人の本道に押寄せ來たりし状況と異ならず、然れ共、時世の進歩は必しも往時旧土人を圧迫せし如き蜜態を能くせしむる者ならんや、新移住者は須らく緊蹙一番困難を覚悟せざる可らずと結論し、満場拍手喝采の裡に降壇せり。討論は時間切迫の為め次回に譲り午後九時間散会せり。

「特別教育所設置」

『釧路新聞』1906年4月11日付け2面

●特別教育所設置

〔中略〕

◀春採特別教育所 釧路町大字釧路村字春採元と私立春採小学校々舎を借り受け充用す。教授方法は尋常小学校に準ず。児童数は二十名より三十五名まで。

「旧土人開墾組合成立」

『釧路新聞』1906年5月23日付け2面

十勝時事

◀旧土人開墾組合成立 中川郡本別村五ヶ村旧土人開墾組規約を締結し、認可申請書総代井田光承氏より提出せり。

「土人開墾組合契約認可」

『釧路新聞』1906年6月24日付け2面

十勝時事

◀土人開墾組合契約認可 中川郡蓋派村旧土人駒三郎外三十一名より蓋派村土人開墾組合を組織し該契約の認可出願中の処、十八日付を以て認可せらる。

「十勝時事」住宅寄宅寄附許可」

『釧路新聞』1906年7月10日付け2面

十勝時事

七月五日付 支社報

〔中略〕

◀住宅寄宅寄附許可 河西郡伏古村旧土人伏根安太郎氏は、五月十六日付を以て、伏古第二尋常小学校用教員住宅一棟外に机黑板時計寄附出願の処、二日付を以て許可。

「十勝時事」音更土人学校開校式」

『釧路新聞』1907年5月8日付け2面

十勝時事

五月五日 支社報

〔中略〕

◀音更土人学校開校式 本年二月中校舎を新築したる河東郡音更旧土人学校は、昨日を以て其開校式を挙行したりと云ふ。

「土人の兵役調」

『釧路新聞』1907年6月4日付け2面

●土人の兵役調 釧路連隊区司令部管内本年度の旧土人兵役在籍者調べを聞くに、歩兵現役二、婦休一等卒二、補充一等卒三同二等卒一八（内未教育者一七）計二五 ◀騎兵後備一等卒一計一 ◀砲兵現役一、補充一等卒一、二等卒五（内未教育者四）計七 ◀砲兵助卒現役四、計四 ◀砲兵輪卒予備二等卒二、補充二等卒五（内未教育者五）計七 輻重輪卒現役一、予備一、補充二等卒一八（内未教育者一五）計二〇 総計六四なり、而して現役の区画に在るものは何れも目下在隊中のものにして階級を掲くを得ず。

「旧土人委託学校」

『釧路新聞』1907年7月10日付け2面

◀旧土人委託学校 河西支庁管内に於ける各学校にして旧土人の委託教授を為しつゝある学校及び本学年開始期の児童数を掲れば左の如し。

野塚尋常高等小学校	二十四人
野塚教育所	七人
音調津教育所	五人
歴舟簡易教育所	四人
本別尋常小学校	二十人
第一本別簡易教育所	九人
押帯簡易教育所	十七人
幕別尋常高等小学校	十七人
白人尋常小学校	二十人

「本道土人教育／当局者の視察談」

『釧路新聞』1907年7月13日付け2面

●本道土人教育

当局者の視察談

本道教育界に名声高き神学博士小谷<sup>〔ママ〕</sup>辺善一郎氏の

校長として自ら教鞭を取れる室蘭支庁管<sup>[ママ]</sup>以 虻田  
辺辨の土人実業補習学校は、一私立に係るものな  
れども土人教育に顕著なる成績を収め居る由。今  
其の内容を聞くに、同校は普通学を課するの外、  
手工、農業の二科を併置し、手工科に在りては草  
履草鞋の鞋細工より大工職工等に至る迄、一家経  
営に必須の手職を授け、農業科は校庭に約三町歩  
の耕地を了し、肥培管理の方法等を実習せしむ。  
又教授の方法にも頗る適切なるもの多く、例へば  
小黒板に澱粉、澱<sup>[ママ]</sup>○ 蛙等の図解を為し作文と実  
習とを併せ授くるが如きは、単級学校に於ける教  
授時間の経済上最も有効なるものにして、此の小  
黒板は一般単級教授を為す学校にては是非応用せ  
ざるべからざるものなりと。同校に於ては、生徒  
をして常に郷里への文通を頻繁ならしめ、習字、  
図画等も各々二葉つゝを書かし、其の一葉は必ず  
父兄に送らしむる方針を取り居れり。視察員の携  
へ帰れる、同校二学年生森久吉の画きたりと云  
ふ？船の毛筆画又習字の二種は、実に立派なもの  
にてありき。要するに同校は専ら実用的の人間を  
生産する方針にして、現在の生徒数は十数人に過  
ぎざれども、其の食費及衣服等に至る迄一切学校  
の負担にして、維持の資金は前記農業実習地より  
生ずる収入及東京<sup>[ママ。教育会が]</sup>教育会員の支弁にかゝるも  
のなり、云々。因みに本道に於て主として土人教  
育に任じ居るは同校のみなりと云ふ

「土人の教育思想」

『釧路新聞』1909年7月8日付け2面

●土人の教育思想 釧路国白糠郡白糠村戸長役場管内は、老練なる菅野戸長の治績として称揚すべきもの多きに依り、更に機を見て詳細に報道すべ〔き〕も、就中興味を感じたる土人の教育思想を起すに至りたるの一事なり。由来教育の必要を知らざる土人等が一部落打揃ふて教育思想の発達せしは如何なる動機に出でたるかと尋るに、十数年来土人の壮丁は多く徴兵検査に合格せず偶ま合格するものありても輸卒となるもののみりしに、舟田九助と称するもの只一人は、多少の学問ある為め歩兵に抜擢せられ、三十七八年の戦役の功に依りて勲七等に叙せられたるを見たる土人仲間も大に喜び、土人なればとて教育さへあれば勲位も賜ることを得る難有き御代なることを知りて、茲に於て教育の必要を感じたる動機を利用して奨励宜きを得たる結果、白糠市街中に散在せる土人は、二三戸を除くの外皆土人学校附近に転居し、各原野に住居せるものも多く出て来て子弟教育の便利なる処に移住し、土人学校附近は遂に一部落を形成するに至れるのみならず、菅野戸長が風俗改良の第一着手として時間励行を奨励したる為め、土人部落も一致し何事に就ても時間を励行しつゝありとは近頃珍しき美談なり。

「旧土人産業状況」

『釧路新聞』1909年8月14日付け2面

●旧土人産業状況 河西支庁管内に於ける旧土人産業状況に関し最近の調査に依れば、各組合等の内未だ充分なる好果を得たるもの無き由なるが、左に其大略を報ぜん。  
音更村内 音更古潭に於ては重に農業に従事し、冬期にありては男子は専ら山野に狩猟を為しつゝあり。而して一越年間優に二百円前後の収入あるもの少なからず。婦女子は炭俵サラニシ、アツシ織、養雞等をなし家計を補助し居れり。斯くの如くして彼れ等は各自の収入中より応分の支出をなし、一の組合を設け老衰者又は不具廢疾者等の為めには該規約に基きて相当の保護を与へ、殊に奇特なるは年々貳百円の金員を土人間にて募集し、土人学校増築其他教育資に充て現時継続し居れり。最近に至りては古潭青年会なるものを組織し、土

人学校長松岡正三郎氏監督の下に学術研究及種苗撰択耕耘養蚕等の講究を為しつゝあり。

白人土人組合 中川郡幕別村大字白人村旧土人二十九戸及止若旧土人七戸が去る三十八年中白人土人給与予定地に於て初めて土地の下付を受くるに当り、茲に土人組合を組織して認可を得、三十九年度中字別奴村の九戸も加入し、現在は組合戸数四十八戸に及び、比較的眞面目なる発達を為しつゝありと云ふ。

「法相春湖山人を召す」

『釧路新聞』1909年8月20日付け2面

●法相春湖山人を召す 岡部法相〔司法大臣・子爵岡部長職〕は旧土人教育に関して深き趣味を有せられ、土人教育実地の有様を庁立旧土人小学校教師永久保春湖氏に就き研究せんとて、車夫を命じ人力車を用意して春採に向はしめたり。

「天声人語」

『釧路新聞』1909年8月20日付け2面

〔前略〕△聞けば子爵は雨天の爲めに土人部落の視察が出来なかつたので、態々車夫を春採に遣はして、土人教育の任にある春湖山人永久保氏を召されたと云ふ事であるが、実に此人にして此事ありと云ふべきであらう。

「岩野泡鳴氏来帯」

『釧路新聞』1909年10月13日付け2面

●岩野泡鳴氏来帯 新体詩家として文士として有名なる岩野泡鳴氏は十日来帯して河西館に投宿なるが、氏はタイムスの田中氏と共に日高方面を視察し専ら旧土人に就て調査する所ありしが、浦河より田中氏に分れて十勝に向ひ、陸路広尾港を経て帯広に到着せしなりと云ふ。而して十一日雨天なるにも拘はらず、北海旭の岡本氏タイムスの鶴巻氏及余の三人同伴して伏古村に旧土人情態の視察に赴きたり。先づ安田巖城氏の宅に至り暫く旧土人に関する談話を聴取し、且つ安田氏の調査に係る土人の歌二三を写し取<sup>(9.2)</sup>□たる后、安田氏を引張り出して伏古の旧土人小学校に至り、三野

経太郎(校長)氏を訪ひ土人の能力等に関して調査せられしが、泡鳴氏は頻りに土人のシャアコロベ其他古有の唄の調子を聞かん事<sup>〔ママ〕</sup>を渴望せしも、折悪しく目下古有の歌を唄ふもの不在なしり為め遂に目的を達せずして帰れり。然れども安田氏に就て親しく旧土人の言語又は伝説及習慣等の談話を交換したれば、得る所決して尠少ならざりしならん。猶泡鳴氏は十二日更らに音更古潭に至りて其唱歌の調子を聞〔く〕予定なり

### 「くま送りの記」

『釧路新聞』1909年11月23日付け3面

#### くま送りの記

◀春採原野の賑ひ 二十一日の午前十時からアイヌの熊送りがあると云ふので、朝から詰めたわ詰めたわ春採の原野はマルで人の波を打つと云ふ騒ぎ、爺さんも出れば婆さんも出る、お嬢さんも出れば子供衆も出る、お役人も出れば番頭小僧も出る、斯んなに出たら釧路の町はお留守になるまいかと疑はるゝ程出た、アイヌのテンテコ舞ひも却々以て偉大な引心力である、して見るとアイヌのテンテコ舞ひに一日の日を消すシャモ杯と云ふものは案外に無邪気な動物である、お負けに今日を晴れと飾り立つたる女性の動物も充分と沢山あったやうだが、恐らく斯んな動物は夫の働きに寝食ひ同様の所作をして御座る着飾り穀潰しのお奥さんとやら申す奴でもがあらう。

◀人間のする事ぢやない 達磨帽子に長トンビの久保田警視が、矢つ張り此アイヌの引心力に引き付けられた一人と見えて春採街道をノッコ〜とお帰り召したのに出会はしたが、記者が何うぢやつたと問ふたら「人間のする事つぢやない」の一語を洩らして其儘互に通り返したが、成る程行つて見ると人間のすることぢやない、人間のすることぢやないのをアイヌにさせて置くのは、之れ取りも直さずアイヌをして人間外に駆逐するもので、帝国の臣民中には人間外の動物が居ると云ふ結論になる、アイヌ諸君に対しては実以てお気の毒千萬であるが、何も御相談であるから序でに言ふて置くが、熊送りはモウ今回丈で廃しては何うか、否な熊送りは廃さんでも衆人環視の前で動物を虐待する事丈は廃しては何うか、古い習慣に別れを告げるのは可愛子供に別るゝやうな心持がするであらうが、可愛子供にも別れなければならん

場合には之と別れなければならぬ、幾ら大事な習慣でも暇を出さなければならぬ時には、之に暇を出すのも余儀なき次第である、人は古き習慣を脱する所に進歩がある、何時迄も執念深くへつき廻はつて居ると、自ら廃さない中に他から廃させらるゝやうになる、自分から進むで廃するのは案外気持ちのよいもののだが、他から無理に廃させらるゝのは案外気持ちの悪いものである、殊に熊送りの度毎に余計な喧嘩杯<sup>〔ママ〕</sup>迄が出来て殴つたり殴ぐられたり傷にしたり傷にされたり泣いたり泣かせられたり訴ひたり訴ひられたり天下に斯んな馬鹿気た事はない、夫れに折角汗水垂らして骨も肉も溶けよとばかり一生懸命に力瘤ぶを入れて舞踏り廻はるのに、御苦労とも言はれざるのみか、亡国の舞踏だの亡国の音だのと蔑まれちや間尺にあふたものぢやない……。

### 「アイヌの熊祭」

『釧路新聞』1910年2月16日付け2面

●アイヌの熊祭 本日目黒に於て、日英博覧会余興に出場すべきアイヌは本郷座の大道具及熊を用ひて熊祭を行ひ活動写真を撮れり。

### 「伏古旧土人組合総会」

『釧路新聞』1910年4月19日付け2面

●伏古旧土人組合総会 十六日午後一時より河西郡伏古村旧土人小学校に於て伏古旧土人組合総会を開催せり。同組合は去る三十八年の創立にして、旧土人保護法に基き給与されたる土地の耕作開墾を目的とし、同部落の発展を期する為めに組織されたるものにして、安田直氏を組合長理事に宮崎濁卑氏を理事とし、古川伏根等の重立つ旧土人五名を評議員とし、本年迄約五ヶ年間殆んど非難の声もなく管理され来りしものなり。而して今回の総会に於て安田氏の報告せる会様に依れば、同部落は戸数五十二を有し総地積百三十町歩なるが、三十九年より昨年迄四ヶ年間に於ける自作反別の平均は一戸約十七町二反三畝歩にして、全地積に対し一割五分弱に過ぎずと云ふ。即ち左に四年間の表を挙げれば

三九	九五	六〇	七二	、	九〇	七二	、	三三	四三	三五	三七	四三	三七
四〇	八三	四八	八二	、	三五	七二	、	三五	、	四六	五	三二	四六
四一	八九	六五	八	、	四〇	八〇	、	二〇	八六	〇	九五	三〇	六二
四二	七九	九七	七六	、	八六	八四	、	九〇	、	四九	二	四六	五三

以上の内、反別割は一反歩に付三十銭宛を以て組合の事務費に割宛したるものなり。右の如くにて、五十二戸中の貯金額は三十九年に百八十円二十銭五厘、四十年に四十九円五銭計二百二十七円二十五銭五厘あり、四十一四十二の両年は虫害の爲め貯金は一時中止の姿にありと云ふ。因に当日の会員中には多少野心を包蔵する者もありて忌はしき雲霧の動もすれば之を掩はんとするやの虞れもなきにあらざりしが、一部の観破する所となり、果ては折内支庁属の訓戒となり、遂に事なくして閉会を告ぐる〔を〕得たり。

「白糠の旧土人（下）／如何に貯蓄を重んずるか」

『釧路新聞』1910年7月22日付け1面

●白糠の旧土人（下）

▷如何に貯蓄を重んずるか

◀土人の貯金組合 貯金の組合は戸長の勧誘に依り去る三十七年十一月創立せられたるも特に規約の設なし只平素努めて無用の費を省き互に貯蓄せんことを約せるに止まれり組合員七名にして目下の貯金額は四百六十五円十五銭内三百七十五円六十九銭二厘は曩に軍馬補充部に於て買上げたる土地の所有地代を貯蓄し置けるものにて他は安田鉱業事務所等の敷地として其の所有地貸聞せる料金其の多きを占む尚ほ該土人間には戊申詔書の御趣旨に依り勤儉力行を旨とせる四十二年八月の創立にかゝりし共友会なるものありて会員の数目下四十名各自毎月五十銭づゝを出し以つて会の基本財産を造らんことを期せり其の現在額は三十四円六十銭にして成績は漸次良好にして其の規約は左の如し

白糠共友会規則

第一条 本会は白糠共友会と称し事務所を白糠第二尋常小学校内に置く

第二条 本会は会員相互の親睦を謀り勤儉貯蓄の美風を守り旧弊を脱し世の進運に伴ふ等総べて戊申詔書の御旨意を遵守し以て風俗の改良を目的とす

第三条 本会々員は白糠郡在住の旧土人を以て組織し左の如く種別す

- 一 青年会員 年齢三十年以下
- 二 通常会員 年齢三十年以上

第四条 本会に左の役員を置く但各任期は満一ヶ年とす互撰による

- 一 会長一名
- 二 評議員五名
- 三 幹事三名
- 四 監査役二名

第五条 会長は本会一切の事務を総理す評議員は会長を補佐し益々会運の発展を期し一般会員日常の行動を監督矯正す幹事は会長及評議員の委嘱により本会利益の爲め充分奔走尽力す監査役は各役員の仕事務を監査し殊に金品の出納を嚴重に調査す

第六条 本会は左の事業を行ふ

- 一 毎月十五日一般会員を集会し白糠第二尋常小学校に於て談話会を開き躬行実践の講話をなす
- 二 本会々員は毎月金五銭づゝ、本会に納め郵便貯金となし以て基本財産造成の初歩となす
- 三 本会は会員一同の協議により畑地を耕作し其収獲代金を貯蓄することあるべし
- 四 独身老幼にして廢疾疾病等の赤貧者は互に義捐して救助することあるべし
- 五 会員中有志者を定め夜学会を開くことあるべし其の場合には別に細則を定む

第七条 本会の会員を左の如く定む

- 一 本会役員は毎月十五日事務所に会合し会運の発展を計り併て会員中の出来事を協議決定す
- 二 毎年一回八月十五日総集会を開らき役員の出撰会務の報告をなす
- 三 緊急の場合役員が必要と認めたる時及会員の三分の一以上の請求あるときは臨時総集会を開らく其の際は前以て一般会員に通告す
- 四 会合の通告を受けたるときは時刻を遅れず必ず出席するものとす
- 五 会議は普通会議法による

第八条 本会に左の帳簿を供へ永遠に伝ふ

- 一 会員名簿
- 二 規約及決議録
- 三 会費領収簿
- 四 郵便貯金通帳

第九条 白糠第二尋常小学校職員は本会総ての件に発言するの権を有す

第十条 本会は旧人士〔ママ〕にあらずと雖ども地方有名の人士を名誉会員に推戴し以つて其の教を聞く

第十一条 本会規約は総集会の席上会員過半数の賛成を得ざれば修正するを得ず

### 「旧土人の農業視察」

『釧路新聞』1910年10月16日付け2面

●旧土人の農業視察 釧路支庁管内に於ける旧土人戸口は此れを他支庁管内に比し多く殊に其生活状態の如きも大いに他管と其趣を異にせるものあり釧路支庁にては現下管内旧土人中農工業に従事しある者又は将来此等に従事せんとするものをして他管内に於ける農業状態を視察せしむる最も時宜に適せるものと認め今回管内土人中に就き資性温厚篤実の青年として釧路村山本佐吉白糠貫塩記の二名を選抜し来る十八日より往復五日間の予定を以て河西支庁管内に於ける農業状態を視察せしむべく明後十八日一番列車にて釧路支庁湯野川農業技手引率の下に出発する由

### 「土人農業視察」

『釧路新聞』1910年10月25日付け2面

●土人農業視察 管内旧土人中より選抜せる白糠村貫塩記春採山本佐吉の兩名は既報の如く〔く〕釧路支庁湯の川技手の引率の下に河西支庁管内音更伏古地方の農業を視察し去る二十二日帰來せるか其視察概要は十八日釧路出発帯広に一泊の上翌十九日湯野川技手引率し音更村の農業視察し更に土人部落の農業視察をなしたる由にて視察中は毎日視察帰宿後湯野川技手懇切〇農事に就き説明する処ありたる由視察土人も一般に得る処多かりしか如しと

### 「十勝土人状況」

『釧路新聞』1910年12月10日付け2面

#### ●十勝土人状況

アイヌは往古より処々に部落を為し殊に十勝川並に其支流沿岸に住せり其戸口は文化六年二百五十

四戸千三十四人安政五年二百六十六戸千三百二十一人なり爾來漸次増加して明治三十一年末の現在に依れば三百八十八戸千六百六十人同四十二年末には五百三十五戸千七百六十二人なり

開拓使以來土人〔一文字アキ。「の」か〕保護に關しては常に相當の法を設けられたり明治三十二年旧土人保護法發布せらるるや越へて三十五年北海道庁令を以て中川郡各村旧土人の共有に係る漁場四ヶ所郡村宅地一ヶ所木造葺倉庫一棟北海道製麻株式会社株券九十株現金二百十三円三十三錢河西郡伏古村、芽室村旧土人河東郡音更村旧土人共有に係る漁場一ヶ所郡村宅地二ヶ所木造家屋一ヶ所北海道製麻株式会社株券八十株現金三百四十六円九十三錢四厘〔ママ〕と備荒の爲め儲蓄するものと指定せられたり前記製麻会社株券は之を売却し不動産より生ずる収入は之を蓄積して四十二年末現在には公債額面一万二千五百円現金三千四十八円十七錢三厘を有するに至れり又三十八年以來幕別村八十一戸に対し三百二町一反一歩芽室村五十七戸に対し二百九〔ママ〕丁三反二畝十五歩音更村八十八戸に対し二百三十六町七反八畝五歩伏古村五十四戸に対し二百三十三町七反八畝二十九歩生剛村五十七戸に対し二百六十六町一畝九歩洞寒村字蓋派四十四戸に対し二百二町六反九畝七歩負籬十七戸に対し七十三町三反七畝九歩本別村二十五戸に対し百六町三反一畝九歩茂寄村十九戸に対し八十六町五反七畝五歩の給与地を給与せり而して多数聚団をなせる処に対しては開墾組合設立を勧め現に芽室、音更、伏古、幕別、本別及び茂寄の各部落に於て組合を設立せり漸次農業に奮励しつゝあると見る旧土人の爲めに特に庁費を以て學校を設立したるもの芽室、伏古、音更の三校あり其成績稍見るべきものあり其他の地方にありては之を一般町村の學校に入學せしめ一人一ヶ年一円八十錢〔ママ〕つゝの委託料を町村に交付す

### 「十勝の功績者(二)/(実業及公共事業に対する)」

『釧路新聞』1911年6月15日付け2面

#### ●十勝の功績者(二)

(実業及公共事業に対する)

▲山崎金助氏〔中略〕

▲堺千代吉氏 山崎氏と其郷を同うし陸奥下北郡大畑の産なり夙に北海の漁利を聞き文久元年子孫世襲の美田を抛ち決然十勝国に入り漁業家杉浦嘉

七の雇人となり広尾郡に至る昆布業に従事し具に辛酸を嘗む同三年偶々音調津川に鱒魚の群遊湖上するを見直ちに漁獲を企て其獲る処頗る多大なりき是れ十勝国鱒漁業の濫觴たり爾來皆其利益を悟り漸次網数を増加するに至れり慶応三年三月抜擢せられ広尾郡会所蔵廻の役となる六月大津漁場取締役となり明治三年帳場役<sup>(マツ)</sup>し進み同七年支配人に昇る同年杉浦嘉七は十勝全国の請負を開拓使庁に返上すに際し之れが後継者となり土人を加へ其の総代となり全国を聯合し満五年を期し組合法を組織し大に利潤を得たり其満期解散するに当り土人一家に於て百六十余円の純益を得たり尋いて漁場を借地して自営独立の漁業者となりたるが此間に処して辛酸を嘗め艱難を凌ぎ粉骨碎身以て努力し遂に今日あるを為さしめたるは実に儒夫をして起たしむるの概あり明治三年巨多の私財を投し荊棘を開き海産乾場を設け漁場数ヶ所を開きたり現今土人共有の漁場即ち是れなり元來土人は漁獵の二業を知るのみにして農業の何たるを解せざりしが千代吉氏は明治七年馬鈴薯及南瓜の種子を試作し良好なりし以来農業を営む者あるに至れり其他遭難船の危急を救ひ或は漁具の改良等効績の著大なるものあり近時漁業の傍牧畜の業を起し専ら其改良繁殖に努む其他郵便水産教育の事業に尽瘁し物品褒賞を下賜せられたるもの頗る多し

「十勝の功績者（三）／（公共事業に対する）」

『釧路新聞』1911年6月18日付け2面

●十勝の功績者（二）

（実業及公共事業に関する）

◀中村要吉氏 要吉は河東郡音更村の旧土人なり夙に同族の無学不能を概し常に力を之が教育に致し先づ教育所を同部落に設置するの急務を認むるや日夜寝食を忘れ以て有志有力者の間に奔走し三十八年漸く素志を達せり爾來無料にて自家を教室に充て日々各戸に就き児童の通学を奨励勧誘に努め又特に教員の雇聘に意を注ぎ其俸給の如き過半は自<sup>(マツ)</sup>己<sup>(マツ)</sup> 独力之を負擔し且つ自費百三十五円を投じて教員住宅を建設したるが如き其功績少なからず明治四十一年長官より銀時計を下賜せらる

◀田村勝太郎氏 河西郡芽室村の旧土人なり同族教育の振作に関して亦要吉に譲らず学齡児童出席の督励をなし自ら学校に臨み親しく児童の勤惰行状を視察し又は教員待遇に意を注ぎ自費を投じて

学校用品を供給し旧土人学校設立に際しては其建築費の寄付及び夫役を奨励せり又同族の不振は婦女子の無智に依るものとし日常必須の学芸を授くるの目的を以て明治三十九年十二月之に要する一切の費用を独力負担し教師を雇聘し自家の一部を教場に充て二十歳前後の女子を教養したるが如き功績少なからず明治四十一年十二月十一日長官より銀時計を下賜せらる

◀伏根安太郎氏 同じく旧土人にして河西郡伏古村の居住者なり夙に同族間の無学無能なるを嘆じ常に力を教養に格し明治三十一年旧土人広野教道を函館に遣はし土人学校に入学せしめ自ら学費を支弁し三十四年弟子十一名を自家に養ひ僧侶山縣良温に托し之を教養したること一年有半に亘れり三十五年中土人学校を設立せんとして札幌小樽函館各地に遊説奔走し遂に篤志家の賛助を得て同年六月教育所を建設するに至れり而して子弟収容の屋舎並に敷地器具等は一切を挙げて自弁したる等教育上の功績少なからず中村、田村等と同時に長官より銀時計を下賜されたり

◀野原与三郎氏 河西郡伏古村の現住者なり学務委員にして多年学事に尽力し功績顯著なるの故を以て明治四十四年二月二十七日長官より懷中時計代参拾円を下賜せらる

◀三野経太郎氏 河西郡伏古村第二伏古尋常小学校訓導兼校長なり多年本道旧土人小学校教育に従事し精勵其職に尽し教導感化の効学校の内外に及びたる廉を以て明治四十四年二月二十七日長官より懷中時計代金参拾円を下賜されたり此他各町村部長にて去る四十二年中河西支庁長より表彰されたるもの五名あり更らに徳行者として四十三年四月賞勲局より緑綬褒章を下賜せられたる倉ツタ子氏あれども当時其詳報を掲載して未だ読者の記憶に存ずる処なれば茲に之を略せり

「旧土人拝観心得」

『釧路新聞』1911年7月14日付け2面

●旧土人拝観心得 旧土人にして行啓拝観の際に於ける服装に付ては彼等の古風を襲用して礼装する場合は式に依り鉢巻を為すも何等差支なく又沿道に近接する海上に於て漁業又は採藻に従事するものは御通過の際臀部を蔽ふに足る衣類は着用すべしとなり

### 「春採愛奴の奉迎準備／(古代の礼装を用ん)」

『釧路新聞』1911年7月28日付け3面

#### ●春採愛奴の奉迎準備

(古代の礼装を用ん)

東宮殿下が近く御巡啓遊ばさるるに就いては各地とも其の奉迎準備に熱中して居るのであるから春採の旧土人即ちアイヌ連にも必ず其準備□あるだらうと思ひ去る二十三日午後より春採湖畔に土人教育家を以て名ある永久保春湖氏を訪ねて其の話聞いた氏の語る所に依れば若きアイヌは既に和人化して居るから袴羽織其他の服装にて沿道何処に於て奉送迎するもよいけれども老人になったアイヌ七八人は皆な古代に於ける彼等の礼装を為し或は一ヶ所に集合して奉送迎をしようと目下寄々協議中で近日町役場若し〔く〕は準備会等にも交渉し便宜を願ふ筈である而して彼等も却々の意気込みで昔から礼装に欠くべからざるもの一ツあるそうだがそれは他の部落から借りりて来ると云ふて居る又殿下御巡啓に就て高齢者を調査した結果酋長のやうな彼等の有力者原太郎が七十一才なりしを以て高齢者の一人に加へられた訳である云々とされば殿下御巡啓当日沿道の或る一部には異様な服装した彼等を見るべく若し幸ひに殿下の御目に止まらば彼等の光榮之れに過〔ママ〕ぎたものはなからう(尺取虫)

### 「独木船操縦供覧／(十勝旧土人の計画)」

『釧路新聞』1911年8月12日付け2面

#### ●独木船操縦供覧

(十勝旧土人の計画)

東宮殿下行啓に際し十勝中川郡洞寒村同豊頃村の村界なるコタノロに於て旧土人の丸木船操縦方台覧に供する事は過般開催の河西管内町村長戸長会議に於て決議し右調査委員として小林豊頃村長浅地洞寒村長二名をして設計せ〔し〕めつ、ありしが其の結果之れが経費として一ヶ町村十円宛を支出することに決したる由なり尚右操縦方法及注意事項は左の如く定めたる由

◁夫婦は可成同船せしむる事◁丸木舟には諸種の貨物を積載し成可昔日の状を偲ばしむる事◁老年の希望者に於て平太船に乗込みしむる事◁予算の範囲内に於て平太船を尚二艘位増加の事◁船の借賃は可成廉ならしむる事◁位置は字コ

〔ママ〕  
ロタノ(村界より上下各約二百五十間)若しくは字育素多沿線約三百間を下流に向つて操縦すること(但し実地踏査の上決定する事〔〕)◁丸木船は第一班第二班とし各班の隊伍は五艘列びにて三列とする事◁平太船は三艘とし内一艘を指揮艦とし他の二艘は専ら救護の任に当るものとす◁丸太船の操縦者は一艘に付一人若しくは二人とし総計四十五人とす◁土人の老年者にして御召列車拝観希望にて乗込みを請ふものは総計人員以外に同乗せしむることを得◁操縦者は大約左の標準により選抜する事メノコ及オペレケ各十名、ベッコ十名、チャチャ、オヤチ、セカチ各五名◁丸木船には普通型国旗各一旒宛平太船には大国旗名一旒宛並に指揮艦には万国旗を裝飾する事但し本項国旗は各船持主に〔ママ〕紀念として無代配付すること◁操縦者服装は可成『アツシ』注しくは陣羽織を着用せしめ古代の土人風とする事但し本項の服装をなし得ざるものは和服にても差支なし老年者にして同乗希望のものは必ず『アツシ』若しくは陣羽織を着用するを要す◁平太舟乗組者は和人とし服装は船の操縦に便なるものにて差支なし但し可成清潔なるものを用ひ且つ不敬に渉らざるやう注意すること◁舟の乗組者は他人の嫌忌する如き疾患あるものを避け可成健康者のみに就きて選択すること◁御召列車の稍近つきたるときに於て気を付けの信号(気を付けの信号は指揮艦のマストに国旗を上ぐるものとす)をなし御召列車の直前に近きたるとき『初めの』呼子を鳴らすこと◁各乗組者及同乗者に於ては極めて厳粛を旨とし各操縦者にありては熱心業務に従事すべきは勿論放歌高声を発する等の所為あるべからざる事◁当日全く作業の終了を告ぐるまでは断じて飲酒せざる事

### 「白人の熊送り」

『釧路新聞』1912年1月17日付け3面

#### ●白人の熊送り

怒号叫喚原頭に  
充ちて凄惨たり

既報の如く去る十四日十勝中川郡幕別村字白人に於て旧土人の熊送り祭を執行せり当日は日曜日なり殊に同村内海氏の斡旋にて帯広町より来賓を招じたれば下り二番列車にて来着せる来賓は札内駅

に下車し厚意を以て差廻されたる数台の馬櫓に分乗して同駅より約一里の祭場に着す処は廣<sup>マツ</sup>浅<sup>マツ</sup>吉なる旧土人の居宅附近の地を画して祭場に当て北方に数間の棧敷を造りて来賓席となす中央には六尺余の白木を立て頭部に熊笹を結び柳の幣を飾り又西方には祭禮を設け古き首飾古太刀の如き或は鮭の燻製餅等を飾付たり廳て正午頃に至り廣瀬宅の前なる檻内に飼養されたる一才の小熊こそ此日の送り熊となるが檻外〔一文字欠。「に」カ〕集へるメノコ連は周囲を廻り初め口々に音頭を取れり其内彼等の長者部落内同族の年長者タツケアイヌ外人は来場してイナウリとか云ふ帽子様の物を頭に載<sup>いた</sup>きて祭禮の前に列座したり一方に於ける檻の廻りのメノコ連暫くの間周回すれば廣瀬浅吉は祭文様の朗読を檻の傍に奏し終れば気鋭の土人連は檻の四隅の繩を切り上部の雑木を取除けロープを以て遂に見事に熊を縛し底部より地上に墜落せしめ数人懸りにて甘々と其胸部を縛しロープを双方に取りて中央に立てたる柱に繫留す暫く花矢は分配せられ四五の土人は熊笹を先に付けたる棒を以て八方より小熊を追ひ廻し居る中小児を抱き口〔たカ〕同族の者等は小児に弓を持添へて熊に射懸くれば小熊は痛手に狂ひつ走りつ駆せ廻り或は叫び或は怒りつ約一時間余に渡れる叫喚の末喝して雪を喰ふも哀れなり遂に飼主なる廣瀬の手に附<sup>つ</sup>き矢は放れて見事左肺部に立つ夫れより数人相寄りて絞殺し終りたるは二時頃にして死したる熊は祭壇に据へられ長老初同族の祭祀事の酒宴ありて閉場せり来賓村本支庁長、吉安署長、馬場保線主任折内岩井支庁主席松宮生剛村長坪谷幕別村長代理支庁属新聞記者等約三十余名にて再び馬櫓にて札内駅に帰<sup>な</sup>り帰<sup>な</sup>り帯<sup>な</sup>せり此日近郷近在より旧土人は勿論見物却々盛<sup>な</sup>にして数百人に及びたり尚来賓には折詰の饗応あり来賓有志より廣瀬に祝酒を送れり

「旧土人就職別」

『釧路新聞』1912年2月1日付け1面

●旧土人就職別

釧路支庁管内に於て旧土人を教育しつゝあるは春採白糠の両小学校のみなるが之れら卒業生及び卒業後の就職別に就て支庁当局の調査したることを聞くに両校を通せる

◀既往の卒業生 四十年より四十四年に至る既往

五箇年の卒業生及び其の平均年齢は左の如し

卒業生		平均年齢	
年次	男 女	男	女
四〇	八 一	一三年四月	一一年
四一	一四 三	一二年七月	一一年一〇月
四二			
四三	八	一四年四月	
四四	三	一三年	
計	三三 四	一三年二月	一一年七月

右四十年四十一年の卒業生は四ヶ年の程度の尋常高等小学校を卒たる者四十二年には義務教育年限延長の結果卒業生なく四十三年以降の卒業生は六箇年程度の尋常高等小学校を卒へたる者ありと猶四十二年卒業<sup>マツ</sup>式の中には一度四ヶ年程度の尋常高等小学校を卒へたる男七名を含める由

◀卒業後の職業 之らの卒業生の就職別は男は農一七、漁一、牧畜二、柚夫一其の他一は駅運集配人一は軍馬補充部雑夫にして女四は嫁せり農業一七の中純農は一他は漁季中漁業に従事する者にして農漁牧畜共何れも父兄の業を助くるか或ひは他に雇はれ居る者なりと云ふが前記の外高等小学校在学中の者男三ありと

「白糠の旧土人／＼（婦人会の活動振り）」

『釧路新聞』1912年2月1日付け3面

●白糠の旧土人

（婦人会の活動振り）

釧路支庁管内には旧土人教育の小学校としては春採と白糠に二校あるのみだ両校の校長共同教育に就て尤も熱心である白糠の校長は中西文太郎君と云が

◀子供は女房任せ 同君は予ねて旧土人の男なる者は子女の教育に就ては何等注意も顧念する所も無く一切女房任せにしての弊を熟知してのので女を教育することが子弟教育の第一義なることを察し兼々心を潜めて居つたところ

◀殿下奉迎の余沢 昨夏皇太子殿下御巡啓の際中西君は二三年前から旧土人の男子を糾合して共友会なるものを組織してあつたので同会旗を押たて旧土人団体を引率して白糠駅に殿下を奉迎したところが駅内では非常に好遇を受け和人の上に於て拝観せしめられたので旧土人等は常に和人の侮辱と圧迫のみを蒙りつて居つたに係はず斯く好遇せらるゝは畢竟共友会旗の徳であらうと

深くも感激して之れを徳とする事一方ならずであったので

◀旧人土を説く 是れ好機会と是れ好機会と同君は共友会の有力者四五人に共友会の社会に於ける位置は斯の如くである就ては男子ばかり此の悲沢に浴すると云ふのは如何であるから此の際土人らの団体を組織して大いに奮越を望みたいと諄々説破するところあつたので共友会員らは直ちに此の旨を了し各女房共に伝へた誰に異論のあろう筈なく忽ちの中に議纏り九月六日十七人の会員を得て共友会婦人部の発会式を挙ぐるに至つたのである

◀婦人会の仕事 偕て婦人部の事業として尤も緊急なるは何かと云ふに彼等の多くは稼ぐとか働くとかは驚くべき程であるけれども兎角無駄に消費するの弊があるので貯蓄を為さしむる事とし一人一ヶ月五錢宛を永久に積ませる事とし既に今日では十一円七十五錢になつたと云ふ彼等は此の貯金を非常に喜んで大部分に一ヶ年分位前納して〔ゐ〕ると云ふ有様なそうである

◀共友会の財産 同会男子部の事業たる永久貯金は現在十六円あつて会会の基本財産とする目的で会長貫塩記の名義で一万坪の未開地を買ふところが地代金十六円かゝるので貯金中から支出しやうとしたところ折角貯金したものを惜しいと云ふ者が多数なので会員二十三名が三十五錢宛出し合つて上納したそうである

◀一月の甘酒会 中西君の熱心な教育に依つて婦人連も段々開けて来たから一つ会合を開きたい者だとの發議があつたので中西君も其れよからんと九月六日が記念なので一月六日四月六日七月若しくは八月の六日九月の六日の年四回会合を開く事とし本年一月六日第一回の催しをしたところで御馳走の持寄をしやうぢゃないかと云ふ事で各々の嗜好を聞いたところ甘酒が好いと云ふので各十錢宛出さしめ中西君は三十錢を寄附し其の日を俵ち中西君及び白糠第一校長富山夫妻の訓話等の後に蓄音器を聴かしめ或ひは子供に唱歌を歌はする杯し歓快の有たけをつくさしめて散会したそうである

### 「献上の三毛狐/旧土人に伴はれ/十八日東上す」

『釧路新聞』1915年1月20日付け3面

#### ●献上の三毛狐

旧土人に伴はれ

十八日東上す

十勝国芽室村旧土人赤梁三九郎より東宮殿下へ献上の雌雄の三毛狐二頭は予ねて同人方に於て大切に飼育中なりしが愈々十八日芽室駅発一番列車にて旧土人取締人小野利永外旧土人三名付き添ひ出發上京の途に就きたり

(芽室報)

### 「石狩丸船客十四名將に港内に溺れんとす」

『釧路新聞』1915年9月28日付け3面

#### ●石狩丸船客十四名將

に港内に溺れんとす

一昨二十六日午前九時日本郵船株式会社所有汽船石狩丸の厚岸を経由し釧路に入港するや所属通船は先づ三等船客を陸上げし一二等船客十四名は別に手荷物と共に一艇船に搭載陸地に向つて進航中棧橋を距る約一町の個所に来るや恰かも干潮時なりし為め梶は暗礁に支へられ船夫は一時操縦の自由を失ひたる時しも俄然風波起り丈余の激浪襲来すること三度に及びしかば船客一同は海水を浴び艇船は極度の傾斜を為し忽ちにして水船となりたるを以て船客の驚き一方ならず手荷物類は悉く激浪に洗ひ流され小兒婦人は將に危機に瀕しアレヨ〜と救助を叫ぶにぞ其と見たる水上派出所、築港事務所、通船舎は相競ふて救助船を出すこと十隻急遽現場に漕ぎ付け船客を収容する者と流矢荷物を取捨する者と互に分れて鋭意救助に努めたる結果遭難者一同は無事救助するを得たるも手荷物の内アイヌ研究の為め来れるマンロー博士\*1)所有鞆一個石狩丸手仕舞鞆一個洋傘三本は遂に流出不明となれるがマンロー博士所有の鞆中には現金百円及び活動フィルムの外博士が多年苦心の結果採取せる植物標本多数あり是等は金銭を以て容易に購ひ難きものなるより博士は大に之を遺憾とし百

\*1 N.G. マンローの足跡に触れた文献は膨大で、釧路での活動に言及しているものも多いが、出村文理(編)『ニール・ゴードン・マンロー博士 書誌』(私家版、2006年)及び桑原千代子『わがマンロー伝 ある英人医師・アイヌ研究家の生涯』(新宿書房、1983年)、富水慶一「釧路考古学研究会創立期の活動とN・G・マンロー博士」(『北海道史研究』第11号、みやま書房、1976年9月)などが最初の手がかりになる。

円の懸賞を附して目下搜索中なりと〔後略〕

「古代の武具を纏ふ／紀念熊祭」

『釧路新聞』1915年10月22日付け3面

●古代の武具を  
纏ふ紀念熊祭

釧路村字春採青年会は来月上旬を以て京都に敢行遊ばさる、御即位御大典を記念すべく釧路支庁管内の愛奴約三百人を招集し古式に則り盛大なる熊祭を挙行せんと議あるは曩きに屢々報道せし如くなるが愈々同村青年会員結城庄太郎、竹越半次郎之が主催となり来る二<sup>(ママ)</sup>十<sup>(三十一)</sup>一日の佳節を以て釧路測候所側空地に於て挙行と決せり然して古代熊祭の型式を以つてなすに就ては愛奴酋長の着用せし武具の蒐集、五千人を入場せしむべき小屋掛、各部落より二百有余の大勢を集むるに以て之が<sup>(ママ)</sup>出費に就てはマンロー博士が熊祭の模様をフィルムに納むる料として寄贈する百円を除き他に支出の途なきが為め一人に付二十銭づゝの入場料を徴し幸に剰余金を生ぜば之を以て春採神社建設の資に充つべしと

「熊祭の副産物に／蝦夷土産発行」

『釧路新聞』1915年10月24日付け3面

●熊祭の副産物に  
蝦夷土産発行

釧路村字春採愛奴組合発起に係る大典記念熊祭を来る三十一日の佳節を以て執行するに就ては一般観覧者の入場料は一人に二十銭とせるも小学生に限り同組合発行に係る蝦夷みやげ一部定価十銭を購入せば観覧無料なりと同小冊中には熊祭の縁起、儀式順序、土人歌解釈、熊物語等愛奴研究として有益の事項多しと入場券は明二十五日より幣舞坂下鶴島方外賛助員の手にて売出しの由

「紀念熊祭／前例なき大祭事／愈々明日に迫る」

『釧路新聞』1915年10月30日付け3面

●紀念熊祭  
前例なき大祭事  
愈々明日に迫る

釧路村字春採土人組合主催に係る御大典記念熊祭は予報の如く愈々明三十一日釧路測候所側空地に於て挙行すること、なれり然も従来行はれたる單純の熊祭と違ひ千載一遇の御即位大典を記念せん為めには古代の服装を纏ひ愛奴伝来の法則を以てし午前八時半先づ設〔原ルビは「せつ」〕えたる式場に厳かなる祭事を執行し漸次式を進めて午後四時半に終る前例なき正しき熊祭なれば久しく本道にあつて土人研究に従事せるマンロー博士の如き活動写真に之が熊祭の光景を撮影し歐洲人へ土産となさんと既に百金を投じて之が撮影権を獲得せしに見ても如何に其珍らしき祭事なるかを証するに足るべし猶博士の映画に納むるは七千尺以上〔一行判読困難〕師数名を引率して昨夜來釧せり然して場内には蝦夷みやげを発売して熊祭の沿革其他を伝へ別に売店を設備し廉価にて入場者の便を計るべしと而して入場券は

西幣舞角上波岡商店、鶴田茶舗頓化渡船場通入長伊藤商店、真砂町港林堂茂尻矢菅商店、中川山久支口、幣舞町鶴島商店、浦見町クズ見健蔵米町能登屋下駄店

に於て発売し猶昨夜着釧せる阿寒其他の愛奴は盛装して入場券販売に従事すべしと云へば当日こそ大盛況を極むるならん

「慘たる旧土人小学校／三大節にも町村吏員は参列しない／彼等も亦帝国の臣民であるのに」

『釧路新聞』1916年4月16日付け3面

●慘たる旧土人小学校

三大節にも町村吏員は参列しない  
彼等も亦帝国の臣民であるのに

町村の小学校は凡て所在町村費で設立維持される、もので教員の俸給、校舎の修繕皆町村民の負担する町村費で支弁するのだが春採と白糠の旧土人学校丈は全然町村費と無関係で国費の旧土人保護費中の教育費で一切の所要費を支弁されて居る、同一町村内で他の学校と趣きを異にし国費のみで維持されるのだから勢ほひ其町村かも<sup>(ママ)</sup>恰も継子扱ひにされて居る様な観がある、国費と雖も経費が充分に配付せらるゝなら格別極めて切り詰めた少額であるから一層<sup>みぢめ</sup>慘澹なものだ、大正三年の春採、白糠両土人学校経費は七百三十円即ち一校宛三百五十円強であるが之を他の町村立小学校に比較すれば桂恋小学校六百四十四円、天寧小学

校四百二十三円、別保小学校五百五十九円、双河邊小学校四百八十七円と多大の差がある、桂恋、天寧、別保、双河邊の各小学校は何れも児童数に多少の差こそあれ同じく一学級で規模は畧春採、白糠の旧土人学校と似て居るのみならず天寧の如き其児童数遙かに之れよりも少ない、然るに旧土人校の経費は以上の如く甚だ不充分であり且つ町村と直接関係のない国費負担だから校舍修繕器具機械の新調修繕も到底他町村立学校の様に行届かぬ、尤も釧路町でも白糠村でも此の事情に顧み国費に対して補助すると云ふ事も出来ないから旧土人学校の後援となる団体へ若干の補助金を交付して居る、釧路町は年額三十円宛春採旧土人保護会へ、白糠は年額五円宛、共有会へ各其町村会の議決を経長官の認可を経て補助して居る、斯くの如く町村も決して旧土人学校を冷遇する訳ではないが各々財力の許す範囲で補助金迄交付して居るが而も此れでも尚ほ普通の町村立学校に比し其経費が甚だ不充分だ、特に旧土人子弟の為に一校を設けて居る釧路町、白糠村は別として、他の町村で旧土人児童を収容すれば、一人につき何程と国費から（マツ）託料を支払ふ規程で、釧路管内にこ依此の依託料を請求して居る町村はないが十勝方面には沢山ある。同じく依託料を支出する位ならば、寧ろ春採白糠の両校も町村経営に移して国費から依託料を支出して呉れる方が学校の利益だらう現在の儘では三大節や卒業式にも町村吏員の参列もないし何かに付け継子の様な観があって児童教育上にも決して好影響はなからう。

### 「青年会の名案／春採は将来釧路町の台所役」

『釧路新聞』1916年4月26日付け3面

#### ●青年会の名案

春採は将来釧路町の台所役

去る廿三日春採旧土人学校で開催した春採青年同志会総会は昨紙所報の如く頗る盛会であつたが、席上結城副会長から、春採は将来釧路町の台所役を勤めなければならぬとの意見が出て、一同今後は野菜の栽培に力を注ぐ事に申合せた。東京は勿論の事、全国如何なる都市でも其都市の発達に連

れて郊外附近部落は必ず都市への野菜供給地と成って居る。釧路町では北に鳥取、南に春採が野菜供給地とならなければならぬのだが今の状態では甚だ心細い。釧路町は近い将来に必ず一万戸と成る。一万戸と成れば一戸一日四銭の野菜を用ふるとすれば一万戸一日四百円一箇月一万二千元で此の二分の一とする□六千円であるから、附近の部落は今の儘では到底此の大供給は困難だらう。春採青年会では此処に着眼して今より野菜大供給の準備に取蒐るさうだ。

### 「土人共有財産」

『釧路新聞』1916年9月29日付け2面

●土人共有財産 厚岸町旧土人の共有財産は建物、宅地、畑地、海産干場等にて総収入四千余円と成り、支出は事務費、貸付金並に配当金を合せ三千八百余円の計算となれり。配当金は七百円にして夫々各自に配付したりと云ふ。

### 「土人学校救助策如何」

『釧路新聞』1916年12月15日付け2面

#### ●土人学校救助策如何

春採土人学校は官立にて国費の学校なれば、町村とは全く無関係なれど経費が節約せられ居る丈けに、学校の設備等甚だ不充分なる為め児童の不幸尠ならず。同く釧路町に在り乍ら他町立学校の児童の如く教育上充分の施設に浴する能はず、見るも気の毒なりとて、一昨年児童保護会を設立し、釧路町にては設立と共に一年三十円宛の補助を為し来れるが、従来多数児童中学校用具をさへ充分に購求し難く、教科書、筆紙墨は勿論、寒中単衣一枚にて通学するものもありし状態なりしも、此の補助にて児童等は漸く不足勝乍ら其日の通学に差支を生ぜず、僅かに学習を続け得られつゝあり。然れども三十円の補助金は児童学用品代に充つるが目的にて衣服其他教室用薪炭費に充つる能はざるものなるを以て、斯かる方面にも何等か救助の道を講ずる必要あり。多数児童中着類の不充分は勿論学校の薪炭費等不足の結果、児童が学校にて

\*1 紙面では、この「そ」の左隣に「依」がある。おそらく、この二文字が入れ替わってしまった誤植で、「国費から委託料を支払ふ規程で釧路管内にこそ此の委託料を…」だったろう。

充分に暖を取るさへ出来ざる様如何にも同情に堪えざるものありと。

「土人特種教育」

『釧路新聞』1916年12月23日付け2面

●土人特種教育 本道土人教育は以前より特別教育法を施行し来れるも、俵長官は特に調査を遂げたる結果不備の点多しとし、特種の教育法を発令すべく詳細次報すべし。

「管内旧土人の教育は依然年限を短縮せぬ」

『釧路新聞』1917年3月10日付け3面

●管内旧土人の教育は依然年限を短縮せぬ

旧土人なりとて小学校の学齢に関しては従来何等一般他児童と異なる事なく、就学の始期は同く満六歳に達せし翌学年よりとし、尋常科は六年満十四歳に至る八箇年間は強制して就学せしめらるゝ、<sup>(7)</sup>練務あるものなりしが、今回教育規程改正の結果、旧土人に限り特に

▶満七歳に達せし翌学年を就学始期とし一箇年丈け後れ、尚ほ尋常科を四箇年と定められたり。即ち観様に依つては一種の侮辱にて、旧土人は元來が低能なれば六箇年就学せしむるも何等其効なかるべく就学始期亦一年を後れさせ全然義務教育を廢する訳にも行かざれどせめて

▶四箇年位就学せしめたらんには其れで沢山なりとの意に受取れるも、勿論斯程迄侮辱したるに非ず、余りに画一に偏しては反つて弊害あり、旧土人の現在の家庭状況に顧み寧ろ斯く改正する方實際に適切と見て改めしならんが、釧路管内の旧土人を交へる小学校にては何れも今回従来通り六箇年を修業年限とする事に其町村より認可申請し来り。

▶旧土人のみを収容する学校とし来り収容する学校とても同く便宜六箇年の修業年限制を採る事とならんと。

〔天声人語〕

『釧路新聞』1917年11月23日付け2面

■天声人語 旧土人保護の折角の官立小学校が事実にて於て却つて土人虐待の現象を示して居るに至つては断じて傍観は出来ない▷彼等が喜び勇んで此の自分等の為めの学校に通学するなら保護の実が拳がらうけれど父兄も児童も泣いて迄も他普通小学校を熱望して止まぬと聞いては到底此儘に捨置けまい

▷恁麼\*<sup>1</sup>事実を座視する様では保護法も何もあつたものでない▷官立だから支庁や役場の知つた事でないと捨て置くのは余りに冷遇過ぎはせぬか

▷殊□旧土人の子弟とて幼児から教育に意を用うれば日本人同等の能力を養ふ事が出来る事は明かなのだから、一層此儘に放任して置くべき事でない。観察に依つては是れも一種の人道問題だ。

〔後略〕

「旧土人教育上の危機／特設の学校へ通ふを嫌う風潮あり／彼等父兄の心事にも亦同情に値す」

『釧路新聞』1917年11月23日付け3面

●旧土人教育上の危機

特設の学校へ通ふを嫌う風潮あり

彼等父兄の心事にも亦同情に値す

旧土人保護の趣旨にて設けられたる官立小学校は管内にて春採と白糠との二校なるが、此の旧土人小学校は中々予期の実績を挙げ得ざるが如き傾向ありとの事なり。

◇両校共創立古く、受持教員亦他校の如く頻々たる転任等なく、銳意土人教育に没頭し全く是れが為めに一身を捧げて顧みざる程の献身的の人を得居るに拘らず容易に見るべき成績なきは、主として彼等の能力が然らしむるに非ずやと思はると。幸ひにして春採は其学校の位置が釧路町と接近し居れる結果年々多数の視察客あり、時には

◇高位大官来訪も珍らしからず、加へて学校所在地に青年会の設けもあり、時々青年会の会合あつて講演の催しもある事とて、児童又は学校卒業生等も是れに感化せられ、所謂人心統一とも云ふべき方面の成績挙がれるやに見受くれど、白糠の方は參觀者などの訪問甚だしく、且つ貯金会様の団

\*1 じんも、にんも。このような、このように、の意。原ルビは「こんな」。

体創立せらるゝ□常に

◇活動怠りなき青年会又は是等施設を見るに至らざるに因るが、春校に比し幾分の遜色あるが如し。勿論青年会に就ては熱心奔走するものもあれば或は近く実現せらるゝやも計られず斯かる暁は是れに相当感化を受けて春採に劣らざる結果を得る難からざるべし。然れども此所に

◇遺憾とするは近頃彼等旧土人の子弟にして特に彼等の為めに設けられたる此の官立小学校に通学を厭ふものあり。単に一二特殊の子弟に限らず、是れが一般の傾向なりと云ふに至っては到底此儘に放任し置き難かるべし。第一彼等の父兄が既に其児童を此所に通学せしむるを好まざるが白糠にては何等聞く所なけれど、

◇春採部落に在っては、官立小学校通学区内の旧土人父兄にて態々第三学校を訪ひ是非共自分の子弟を本校に入学許可せられたしと希望し来るもの尠なからず。学校にては折角官立小学校のある事なればと説諭するにも拘らず、体操も無い運動会も無い学校だから通学させるのが嫌だし児童等も

◇肩身狭く感ずる様なり、子の可愛さに変りなし、折角学校へ入れて下さる有難い思召しがあるなら日本人と同一の学校に入れて貰ひたしと、中には子を連れた母親が学校の玄関に座り手を合せて拝むもあり。衷情如何にも同情に堪えず、出来得べくんば彼等の希望を容れたけれど事情已むを得ずとて、

◇涙と共に説諭の上帰宅せしむるなりと。日本人と同一学校に収容しては能力に相違のある彼等は反つて悪傾向を来すならんとの危惧より特別に彼等のために特殊小学校を創立したるなれど、今日にては情が仇となり彼等は此所に収容せらるゝが為めに

◇苦痛を感じ居るが如く見受けらると。凡ての児童が斯うでもあるまじけれど兎も角注意を払はざるべからざる現象なり。

### 「メノコの鼻息／和人よりも荒い」

『釧路新聞』1918年3月15日付け3面

◎メノコの鼻息  
和人より荒い

女中や下婢の払底から近頃需要者側に於ては窮余の一策としてメノコの起用に努めつゝある事は既

報した通りであるが、メノコも釧路付近に於ては殆ど和人の女連以上の収入あり、其の生活の贅沢振りは和人の下層社会などは到底及ぶ所でなく、近来活動写真館や劇場あたりに愛奴族の看客多きを見て其の一般は分るが、大体此の如き次第なれば、幾ら需要者が甘言を以て是れを雇はんとしても容易に応じない相だ。殊に是れよりは気候も追々暖かなくなり、彼等の仕事も繁忙期に入るので反対に向ふから雇ひ入れたいと云ふ鼻息である相な

### 「蝦夷征伐・種族闘争の縮図／教科と教授との矛盾？／茂尻矢街頭の社会悲劇」

『釧路新聞』1918年5月18日付け3面

#### ●蝦夷征伐・種族闘争の縮図

◇◇教科と教授との矛盾？◇◇

◇◇茂尻矢街頭の社会悲劇◇◇

再昨日の事、茂尻矢で小学校の児童四五名が愛奴征伐だ坂上田村磨が蝦夷征伐だとして春採からでも来たらしい旧土人の子を追ひ廻して居た、此の子には親が付いて居たので、強ち苛められると云ふ程の事もなくして済んだが児童等の方では  
▷蝦夷征伐を行つた坂上將軍だと称し大得意の態である田村磨の蝦夷征伐とは誰に教はつたと聞いたら読本にも歴史にもある学校で先生に教はつたと云ふ釧路には春採、白糠に土人学校があるし此の他旧土人の居住する町村では

▷彼等の子弟が皆普通小学校に入学して居るから管内を通ずる時は旧土人児童数決して少くない春採旧土人学校は第三学校長松村清三氏が兼任校長である若し土人学校で使用する教科書にも蝦夷征伐の項があるなら

▷教科上多大の支障がありはせぬかと訊いたら実に教育上由々敷問題であるが国定教科書を使用せしめられ居るを以て支障あれど全然是れを教授せぬ訳には行かぬ如何にも蝦夷征伐の項あり幼な心にも自分等の祖先が

▷倭人の為征伐せられたと知る可けれど任意に教科書の改竄は出来ない特に出来る限りの手心を命じ強ひて彼等に斯かる項目の詳説を聞かせぬ様に□配して居るとの事だ然れども各小学校にては何処も同様に此処に

▷注意を払つて居るや否や一方に彼等の衛生状態等に就ては多大の注意を払ひ種族滅亡を防がんと

して居るに拘らず教科書で蝦夷征伐を説くとは甚だ矛盾の処置だ少数の旧土人子弟の為に台湾朝鮮の如く特に

▷別な教科書を撰定する事も不可能であらうが土人と倭人の子弟を混同に教育する学校で彼等の前に蝦夷征伐の物語を詳説す学校がありとすれば所謂旧土人保護の為に由々敷大問題である。

「熊狩りの名人／俵長官より大銀杯を贈らる」

『釧路新聞』1918年9月20日付け3面

●熊狩りの名人

俵長官より大銀盃を贈らる

川上郡虹別村西別鮭孵化場附近に居住し居る旧土人の榛幸太郎は熊取りの名人にて、多くの熊取り武勇物語りを有する主人公なるが、同人は同地方に於て一勢力を有し、且つ公共事業に熱心にして評判の者なり。而して昨年秋俵長官の根室標津原野を横断して西別孵化場に至る際、途中まで出迎へ亦其の翌朝は長官に得意の武勇物語一席を語り、頗ぶる興味を深からしめ尚熊皮を約束せしが、今春見事の大熊を獲たるを以て、其の皮を西別孵化場主任内海技手を経て長官に贈りしが、今回長官よりは直径五寸の大銀杯の中には俵家の定紋を入れ外には贈呈榛幸太郎君正四位勲三等俵孫一と書きある見事なるものを贈られたる為め、幸太郎は大に得意となり家代々の宝物たらしめんと会ふ人毎に見せ居れりと。

「愛奴病院の新設／保護法一部改正の暁は／彼等の衛生状態も改善されむ／新設地は釧路か白老か」

『釧路新聞』1919年2月1日付け3面

○愛奴病院の新設

保護法一部改正の暁は  
彼等の衛生状態も改善されむ  
新設地は釧路か白老か

近く旧土人保護法の一部改正さるべしと云ふが、此は主として  
◇民族保護の実を挙げんが為め、彼等の健康保全に関し従来よりも更に一步を進めたるものにて、彼等のために病院をも設置すべしとするものなり。

如何に衛生に就き計る所ある□年一年彼等の  
◇健康退化の実を示すより、此儘成行きに放任する時は益々旧土人絶滅の期を早むるのみなるを以て、此所に是非共彼等に医薬の尊ぶべく病者は必ず是れに抛らざるべ〔か〕らざるを知らしむると同時に、

◇最も廉価を以て医療の便宜を与へんとて、来る新年度より本道中最も多数の旧土人を有する管内一、二の箇所に病院を設置し国費が六分の医療費を負担して、旧土人は僅か

◇四分の費用を支払ふのみにて普通の医薬を得らるることゝする計画なり。然らば病院設置の場所は何処かと云ふに、此は全く未定なれど、旧土人部落としては

◇釧路か白老なるべく、其戸口の多き点よりするも多分釧路に非ざるかと云ふ。尚ほ彼の種痘は、最早一般に普及されたる今日、強いて町村が一切の費用を負担せざるべからざる程の事情もなければ、多分

◇早晚種痘料は凡て種痘者の自弁と改正せらるる筈なれど、旧土人に至つては特に除外し依然従来通り公費を以て施行せしむる儘と据置くらん。彼等の健康保全の為めには彼等の居住

◇部落内に医師を居住せしむるは最も適切なる方法ならんと。

「差別待遇に泣／愛奴部落の児童／運動会を羨む哀な心根／根本を逸して何の保護法ぞや／特殊部落の彼等も人の子なり」

『釧路新聞』1919年3月26日付け3面

○差別待遇に泣

愛奴部落の児童  
運動会を羨む哀な心根  
根本を逸して何の保護法ぞや  
特殊部落の彼等も人の子なり

滅び行く愛奴種族の哀れは此所にも現れて居る、在籍児童十三人、今回の卒業生僅か三人とは  
◇春採土人学校の現状だ。昨今は各地の小学校と云ふ小学校何れも相次で卒業式を行ひ、幾百幾千の児童皆夫々に晴れの儀式に臨み、或は卒業し或は修了し、父兄迄が嬉々として無邪気の喜びを湛ふる間に、此所官立土人学校では、去る二十二日同く

◇卒業式を挙行したものの、元より在籍児童十三

人で卒業児童が三人と云ふ少数である上、父兄の一人も儀式に参列するものなしと云ふのだから、式とは云へど少しも晴れの気分なく形の如き勅語奉読、証書授与があるからこそ式だと思はせる位、児童にも

- ◇左程喜悦の色色がない。在籍児童数の少なきは独り此の土人学校に限らず原野方面の特別規程に基く学校には二十人未満の少数なもの決して珍らしくはないが、官立の名を冠する土人学校が
- ◇一箇年の経費教員俸給を差引いて僅々六十円と聞かば何人も余りの虐待に呆れるだらう。如何に新移住地の特別教授場なりとて、苟も一学校となれば俸給費を除き一般経費三百円を下るものは稀れである、又今日の場合
- ◇三百円以下で一校の経理が出来る筈はないのだ。然るに春採土人学校では、一箇年六十円即ち一箇月五円で一切の備品費、消耗費、さては彼の薪炭の如きさへも支弁して行かなくてはならぬ。日本國中恐らく斯かる例は又と二つある筈はない。釧路町では
- ◇特に保護会なるものを設けて年々三十円宛を補助して居るものの、三十円位の補助では全く焼石に水であらう。随つて校舎も破損次第唯成行に委せらるるので、雨は漏る風は吹き込む柵がないから夜になれば附近に放牧された
- ◇牛馬は勝手に校庭を荒し一夜にして馬糞の山を築く事もある。厳寒に薪も意の如く焚かれぬとは明かに虐待でなくて何だ、議会では保護法の改正案が通過したとて早晚本道の或る地方には旧土人のために病院も出来ると聞が、
- ◇春採や白糖は与らない。病院の如き至極結構なれど先づ此の彼等に対する教育から改めて行く必要はないか。運動会のある学校に行きたいとは彼等児童父兄一斉の熱望であるに拘らず、強ひて隔離して而も斯かる不完全な
- ◇虐待設備の儘放任するとは、如何にも気の毒である。民族自決などと類々不穏な事実をも耳にする際、斯かる境遇に置かれて已むを得ずとばかり断念して居る彼等の衷情に想到したら、誰れとて
- ◇一掬同情の涙を惜むものはあるまい。一箇月の経費五円の学校、卒業児童三人の学校、旧土人は可哀想である。

「愛奴に対する／差別教育撤廃／特例を設けては  
何うか／伝統と習慣を考量して後に／愛奴教育を  
結果から見る誤」

『釧路新聞』1919年4月12日付け3面

○愛奴に対する

差別教育撤廃

特例を設けては何うか

伝統と習慣を考量して後に

愛奴教育を結果から見る誤

折角旧土人保護の意に出でたる土人学校も、釧路地方にあつては反つて是れが虐待の結果となり、彼等は

◇父兄も児童も挙つて普通の小学校に通はせたい運動会のある学校に学ばせたいとて、規則の何者たるかを知らぬ旧土人父兄は、四月一日児童を携へて他の学校に到り、頻りに其入学を乞ふものさへあり。お前等は旧土人だから

◇土人学校に行けとは如何にも無情な謝絶の為方なれど、而も全然規程を無視する事も出来ない結果、学校当事者は涙を吞んで斯く謝絶して居ると聞くが、果然虻田郡虻田村居住の旧土人三十六人を代表したる明石四郎及び同郡

◇弁辺村旧土人 三十人総代 佐藤 菊蔵有珠郡有珠村旧土人五十六人代総代津屋栄の三名は過般道庁に尾崎内務部長を訪ひ、旧土人教育並に其所有土地の件に関し纏々陳情する所があつたと云ふ。

◇土地の件は暫く措き、教育の方は、現在の就学始期満七歳を改めて六歳とも、尚ほ土人学校をも修業年限を六年とし、地理、歴史理科の教科目をも課して貰ひたいと云ふが陳情の要旨である。如何にも土人学校は修業

◇年限が四箇年で地理歴史、理科の三科目を欠き、更に普通日本人は満六歳で入学が出来るのに彼等は七歳でなければ学校に通はれないのだ。彼等の能力を慮り殊更斯く規程したので規則の精神は一つに彼等の保護にあるのだが、

◇古い規程であるだけに今日では反つて恩が仇の現象を生んで居ると見える。就学時期を一年延期し七歳とせるは格別、修業年限の四箇年や地理、歴史、理科を教へぬなどは釧路地方に於ても一流の土人からは非常に

◇遺憾に感ぜられて居る。元より生業のために十一、二歳ともなれば学校へ通はせて置けないのが彼等の家庭の通例で、現在の四箇年でさへ生業の繁忙期には四年生の欠席が多いと云ふも、さり連

全然年限を縮め

◇教科目を省略するとなつては、彼等が虐待と誤解するも無理ではない。春採、白糠の土人学校は土人丈けの学校であるが、塘路屈斜路等に至つては土人部落なりとも特に土人のみの学校の設けなく、一般

◇和人と同様に机を並べて居るに拘らず、和人の方は四年を修業しても五年、六年と尚ほ二年の修業期日を剩し地図を開き歴史画を繙き或は実験器具機械を前にして楽しく興味ある授業を受け得らるゝも、旧土人は四年限り最早

◇お前等の学ぶ学年はないとて退学しなければならぬのだ。形式から見れば成る程虐待とも見らるゝから他地方に於て総代を出しての陳情も強ち無理ではない。彼等総代は全道一万六千人の同族のためにと嘆願したのだが、

◇釧路地方の旧土人も是れを聞いたら幾分意を強うする事だらうと。<sup>\*1</sup>

#### 「土木功勞表彰／伝達式／新谷氏の美挙」

『釧路新聞』1922年9月21日付け3面

土木功勞表彰

伝達式

新谷氏の美挙

一昨日午前十時より春採青年会の土木事業功勞の表彰伝達式を同地公会堂<sup>\*2</sup>に於て挙行せるが、其際同公会堂敷地として一反歩を寄附せる新谷礼助氏に対して、青年会より表彰状並に銀盃一個を贈呈して表彰した。尚ほ新谷氏は旧土人なるも常に部落の爲め貢献して居ると。

#### 「今年は通送人の／殉職が多かった／全道通信機関完備に／就て山岸通信局長の談」

『釧路新聞』1922年10月29日付け3面

今年は通送人の

殉職が多かった

全道通信機関完備に

就て山岸通信局長の談

吉良平<sup>〔ママ、以下同じ。〕</sup>次郎建碑除幕式参列の爲め来釧の山岸通信局長は、稲葉土木部長と同車して居る車中にて語る。

吉良平次郎の殉職行為は郵便配達夫及び通送夫等を始め通信現業員に対し多大の刺戟を与へ、効果偉大なるものあつた。勿論之は吉良の殉職行為が偉大なりしにも因るが、新聞紙が之を能く

紹介宣伝し〔て〕呉れた結果にも基く。之に就ては深く感謝に堪へない。本年職に殉じた通送夫は吉良を始め或は水害に殞れ或は賊に切られたるもの等にて十二名に及べるは甚だ遺憾であるが、而も彼等は何れも最後まで職に忠実なりしは真に広く

□般□模範たるべきものと思ふ。吉良の事蹟を撮影せる活動写真は目下全国に渉り巡回公開□であるが、其れには釧路市が立派に撮影せられ居るを以て、一面釧路市其ものゝ紹介ともなつて居ると思ふ。而して釧路の

電話交換局建築は既に設計完了し、来年融雪早々起工の筈で不燃質□二階建である〔後略〕

#### 「旧土人保護には／特殊病院が必要／既設病院の成績は良好／どし〜普及させたい」

『釧路新聞』1923年3月13日付け3面

旧土人保護には

特殊病院が必要

既設病院の成績は良好

どし〜普及させたい

特殊待遇は彼等に喜ばれる

旧土人保護の一施設として現在本道には四箇の土人病院が設けられて居る。

△沙流病院大正九年五月三十日開<sup>〔ママ〕</sup>込 △静内病院大正十年十月四日開院△白老病院大正十一年三月七日開院△浦河病院大正十一年十二月二十五日開院

大正九年<sup>〔ママ〕</sup>回 来土人の多数密居して居る地方から順次に開設したのであつて、本月九日は等の病院長を道庁に招集して院長會議を開き、互ひに各自

\*1 この記事については、堅田精司『北海道社会文庫通信』第370号（1997年12月20日付け、アイヌ史特集号）でも紹介されている。

\*2 『釧路市案内』（釧路市役所、1925年）は巻末の「名所旧跡」の中で「旧土人部落」の項目を設けているが、その中に、「〔青年〕會員奮つて公会堂を建設し、土人の宝物を陳列して遠来の観覧に供してゐる。」との記述がある。

の院況を報告し、併せて今後の方針に付き協議した。道庁にては此の会議に救療規程其他を提案し院長の意見を徴した。聞く所に依れば旧土人が此の

病院に信頼する頗る大なるものあり、最初は果して幾何の実績を挙げ得可きか一般に疑問とされて居た而已ならず旧土人自身も病院に付いては甚だ理解乏しく別に此の施設に対し感謝の意を表する傾向も無かったのだが、愈

開院となるや、従来普通医師の許に通ふ時の如く私人の間に介在して肩身を狭くする等の気兼ねなく、或は医師に通ふ為め衣類の新調などの心配もなく、而も入院加療したるものの如き病院は一種の楽園なりとばかり病氣全治するも自宅に帰るを喜ばざるが如き者さへあり。随って此の病院が直接間接の刺激となって彼等に清潔衛生の習慣を与へ知らずの間に彼等の生活を改善するの実績が挙つて居ると云ふ是に鑑みる時は今後旧土人病院の普及も必要なことであらうと。（九日札幌支局）

### 「土人学校々長更迭」

『釧路新聞』1923年5月29日付け2面

#### 土人学校々校長更迭

春採土人小学校々長鷺野運吉氏は健廉<sup>ママ</sup> 兎角面白からず辞表提出中であったが、本月十六日附依願退職となり、後任として元利尻郡雄志内小学校々長三浦政治氏が二十八日着任した。同氏は本道教育界に十九年間尽力し殊に旧土人の訓育には尠からず興味を以てある人だ。猶ほ同氏の赴任に就いては三井第三校長が斡旋大いに努めた同氏は現在代用教員とし教鞭を執るが近く資格変更の事に至るだらうと。

### 「土人保護法改正／救済方法諮問」

『釧路新聞』1923年7月22日付け2面

#### 土人保護法改正

#### 救済方法諮問

本道土人保護法を改正し救済を徹底せしむべく目下道庁に於て講究中なると共に来る二十六日より三日道庁内に之が打合せ会を開催する筈なるが、一方

土人保護法施行以来相当年数を経過し其の間経済状其他各般の社会事情に著るしき変遷を見るに至れり現下社会の情勢に鑑み改正を要する点ありと認む右に関する意見如何

とて、各支庁及び市役所に対し諮問を發したるが釧路国支庁よりは左の如く答申するに決した。

一、旧土人に対し放牧地無償下付の途開かれたし理由 当管内の如き農牧混同にあらざれば経営し得ざる地方にありては土人に対しても農業の外に牧畜を奨励するの必要あり之れが方法としては部落に共同放牧地として相当の管理方法を講ずるの要ある

二、旧土人にして農業に従事する者に農耕地の<sup>ママ</sup>分に給付せられたし

理由 實際農業に従事するには尠なくも馬の一頭位を所持せざれば不便なり又前記の如く牧畜を奨励するの要あり故に最初農耕地を下付すると同時に馬一頭若くは数頭貸付し農業に使用〔せ〕しめ或は牧畜を経営せしめ農耕地の開墾並に牧畜成功の上は其馬を無償付与するの要ある

三、旧土人に対し薪炭備林付与の途を開かれたし理由 農業に従事するものに農耕地無償下付せらるゝも一般の土人は薪炭林なき為め彼等は他□林内に採取し或は流木を取集め燃料に供するが如き不規律の状況に在り依て各部落毎に相当の備林を付与し適當の監督経営の方法を講ずるの要ある

四、旧土人中優良なる者に対し官費を以て上級の学校へ入学せしむるの途開かれたし

理由 土人に対し授業料を給し或は国費を以て小学校を設立せられあるも土人中優秀なる子弟にして仍上級の学校へ入学の志望あるも貧困にて目的を達せざる者なきにあらざる者に対し国庫の費用を以て相当の学資を給与し素志を達成せしむるは斯種族の啓発保護上相当の効果ある□のと信ず尚保護救済事務打合せには支庁より松尾理事官出席する筈

### 「給与地の整理で／七万円浮ぶ／此の経費は救療に充当／従来は産業施設」

『釧路新聞』1924年11月6日付け3面

給与地の整理で  
七万円浮ぶ

此の経費は救療に充当

従来の国費は産業施設

道庁社会課では浦河支庁管内の旧土人給与地整理を結了した。是にて殆ど

全道の整理を了つた訳だが、此の結果全道を通じ土人給与地から一年約七万円の実収入が得られること、なつたから、従来国費に依り年々支出し來つた土人保護救済費六万円は是を

土人の産業奨励施設に充て、給与地から生ずる経費を以て救済方面に充当する方針にしたいと。因に浦河管内にて今回整理した地積は四百三十五町歩余で、此の内本年中に和人の手から回収すること、なつたもの

約五割五分十四年度回収二割、十五年回収一割三分、十六年回収二分、十七年回収一分で□の和人は最初若干の金を土人□貸付し此の利子として給与地を無償小作し居たもので、土人等は借りの金の多少に拘はらず

返済の意志はないのだから結局道庁から今回の整理を行はざれば永久に和人の手に収められて居るものなのだ。〔四日札幌支局〕

「旧土人保護の為／市が規程を設ける／取上となつた給与地を／貸下げて収益を図る」

〔釧路新聞〕1924年11月17日付け3面

旧土人保護の為

市が規程を設ける

取上となつた給与地を

貸下げて収益を図る

釧路市は今回旧土人救恤規程を設くるに決し本日開会の市会に提出した、従来とても市内居住の旧土人に対し

救恤を与へて居たのだが別に規程を設け一方に於いては予算を計上し□救恤を明確にしようとするのだ。而して市の之を為すに至つたのは春採土人給与地二百五六十町歩がある、然るに該給与地は昨年成功検査の結果殆ど大部分不合格に終はり道庁に取上げられ其儘となつて居るが

春採部落民に取つては好箇の放牧地となり亦耕地ともなる為市の手を経て貸下を受け行く〜は売払を受けたいとの希望を有する□対し道庁は旧土人から取上げたが之を直に市に貸付し市の収益のみを計らしむるは

面白くない□としても之より生ずる収入を以て旧

土人保護を具体的にするに於いては貸付するも差支ないとの内意を有するに依り之に應ずる為めである同規程に依ると救恤額は一生計困難と認めたるものに対し一日一人に付

二十銭以内十五歳未満のものに付ては金十銭以内とし官の救恤を受くる者なるときは其額を控除し残額を給せんとするものにして亦特に左記に該当するものは増額給与することあるものである

一独身にして六十歳以上に達し老衰したるとき

二独身若は独身にあらざるも家族六十歳以上又は十五歳未満にして疾病に罹りたるとき

三不慮の災害に依り身体を失ひ保護者又は故旧なきとき

四疾病不具者にして之を保育看護するものなきとき

五十六歳未満にして之を養育するものなきとき

六其他に於て増給の必要ありと認めたるとき月額各金三元以内

右の外疾病に罹りたるも自費にて治療し能はざる者に対しては薬価又は手術料を給し死亡するも葬儀を営み能はざるときは別に五円以内を給することをも規程□て居る

兎も角何れに設定の意□発したりとするも別に規程を設け彼等衰□に赴きつゝある

民族を保護せんとすることは極めて當を得た処置であると言はねばならない

「虐待されたる／土人教育家／春採小学校々長の窮状／賞与も立替金も呉れぬ」

〔釧路新聞〕1925年2月14日付け3面

虐待されたる

土人教育家

春採小学校々長の窮状

賞与も立替金も呉れぬ

義務教育費国庫負担が朝野を挙げて矢筒間敷く叫ばれて居る此頃此所には反つて

国庫支弁を呪ひたいやうな事実がある、旧土人教育の為に国家が設立して居る釧路市春採小学校の三浦校長には昨年末ピン厘の賞与金も当らなかつた全国を通じ額の多少は別として年末賞与が一文もない学校は恐らく此の春採小学校ばかりだらう三浦氏は職業柄恚<sup>こんな</sup>は一言半句も他に漏さず是も国家財政緊縮の影響だらうと断念めて居たらしいが氏の友人某氏は氏が年末に際して

餅さへ搗かず

九人の家族を抱へ余りに寂しき生活振りに不審を懐き賞与額を聞いたら氏は洪々乍ら何故か本年に限り一文の賞与も支給されないのみならず学校用品の立替金積り積もって八十余円に達したが是さへも

弁済されなかつた実は是が為め生れて初めての窮迫のドン底に陥り家族に対して三度の食事も成る可く節約するやうにと戒めて居る始末と語つたと勿論此の学校は経費一切国費支弁であるから道庁から支庁を経て所要額を給されるので従来此の賞与の無かつた年はない而して例年は道庁が支庁に経費を送致する際年末賞与に当る金は別に残して置き其時期になつてからは是を送るのだが昨年は是を一括して送つて仕舞ひ当時特に此の事を附言した筈だが支庁では<sup>つひ</sup>遠

慣例通りに賞与は追つて別に来るものとして最初に送られた金の中より賞与額を控除せずに支消した結果年末になつてから動きのとれない羽目に陥つたのらしい、事情は何れであつても従来の慣例を破り年末に一文の賞与も支給せず一人の教員と九人の家族に正月らしい正月をさせなかつたことは軽からぬ遺憾事であり殊に旧土人教育に従事して居るものに対し斯る虐待を敢てすることは其

影響する所少くあるまいと見られる(札幌支局)

### 「工事にとりかゝつた／春採の「情け宿」／塚野さんの胆煎りで／年内に竣成の見込み」

『釧路新聞』1925年12月14日付け3面

工事にとりかゝつた

春採の「情け宿」

塚野さんの胆煎りで

年内に竣成の見込み

塚野公二郎さんの所謂共産村と貧窮土人収容所は恵まれない旧土人にとつて何ものにも代へられない温かい響きを伝へてゐる、一昨日から地均し工事に着手したから年内には完成するだらうと語つてゐた此の事業に感奮興起したのは春採青年団員である、無報酬で我同族の為めにといつた心意気から地均しは勿論大工の手心ある者は建前の方へ又は材料運搬といった調子で一生懸命だ、市役所の社会課が無料宿泊所を目論だのは所謂小金澤案で、それも経費の

関係で立ち消えになつた所へ一足お先にと此の情宿が春採に完成する、塚野さんは旧土人から神様のやうに思はれてゐる、これは決して無意味□尊称ではない自分達の部落をよりよく堅実に平和な雰囲気の中に相互の幸福を図らねばならないその為めには貧乏人の根だやしをやらねばならない仕事のない者には授産もしやう、

病気に苦しむ窮民には恵んでやつて相互扶助の精神を養はうと努力する所に、彼等は生ける神様ともいひ命の恩人とも敬称する訳だ、「私一人の働きではありませんが青年団や部落の有志達が一生懸命に働いて呉れます、現在収容しなければならぬ旧土人は男女を合して十二名をります、食糧は従来通り市の

補助によりますが薪炭料は冬期の間太平洋炭礦からでも寄贈を願ひ其の他不自由なものは私は勿論部落の青年団が補給して相互扶助でやる訳です、殊に彼等は経済観念などのあらう筈もありませんから私が主となつて監督しますが、一番心配なのは衛生施設を完備させねばならぬ事です、それも急激にといふ訳にも参りませんが階梯的に順を追ふてやるつもりです……」と釧路の春採村にも賀川豊彦が生れた訳だ、

### 「札幌より」

『釧路新聞』1926年3月5日付け2面

札幌より

三日 支局記者

◎余市の大川青年団に遠星瀧次郎と云ふアイヌの団員が居た此の青年は小学校時代の数年間アイヌなるが故に全校□生徒から非常な迫害と侮蔑を受けた

◎事毎にアイヌだ旧土人だと罵られるので瀧次郎は自分の此□世に於ける仇敵はシャモ(和人)である自分は一生をシャモ退治に捧げやうと決した◎今に見ろ俺が大きくなつたら必ず此の仇討をするぞシャモの奴等ヒドイ目に会はしてやるぞとは彼が寝ても覚ても忘れられない心願であつた

◎或る時は不逞鮮人云々の新聞記事などを見て俺も鮮人と提携して此の怨みを晴さうかと考へたことも一度や二度ではなかつた

◎其後学校を卒へて青年団に入るや此所は全然学校とは様子が變つて迫害どころか反つて非常に優遇を受ける少くとも差別待遇がない普通の団員とし

て幹部や仲間の取扱に何等の等差がない

◎団員となつて初めて自分は人間愛に接することが出来□斯うして数年間団員生活は自分の思想を一変させ小学校時代のシャモ□に対する復讐心は何時の間にか雲散霧消して今では当時を追憶することさへも罪悪の様な気がする

◎是は此の青年の告白で復讐心に燃えて居た時代にノートに書き付けた詩と此の頃の感想を陳べた歌とを相添て道庁の知人の許へ寄せて来たが是等は学校の先生□青年指導の任にある人々には何よりの参考資料だ、瀧次郎氏は今は東京に出て西川光次郎氏の下に在つて社会事業に従事して居ると◎根室管内は青年指導は却々よく行届いて居る是は偏に支庁当局に其人を得□結果であらうと云はれて居るが如何にも是に相違ない、と同時に此処□支庁は冬□閑暇□らう□ねと云ふものもあるが是は清水支庁長に聞かせられない

〔以下略〕

#### 「学園基金に／児童醸金／管内の分送付」

『釧路新聞』1928年6月2日付け3面

学園基金に

児童醸金

管内の分送付

ジョンバチエラー氏経営のアイス保護学園は、財団法人とするために各小学校にも援助を仰いでゐたが、当支庁管内各小学校では□園基金として九十一円七十九銭を醸金し支庁に於て取纏めの上此度道庁宛に送附した。各村醸出額は次の如くである。

釧路村六円十一銭 鳥取村四円八十五銭 昆布森村四円〇二銭 厚岸町二十円九十九銭 浜中村三円〇八銭 太田村二円二十四銭 熊牛村九円十銭 弟子屈村一円〇四銭 舌辛村九円四十八銭 白糠村一円 音別村十円六十五銭 足寄村六円十八銭 陸別村十三円〇五銭 計九十一円七十九銭也

#### 「春採裁縫学院に／情操的な人物を／教員に欲しいと陳情」

『釧路新聞』1938年3月16日付け夕刊2面

春採裁縫学院に

情操的な人物を

教員に欲しいと陳情

春採部落を代表して見田、新田、跡部の三氏がけさ市役所に大西学務課長を訪れ、今春四月より開校される春採裁縫学院専任教員に関して陳情した春採部落内の入学者は殆んど知識程度が低くしたがつて教員も技術のみ優秀でも情操教育方面に欠けてゐては目的を達することは出来ない、故に技術と共に情操的にも豊かな人物を選定してほしい

といふのである

#### 「春採技芸教習所開所式」

『釧路新聞』1938年4月13日付け夕刊2面

春採技芸教習

所開所式

春採ウタリ一女性唯一の教養機関として期待されてゐた裁縫学院がその名も春採技芸教習所としてのふ華々しく誕生した、所長に小川東栄学校長を戴き元実科高女教諭野原花子女史を先生に午後二時から開所式を挙行生徒二十二名に部落有志二十余名、来賓として藤野、西堀、奈良坂諸氏に市より浅村互助組合副組合長、大西学務課長、内田社会主任出席、小川所長の開会の辞に次ぎ国歌合唱皇居遙拝の後組合長式辞大西、結城両氏の来賓祝辞あり小川所長一場の訓辞を述べ盛會裡に閉式した。

#### 「屈斜路湖畔愛奴部落／有畜農業を充実／同族の桃源郷を作る」

『釧路新聞』1939年6月15日付け3面

屈斜路湖畔愛奴部落

有畜農業を充実

同族の桃源郷を作る

山紫水明、風光明媚の屈斜路湖畔に昔ながらの桃源の夢を貪つてゐた弟子屈村字屈斜路古丹の愛奴部落二十戸八十四名は、之れまで昔ながらの農業、漁業

出稼ぎ等で細々と暮しをたて、ゐたところ部落の中堅磯里鶴松、山中西三、千里常作弟子小太郎の四氏が胆入りで部落を強化するため有畜農業を充実する計画を樹て一昨年部落全体で馬一頭、牛四

頭、豚四頭、鶏四十羽を購入して着々増殖を図つて来たが、釧路国支庁では同部落を旧土人の理想郷たらしむ可く、給与地六十四町四反八畝の農耕地では部落生活を維持するためには何んとしても足りぬところから道庁と折衝して土地の増給を受ける方針で積極的に動くことゝなった。

同部落では今次事変をけい機に旧土人自体が自発的に生活改善に乗り出し昨年四月には納税組合を組織して完納の

好績を示し、また十月からは国民精神の愛国運動に沿って貯蓄組合を作りあげ毎月一戸が三十銭宛を貯金し現在までは百三十円五銭を積み立て、ゐる、また冠婚葬礼の簡易化を図り、葬儀の場合には各戸から三十銭と米五合を出し合つて、不幸の家を慰援する等和人に劣らぬ模範振りを發揮してゐるが、本年は住宅改良費道庁補助を得て三戸を新築することになつて居り旧土人保護施設の強化が叫ばれてゐる折柄、同部落の精進に全国的に誇り得るものであると指導者を喜ばせてゐる。

#### 「旧土人の学資補給調査」

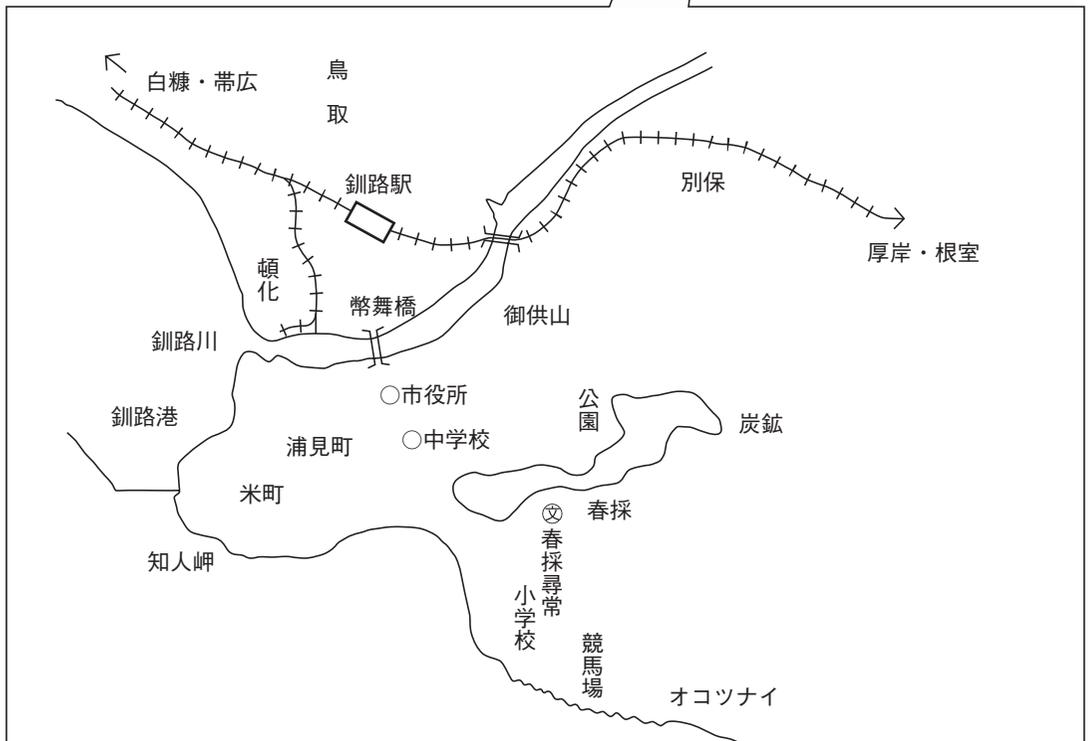
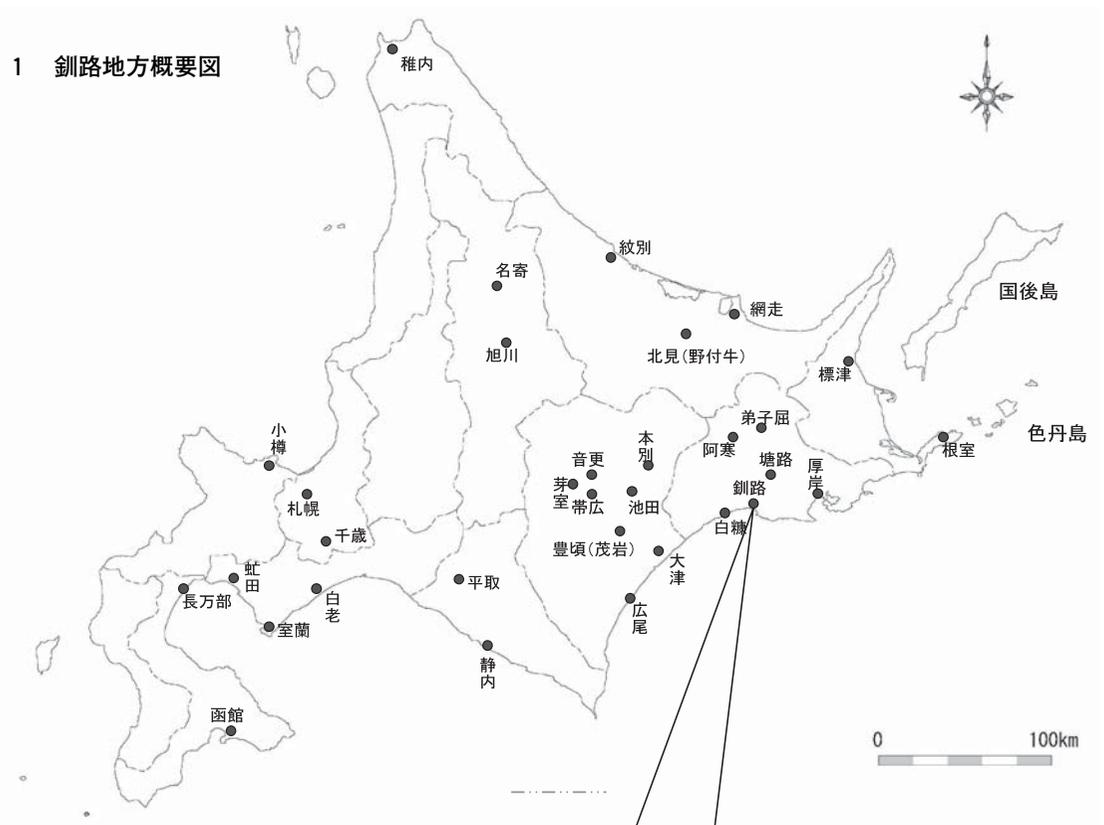
『釧路新聞』1942年4月18日付け夕刊2面

##### 旧土人の学資 補給調査

道庁では十七年度に於る本道旧土人保護法施行に基き旧土人子弟に対し学資補給をなすことゝなり各市長に該当者調査方を依命したが網走支庁でもこれが通牒に基き今日管内町村に至急調査方を通達した□管内には現在旧土人としては網走町外四ヶ町村に約百二十余名居住、子弟も四十余名に達してゐるのでこの学資補給施設は亡び行く民族にとってはこよなき朗報であらう(網走支局)

# IV 参考資料

## 1 釧路地方概要図



1922年ごろ（市制施行のころ）の釧路市

## 2 アイヌ史関係新聞記事 目録及び記事紹介の文献一覧

発行年月	タイトル、編者、発行者 収録内容など
1978.1	アイヌ文献目録 和文編、松下巨、君尹彦、みやま書房
	1975年12月までの文献を対象にした総合的な文献目録。第Ⅱ部（明治元年から昭和50年までの文献）のⅨ「新聞」に、新聞ごとの目録を収録。1945年以前では、『小樽新聞』『樺太日日新聞』『東京朝日新聞』など。ただし、多くの新聞において、収録された記事はごく一部にとどまる。
1984	アイヌ関係新聞記事 自明治二十年 至大正八年、阿部正己、北海道出版企画センター
	河野本道（選）『アイヌ史資料集 第2期第6巻 阿部正己文庫(三)』中の一分冊。原本は鶴岡市立図書館所蔵阿部正己文庫にあり、新聞記事の本文を筆写したもの。
1984	アイヌ関係新聞記事 自明治三十三年 至昭和二年、河野常吉、北海道出版企画センター
	河野本道（選）『アイヌ史資料集 第2期第7巻 河野常吉資料篇(-)』中の一分冊。新聞記事の本文を筆写したものか。
1989	アイヌ史 資料編4 近現代史料(2)、北海道ウタリ協会アイヌ史編集委員会、北海道ウタリ協会
	1872年から1985年までの新聞記事の目録と主要記事の紹介。『北海新聞』（のち『北海道毎日新聞』→『北海タイムス』→『北海道新聞』）は創刊から通覧して調査。このほか1945年以前では『函館新聞』『小樽新聞』『樺太日日新聞』などを収録。
1990	明治の光陰35年 新聞に見る登別・室蘭、葛西一夫、袖珍書林
	1878年から1889年までの『函館新聞』及び1887年（創刊時）から1912年までの『北海新聞』『北海道毎日新聞』『北海タイムス』の、登別・室蘭関係の記事目録。アイヌのみを対象とした記事目録ではないが、関係時期が多数含まれる。
2001.3	十勝毎日新聞（1920—1939年）掲載アイヌ関係記事：目録と紹介(1)(2)、小川正人・山田伸一、帯広百年記念館
	『帯広百年記念館紀要』第19、20号掲載（20号の発行は2002年3月）。『十勝毎日新聞』の1920～39年の紙面を通覧して調査。目録と主要記事の本文を掲載。
2004.3	『樺太日日新聞』掲載のサハリン先住民族に関する記事データベース、北海道大学文学部古河講堂「旧標本庫」人骨問題調査委員会、北海道大学大学院文学研究科・文学部
	『樺太日日新聞』マイクロフィルム（1910～1942）年を通覧して得られた記事4,318件（件数は「解題」による）の目録及び主要な記事120件の記事コピーを掲載。
2004.3	『室蘭毎日新聞』掲載アイヌ関係記事：目録と紹介(1)(2)、小川正人、アイヌ民族博物館
	『アイヌ民族博物館研究報告』第8、9号掲載（9号の発行は2006年3月）。『室蘭毎日新聞』など胆振・日高地方で戦前に発行された新聞を通覧して調査。目録と主要記事の本文を掲載。
2004.3	アイヌ史新聞年表 『小樽新聞』（明治期）編、河野本道、國學院短期大学コミュニティカレッジセンター
	『小樽新聞』のマイクロフィルムを通覧して調査。記事目録（記事の概要を含む）及び主要記事のコピーを掲載。この後も続けて刊行され、2010年2月時点で、「大正期Ⅰ」「大正期Ⅱ」「昭和期Ⅰ」「昭和期Ⅱ」があり、1935年までの記事が収録されている。
2006.3	『北海タイムス』掲載のサハリン及び北海道先住民族に関する記事データベース（1926.12.25—1935.12.31）、田口正夫、北海道大学大学院文学研究科
	1926年12月25日から1935年末までの『北海タイムス』マイクロフィルムを通覧して調査。記事目録及び主要な記事のコピーを掲載。
2006.8	新聞に見る石狩・厚田・浜益歴史年表、鈴木トミエ、石狩市地方史研究会
	現在の石狩市域に関する新聞記事の目録（記事の概要を含む）、主要記事の本文及び「スポット☆探索」と題してテーマごとに解説や関係記事紹介を行ったものを掲載。1895年までを収録した「明治創刊号」から順次継続して刊行され、2010年2月時点で「第6号」として1899年までを対象としたものが刊行されている。
2007.3	『サガレン新聞』（1921—1924年）掲載アイヌ関係記事：目録と紹介、田村将人、北海道開拓記念館
	『北海道開拓記念館調査報告』第46号掲載。

### 〔凡例・参考文献など〕

- ・この目録には、1945年以前を対象としたアイヌ史関係の新聞記事目録及び記事の本文を紹介した文献を収録した。
- ・直接アイヌ史関係記事を対象としたものではない場合でも、アイヌ史関係記事の情報を多く含む文献は収録した。
- ・本目録の作成に当たり、出村文理（編）「アイヌ文化関係書誌の書誌」（深井人詩（編）『文献探索 2007』金沢文圃閣、2008年5月）を参照した。

北海道立アイヌ民族文化研究センター調査研究報告書 6  
『北東日報』『釧路新聞』掲載  
アイヌ関係記事(1901～1942年)：目録と紹介

---

---

2010年3月25日発行

編・著 小川正人(北海道立アイヌ民族文化研究センター研究職員)

発行 北海道立アイヌ民族文化研究センター

〒060-0003 札幌市中央区北3条西7丁目 緑苑ビル1階

電話 011-272-8801～03 ファクシミリ 011-272-8850

<http://ainu-center.pref.hokkaido.jp>

---

---

(印刷所名) 札幌大同印刷(株) ☎011-897-9711

この報告書は、環境に配慮した再生紙を利用しています。

**Headlines and Contents of Ainu-related Articles from  
the HOKUTO NIPPOU and the KUSHIRO SHINBUN  
(Newspapers issued in the Kushiro area in east part of Hokkaido)  
1901 ~ 1942**